



RX 450h

取扱説明書



Welcome to Lexus

ようこそレクサスへ

安全、快適にお使いいただくため、本書をお読みください。



TABLE OF CONTENTS

目次

1	運転する前に	ハイブリッド車の特徴や運転するまでに必要となる操作、ご注意が説明してあります。
2	運転するときに	走行、停止の方法や安全運転の方法が説明してあります。
3	室内装備の使い方	室内装備を快適にご使用いただくための説明がしてあります。
4	お手入れのしかた	お車のお手入れ、メンテナンスに関する方法が説明してあります。
5	トラブルが起きたら	故障やバンクしたときなど、万一のときの対処に関する説明がしてあります。
6	車両仕様	車の仕様やカスタマイズ機能に関する情報が記載してあります。
	さくいん	本書に記載されている情報を五十音順などの方法で探すことができます。

次の装備は、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

- ・ GPS ボイスナビゲーション
- ・ エアコン・デフォッガー
- ・ バックガイドモニター
- ・ クリアランスソナー
- ・ ETC システム
- ・ オーディオ&ビジュアル
- ・ リヤウィンドウデフォッガー&ミラーヒーター

1 運転する前に

1-1. ハイブリッドシステムについて

ハイブリッドシステムの特徴	28
ご使用になるにあたって (高電圧・高温について)	33
エネルギーモニター／ 燃費画面	39
ハイブリッド車運転の アドバイス	44

1-2. キーの取扱い

キー	46
----------	----

1-3. ドアの開閉のしかた、 ロックのしかた

スマートエントリー& スタートシステム	51
ワイヤレスリモコン	61
ドア	63
バックドア	67

1-4. シート、ミラー、 ハンドルの調整のしかた

フロントシート	77
リヤシート	80
ドライビングポジション メモリー	84
ヘッドレスト	88
シートベルト	90
ハンドル	96
インナーミラー	98
ドアミラー	100

1-5. ドアガラス・ムーンルーフの 開け方、閉め方

パワーウインドウ	105
ムーンルーフ	109
電動サンシェード	114

1-6. 給油のしかた

給油口の開け方	116
---------------	-----

1-7. 盗難防止システム

イモビライザーシステム	120
オートアラーム	121

1-8. 安全にお使いいただくために

正しい運転姿勢	127
SRS エアバッグ	129
子供専用シート	138
チャイルドシートの取り付け ...	146

2 運転するときに

2-1. 運転のしかた

運転にあたって	156
パワー（イグニッション） スイッチ	166
トランスミッション	171
方向指示レバー	179
パーキングブレーキ	180
ホーン（警音器）	181

2-2. メーターの見方

計器類	182
表示灯／警告灯	186
マルチインフォメーション ディスプレイ	189
ヘッドアップディスプレイ	196

2-3. ライトのつけ方・ワイパー の使い方

ライトスイッチ	200
フォグライトスイッチ	203
ワイパー＆ウオッシャー （フロント）	205
ワイパー＆ウオッシャー （リヤ）	208
ヘッドライトクリーナー	210

2-4. その他の走行装置の使い方

クルーズコントロール	211
レーダークルーズ コントロール	215
電子制御 エアサスペンション	224
運転を補助する装置	230
ヒルスタートアシスト コントロール	236
プリクラッシュセーフティ システム	238

2-5. 様々な状況での運転

荷物を積むときの注意	245
寒冷時の運転	247

3 室内装備の使い方

3-1. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	252
・インテリアライト	253
・パーソナルライト	253

3-2. 収納装備の使い方

収納装備一覧	255
・グローブボックス	256
・ボトルホルダー／ ドアポケット	257
・カップホルダー	258
・コンソールボックス	261
・小物入れ	262
・アンダートレイ	263

3-3. その他の室内装備の使い方

サンバイザー	264
バニティミラー	265
アクセサリソケット／ アクセサリコンセント	266
シートヒーター& ベンチレーター	269
アームレスト	271
コートフック	272
フロアマット	273
ラゲージルーム内装備	275

4 お手入れのしかた

4-1. お手入れのしかた

外装の手入れ	282
内装の手入れ	286
タイヤについて	289

4-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	292
ガレージジャッキ	295
エンジンルームカバー	297
電球（バルブ）の交換	298
ヒューズの点検、交換	308
電子キーの電池交換	321
ウォッシュ液の補給	323

5 トラブルが起きたら

5-1. まず初めに

故障したときは	326
非常点滅灯	327
発炎筒	328
けん引について	330

5-2. 緊急時の対処法

警告灯がついたときは	334
警告メッセージが 表示されたときは	338
パンクしたときは	355
ハイブリッドシステムが 始動できないときは	366
シフトレバーが シフトできないときは	368
キーを無くしたときは	369
電子キーが正常に 働かないときは	370
補機バッテリーが あがったときは	373
オーバーヒートしたときは	378
スタックしたときは	383
車両を緊急停止するには	384

6 車両仕様

6-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ
(指定燃料、オイル量など) 386

6-2 カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ
機能一覧 392

さくいん

略語一覧 400

五十音順さくいん..... 401

症状別さくいん 413

ハイブリッドさくいん..... 416

1

2

3

4

5

6



リヤウインドウデフォッガー ※

尾灯 P. 200

給油口 P. 116

リヤワイパー P. 208

ドア P. 63

バックドア P. 67

タイヤ

●ローテーション P. 289
●交換 P. 355

バックドアオープンスイッチ
P. 67

リヤフォグライト * P. 203

方向指示灯 P. 179

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

イラスト目次

室内



A

▶ ムーンルーフ装着車

インナーミラー P. 98

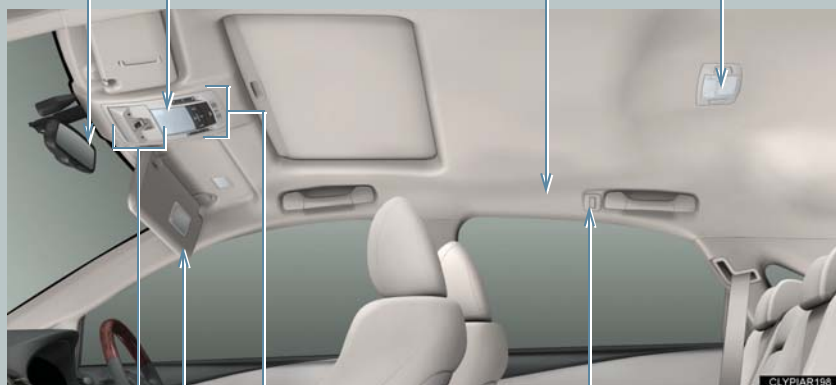
インテリアライト P. 253

パーソナルライト P. 253

インテリアライト P. 253

パーソナルライト P. 253

SRS カーテンシールドエアバッグ P. 129



コートフック P. 272

侵入センサー OFF スイッチ P. 121

ムーンルーフスイッチ P. 109

サンバイザー P. 264

バニティミラー P. 265

ヘルプネットスイッチパネル ※

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

A ▶ パノラマルーフ装着車

インナーミラー P. 98

インテリアライト P. 253

パーソナルライト P. 253

インテリアライト P. 253

パーソナルライト P. 253

SRS カーテンシールドエアバッグ P. 129



コートフック P. 272

侵入センサー OFF スイッチ P. 121

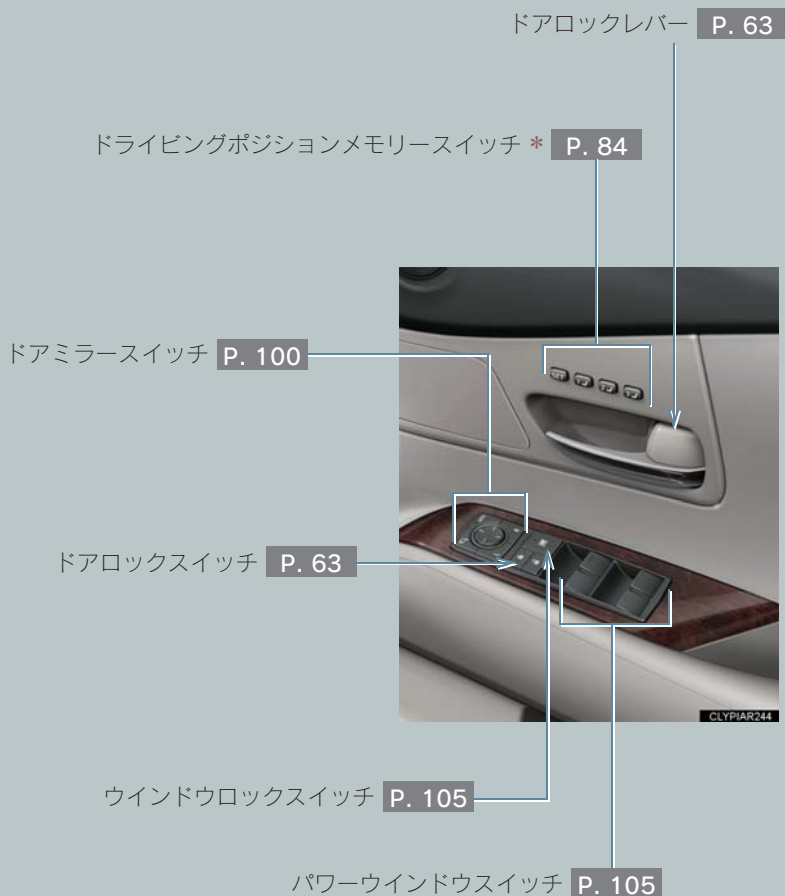
電動サンシェードスイッチ P. 114

サンバイザー P. 264

バニティミラー P. 265

ヘルプネットスイッチパネル ※

B



* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

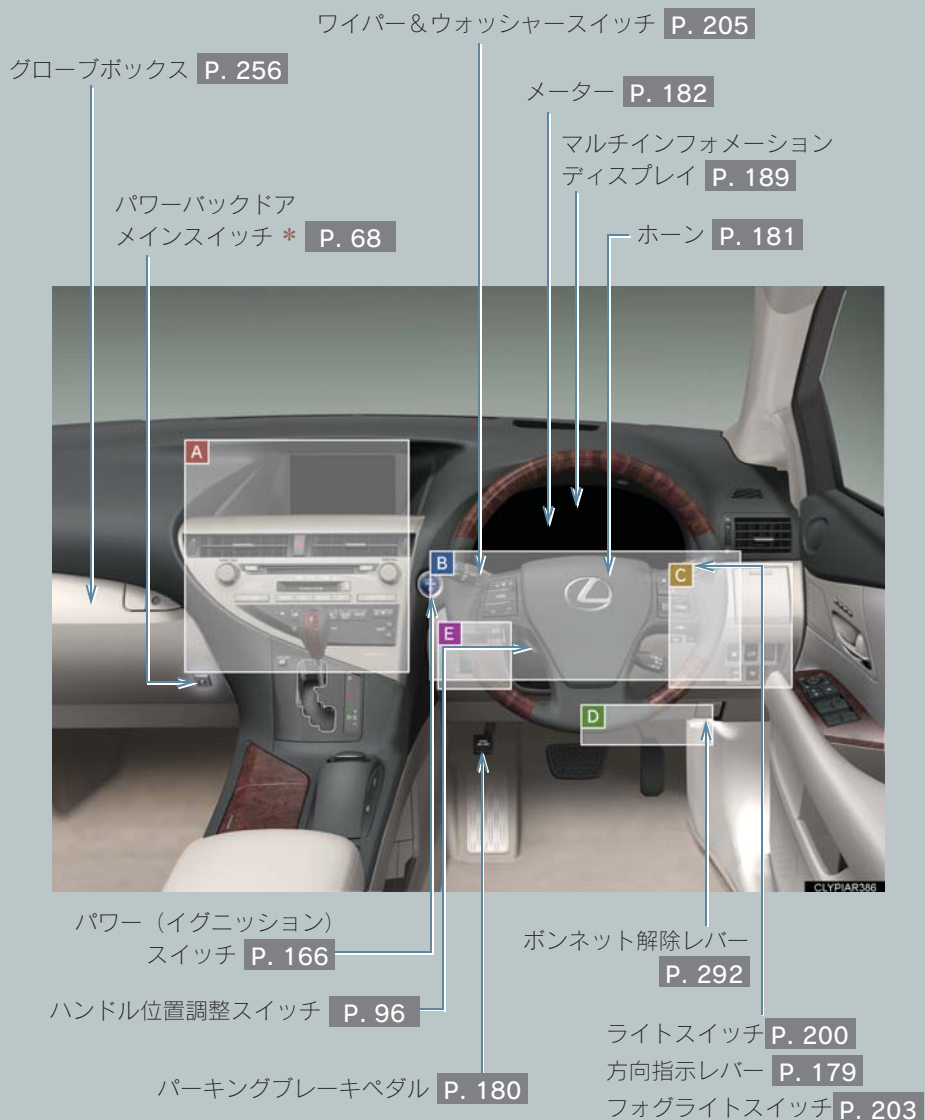
※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

C



* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。



* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

A

非常点滅灯スイッチ

P. 327

セキュリティ
インジケータ

P. 120, 121



ナビゲーション
システム ※

オーディオ ※

エアコン ※

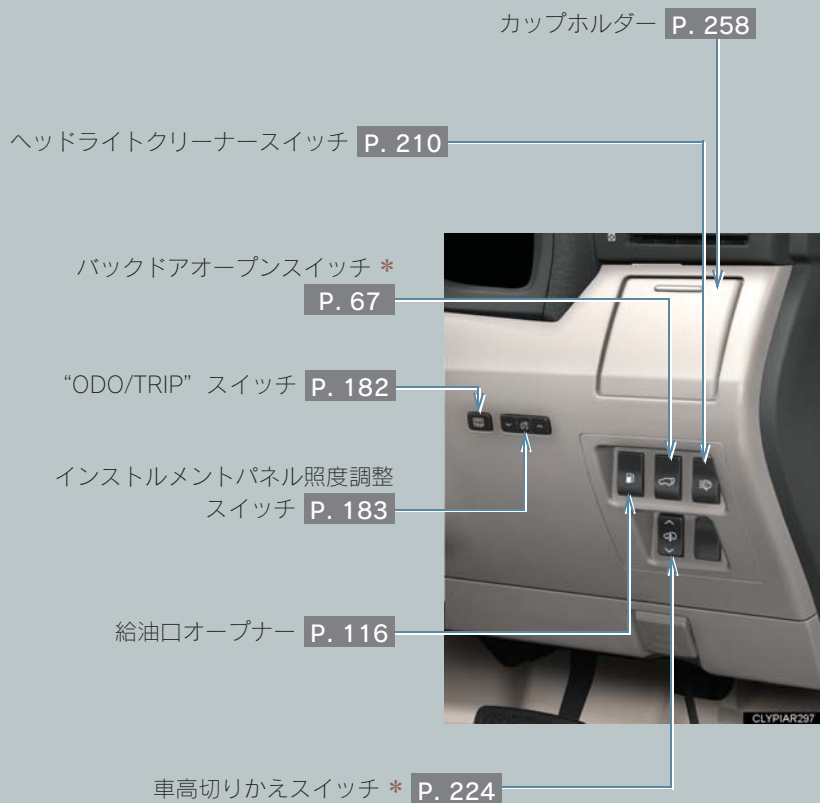
リヤウインドウ
デフォグガー&ミラーヒーター ※



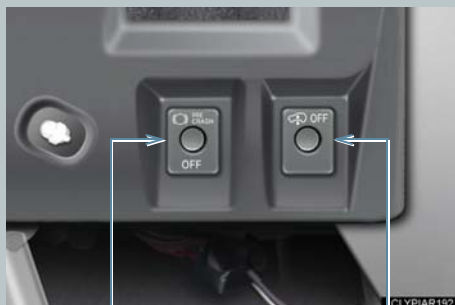
* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

C



D



プリクラッシュブレーキ OFF
スイッチ * P. 238

車高制御 OFF スイッチ *
P. 224

E

表示輝度調整スイッチ P. 196

HUD メインスイッチ P. 196

表示位置調整
スイッチ
P. 196



* : グレードなどで異なる装備やオプション装備



アクセサリ
ソケット
P. 266

デッキアンダー
トレイ P. 275

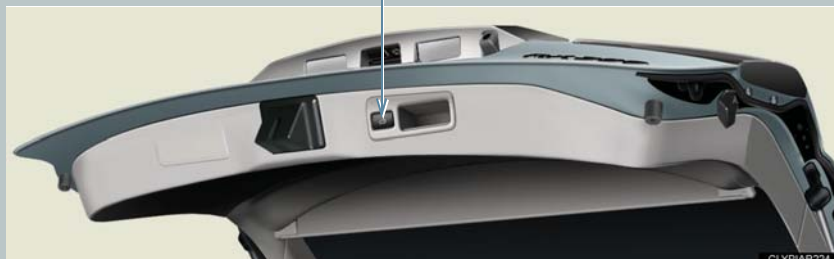
デッキフック P. 275

トノカバー
P. 275

デッキフック
P. 275

A

パワーバックドアクローズスイッチ * P. 67



B

ラゲージ
ルームライト
P. 67



リヤシート
リクライニング
レバー P. 80

車高切りかえスイッチ * P. 224

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

レクサス販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備や色と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故をおこし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはS R Sエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はレクサス販売店にご相談ください。
 - ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換。
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
 - ・ 電装品・無線機などの取り付け、取りはずし。
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
- フロントガラス、および運転席・助手席の窓ガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼りつけないでください。視界を妨げるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

運転についてのご注意

他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

酒気帯び運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

お子さまを乗せるときは

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思いがけない事故につながるおそれがあり危険です。

お車にお子さまをのせる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」（→P. 146）をお読みください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務づけられています。）

イベントデータレコーダー

お車には、最適な車両性能を維持するためのコンピュータを搭載しています。このコンピュータはシステムが正常に作動していることを診断すると共に、衝突のときや衝突に近い状態のときのデータを記録するイベントデータレコーダー（EDR）を装備しています。

エアバッグコンピュータに搭載しているイベントデータレコーダーが、衝突のときや衝突に近い状態のときに次のデータを記録します。

- ・ エンジンの回転数
- ・ 車速
- ・ ブレーキペダルの操作状況
- ・ アクセルペダルの操作状況
- ・ トランスミッションのシフトポジション
- ・ 助手席乗員の有無
- ・ 運転者および助手席乗員のシートベルト装着の有無
- ・ 運転席のシート位置
- ・ エアバッグ作動に関する情報
- ・ エアバッグシステムの故障診断情報

イベントデータレコーダーは会話などの音声や映像は記録しません。

● EDR データの開示について

レクサスおよびレクサスが委託した第三者は、イベントデータレコーダーに記録されたデータを、車の研究開発を目的に取得・流用することがあります。なお、レクサスおよびレクサスが委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意がある場合
- ・ 裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ 統計的な処理を行うなどの、使用者や車が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

ハイブリッドシステムについて

RX450h は電気モーターとガソリンエンジンを組み合わせたハイブリッドシステムを採用しています。

RX450h を安全・快適にお使いいただくために本書をしっかりとお読みください。

本書の中の表示について

警告、注意、知識について

警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

注意

ここに記載されていることをお守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれや、正しい性能を確保できない場合があります。

知識

機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について



セーフティーシンボル

“してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味を表しています。



操作を示す矢印

 スイッチなどの操作（押す、まわすなど）を示しています。

 操作後の作動（ふたが開くなど）を示しています。

運転する前に

1

1-1. ハイブリッドシステムについて

ハイブリッドシステムの 特徴.....	28
ご使用になるにあたって (高電圧・高温について).....	33
エネルギーモニター／ 燃費画面.....	39
ハイブリッド車運転の アドバイス.....	44

1-2. キーの取扱い

キー.....	46
---------	----

1-3. ドアの開閉のしかた、 ロックのしかた

スマートエントリー& スタートシステム.....	51
ワイヤレスリモコン.....	61
ドア.....	63
バックドア.....	67

1-4. シート、ミラー、 ハンドルの調整のしかた

フロントシート.....	77
リヤシート.....	80
ドライビングポジション メモリー.....	84
ヘッドレスト.....	88

シートベルト.....	90
ハンドル.....	96
インナーミラー.....	98
ドアミラー.....	100

1-5. ドアガラス・ムーンルーフの 開け方、閉め方

パワーウインドウ.....	105
ムーンルーフ.....	109
電動サンシェード.....	114

1-6. 給油のしかた

給油口の開け方.....	116
--------------	-----

1-7. 盗難防止システム

イモバイザーシステム.....	120
オートアラーム.....	121

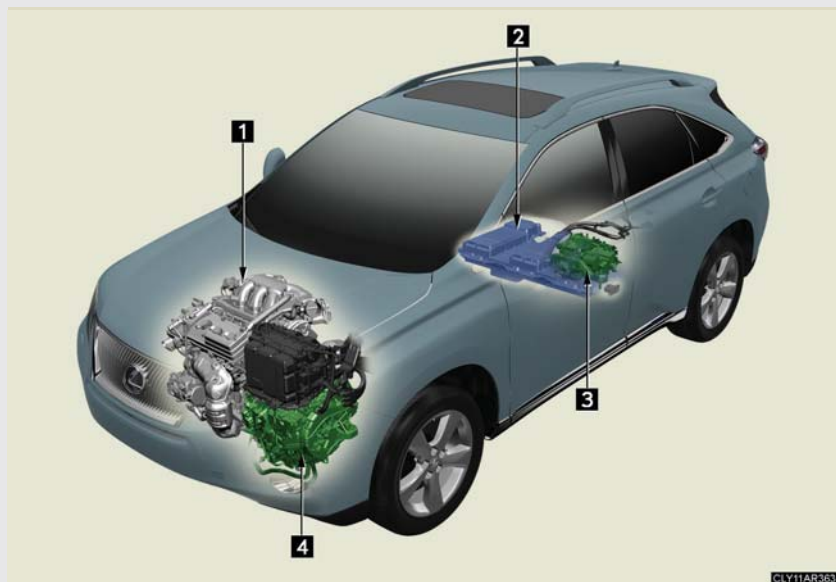
1-8. 安全にお使いいただく ために

正しい運転姿勢.....	127
SRS エアバッグ.....	129
子供専用シート.....	138
チャイルドシートの 取り付け.....	146

1-1. ハイブリッドシステムについて

ハイブリッドシステムの特徴

RX450h のハイブリッドシステムは、電気モーターとガソリンエンジンという 2 つのパワーのシナジー（相乗）効果により、優れた動力性能と低燃費化の両立を高い次元で実現したシステムです。さらに、排出ガスを低減した環境に優しい技術となっています。



※イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

1 ガソリンエンジン

3 リヤモーター（AWD 車）

2 駆動用電池

4 フロントモーター

■ 停車時、発進時、低速走行時

停車中はガソリンエンジンを停止します。

発進時は電気モーターを使って発進します。

低速走行時や下り坂走行時もガソリンエンジンを停止し、電気モーターを使って走行します。

■ 通常走行時

おもにガソリンエンジンを使用して走行します。

必要に応じて電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

■ 急加速時

ガソリンエンジンに加え、駆動用電池からも電気モーターに電力を供給し、電気モーターの出力を上げ、力強く加速します。

■ 減速時、制動時（回生ブレーキ）

車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。



知識

■ 駆動用電池の充電について

- ガソリンエンジンの動力による充電や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しずつ放電します。そのため少なくとも、2～3ヶ月に1度、約30分間ほど運転してください。

万一、駆動用電池が完全に放電し、ハイブリッドシステムを始動できないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

- シフトレバーがNにあるときは駆動用電池への充電がおこなわれません。車両停止時は必ずPにしてください。また、渋滞時などでも、DまたはSで運転してください。

■ 回生ブレーキについて

次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電するとともに減速力を得ることができます。

- アクセルペダルから足を離したとき
- シフトレバーがDまたはSでブレーキペダルを踏んだとき

■ ガソリンエンジンの自動停止について

車両状態に応じて、ガソリンエンジンは自動的に始動・停止します。ただし、以下の状態では自動停止しないことがあります。

- ガソリンエンジン暖機中
- 駆動用電池の温度が高いとき、または低いとき
- 駆動用電池充電時
- 暖房をかけているとき

■ 補機バッテリーの充電について

→ P. 375

■ 補機バッテリーがあがってしまったり、交換などで取りはずしたときは

ガソリンエンジンの自動停止が行われなことがあります。
自動停止しない状態が2、3日続く場合は、レクサス販売店へご連絡ください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

ハイブリッド車は、READY インジケータが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気がつかない場合があります。安全のため、駐車時は確実にシフトレバーを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

ハイブリッドシステム始動後や走行中に、以下のような音やガソリンエンジンの始動・停止による振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

聞こえる音	音の意味
“コトン” “カチッ” (始動・停止時)	高電圧リレーの作動音です。 駆動用電池付近（リヤシート後部）から聞こえることがあります。
“キーン” (発進時)	電気モーターの作動音です。 ガソリンエンジンと同様に、電気モーターも回転時に音がします。また、ハイブリッドシステムが作動しているときは“キーン”という音がすることがあります。
“ヒューン” (減速時)	エネルギー回生音です。 この音がしているときは、減速時に回生ブレーキによって発電した電気エネルギーを駆動用電池に回収しています。
“シュツ” “ジー” (ブレーキペダル操作時)	ブレーキの制御にともなう作動音です。 回生ブレーキに応じて、油圧ブレーキを制御しています。
“コツコツ、カタカタ”	トランスミッションギヤの音です。 ガソリンエンジンの始動・停止時や低速走行時、およびアイドリング中に聞こえることがあります。
急加速時の ガソリンエンジン音	急加速時は、ガソリンエンジンの回転数が上がるため、通常走行時よりも大きなエンジン音がします。
“シャー” “シュー”	駆動用電池の冷却ファンの音です。 リヤシート下部の吸入口から聞こえることがあります。
“グーン、ブーン” (エアコン作動時)	エアコンの作動音です。 エアコンコンプレッサーを電気モーターで駆動している音です。

聞こえる音	音の意味
“ウィーン” (エアコン作動時)	エアコンの作動音です。 ブロワモーターの作動中に聞こえます。

■ メンテナンスや修理、廃車について

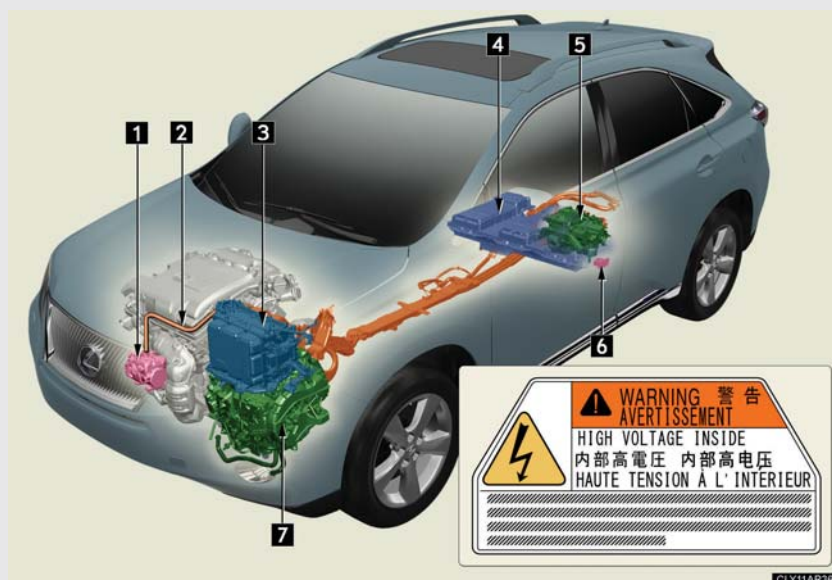
お車のメンテナンスや修理、廃車の際は必ずレクサス販売店にご相談ください。特に廃車する場合は、レクサス販売店を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

1-1. ハイブリッドシステムについて

ご使用になるにあたって（高電圧・高温について）

ハイブリッドシステムには、駆動用電池、パワーコントロールユニット、オレンジ色の高圧ケーブル、電気モーターなどの高電圧部位（最高約650V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。なお、高電圧部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してありますので、ラベルの指示に従って正しい取り扱いをしてください。

■ 主な高電圧部位



※イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

- | | |
|----------------------------------|-----------------|
| 1 エアコンコンプレッサー | 4 駆動用電池 |
| 2 高電圧ケーブル（オレンジ色） | 5 リヤモーター（AWD 車） |
| 3 パワーコントロールユニット・
DC/DC コンバーター | 6 サービスプラグ |
| | 7 フロントモーター |

駆動用電池冷却用吸入口



リヤシート下部には、駆動用電池冷却用の吸入口があります。吸入口をふさいだりすると、駆動用電池の過熱や出力低下など異常の原因となります。

緊急停止システム

事故により衝撃を受けたときなどは、ハイブリッドシステムが自動で停止し、高電圧を遮断します。また、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料漏れを最小限におさえます。

この場合、ハイブリッドシステムを再始動させることができなくなるため雷克萨斯販売店へご連絡ください。

警告メッセージ

ハイブリッドシステムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動的に表示されます。



警告メッセージは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

表示された画面の指示にしたがってください。(→ P. 338)

 知識**■ 警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたときは**

ハイブリッドシステムを再始動できないおそれがあります。

もう一度始動操作をしてもREADYインジケーターが点灯しない場合はレクサス販売店にご連絡ください。

■ 補機バッテリーを再接続したときは

→P. 375

■ 電磁波について

- 高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。
- アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■ ガス欠になったときは

ハイブリッドシステムの始動には、燃料が必要になるため、電気エネルギーのみでの始動はできません。

ガス欠でハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯（→P. 336）が消灯するまで給油してから再始動してください。少量の給油では始動できない場合があります。（給油量は車両水平状態で約 10L です。車両の傾きによって給油量はかわります。）

■ 駆動用電池について

駆動用電池には寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

⚠ 警告

■ 高電圧、高温について

この車は、高電圧システムを使用しています。

以下のことをお守りいただかないと、やけどや感電など生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 高電圧部位、高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし、分解などは絶対におこなわないでください。
- 走行後はハイブリッドシステムが高温になります。車に貼ってあるラベルの指示に従い、常に高電圧、高温部位に注意してください。



- サービスプラグが駆動用電池に設置されています。サービスプラグはレクサス販売店にて車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。取り扱いを誤ると感電のおそれがあるため、絶対にさわらないでください。

 警告**■事故が発生したときは**

以下のことをお守りいただかないと、感電など生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 続発事故防止のため安全な場所に停車して、シフトレバーを P に入れ、パーキングブレーキをかけ、ハイブリッドシステムを停止する
- 高電圧部位、高電圧の配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない
- 車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対さわらない
- 液体の付着や漏れがある場合は絶対にさわらない
駆動用電池の電解液（強アルカリ性）が目や皮膚に触れると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。
- 万一、車両火災が発生したときは、消火器を使用して消火する
水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。
- タイヤが接地した状態でけん引しない
電気モーターから発電され、破損の状態によっては、漏電による火災のおそれがあり危険です。必ず4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。（→ P. 330）
- 車の下の路面などを確認し、液体の漏れ（エアコンの水以外）が見つかった場合、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがあり危険ですので、始動しないでください。
この場合は、レクサス販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。



警告

■ 駆動用電池について

駆動用電池を不法に投棄または放置すると、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位にふれた場合に、感電など生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。

■ 駆動用電池の回収について

廃車する場合は、必ずレクサス販売店にご相談ください。

駆動用電池は、レクサス販売店を通じて回収を行っていますので回収にご協力ください。



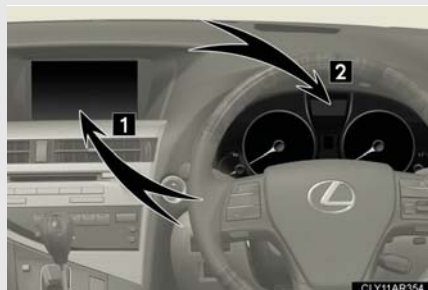
注意

■ 駆動用電池冷却用の吸入口について

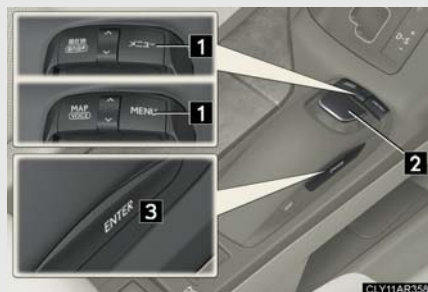
- 吸入口の前に荷物などを置いたりしないでください。
吸入口がふさがれると駆動用電池が過熱したり、故障や出力低下の原因となります。
- 吸入口は、目詰まりしないよう定期的に清掃してください。
- 吸入口に水や異物を入れないでください。
駆動用電池を損傷するおそれがあります。
- 駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないよう注意してください。
誤ってこぼしてしまったときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

1-1. ハイブリッドシステムについて エネルギーモニター／燃費画面

ハイブリッドシステムの状態を、ナビゲーションシステムの画面やマルチインフォメーションディスプレイに表示します。



- 1 ナビゲーションシステム画面
- 2 マルチインフォメーションディスプレイ



リモートタッチ

- 1 メニュー／MENU ボタン
- 2 リモートタッチノブ
- 3 ENTER ボタン

エネルギーモニターの見方

- ナビゲーションシステム画面で表示するには



リモートタッチのメニュー／MENU ボタンを押し情報画面を表示する。



を選択する。



を選択する。

燃費画面が表示されたときは、

エネルギー を選択します。

- マルチインフォメーションディスプレイで表示するには：



ENTER スイッチを上下に操作して
エネルギーモニターを表示させる。

	ナビゲーションシステム画面	マルチインフォメーションディスプレイ
電気のエネルギーで走行しているとき		
ガソリンと電気の両方のエネルギーで走行しているとき		
ガソリンのエネルギーで走行しているとき		
駆動用電池に充電しているとき	 	
エネルギーの流れがないとき		
駆動用電池の残量表示	少ない 多い  ⇔ 	少ない 多い  ⇔ 

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ 毎分燃費の見方

手順 1 メニュー / MENU ボタンを押し、 を選択する



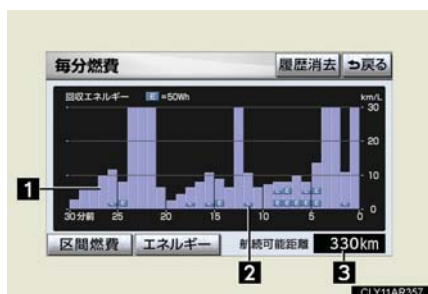
を選択する

手順 2 情報画面の  を選択する



を選択する

エネルギーモニターまたは区間燃費が表示されているときは、 を選択します。



- 1 過去 30 分間の 1 分ごとの燃費
(平均燃費)
- 2 過去 30 分間の 1 分ごとのエネルギー回収量
- E マーク 1 つが 50Wh です。
- 3 航続可能距離 (→ P. 43)

■ 区間燃費の見方

手順 1 メニュー／MENU ボタンを押し、 を選択する

手順 2 情報画面の  を選択する

エネルギーモニターまたは毎分燃費が表示されているときは、 を選択します。



1 過去最高燃費

2 通算燃費

マルチインフォメーションディスプレイの通算平均燃費をリセットすることの平均燃費履歴を最大で過去5回分表示します。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

知識

■ 燃費データをリセットするには

毎分燃費画面で  を選択すると、過去 30 分間の平均燃費、エネルギー回収量がリセットされます。

区間燃費画面で  を選択すると、通算燃費、最高燃費がリセットされます。

■ 航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を示します。

表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

ハイブリッド車運転のアドバイス

環境にやさしく経済的な運転のためには、以下のことを心がけてください。

■ ハイブリッドシステムインジケータの利用

メーター内のハイブリッドシステムインジケータの針をエコエリア（グリーンエリア）の範囲に保つことで、より環境に配慮した走行が可能です。（→ P. 182）

■ 減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、緩やかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

■ 渋滞

加速・減速の繰り返しや、長い信号待ちは燃費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

■ 高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルをもどしゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

■ エアコンの ON / OFF

必要時以外は OFF にしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環に設定しましょう。エアコンへの負荷が減り燃費向上につながります。

冬季：ガソリンエンジン・車室内が暖まるまで、ガソリンエンジンが自動停止しないので、燃料を消費します。また、過剰な暖房をさけると、燃費向上につながります。

■ タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。(→P. 390) タイヤ空気圧が適切でないと、燃費の悪化につながります。

また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では燃費の悪化につながります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

■ 荷物

重い荷物が積まれていると、燃費が悪化します。不用な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様に燃費の悪化につながります。

■ 走行前の暖機運転

ガソリンエンジンが冷えている時は、ガソリンエンジンの始動／停止を自動的におこないますので、暖機運転は必要ありません。

なお短距離走行のくり返しは、暖機運転のためのガソリンエンジン始動がひんぱんに行われることになりますので、燃費の悪化につながります。

1-2. キーの取扱い

キー

お客様へ次のキーをお渡しします。



1 電子キー

- ・ スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→P. 51)
- ・ ワイヤレスリモコンの作動 (→P. 61)

2 メカニカルキー

3 キーナンバープレート

4 カードキー (電子キー)

スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→P. 51)

メカニカルキーを使うには



メカニカルキーを取り出すには、下記の操作を行ってください。

電子キー：解錠レバーをスライドしてキーを取り出す

カードキー：解除ボタンを押してキーを取り出す

メカニカルキーがキーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きを覚えて挿し込んでください。片溝キーは、挿し込み方向に指定があります。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。(→P. 370)

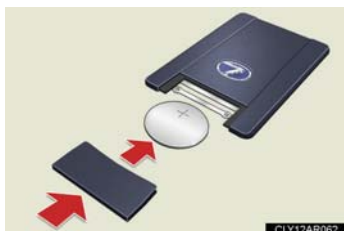
知識

■カードキーについて

- カードキー内蔵のメカニカルキーは、カードキーが正常に作動しないなどの緊急時にのみ使用してください。
- メカニカルキーが取り出しにくいときは、ボールペンの先などでロック解除ボタンを押してください。引き出しにくいときは、コインなどで引っかけてください。



- メカニカルキーをカードキーへ入れるときは、ロック解除ボタンを押しながら奥まで入れてください。



- 電池カバーがはずれたときやぬれたときに電池をはずした場合は、電池の＋極をレクサスエンブレム面側にして取り付けてください。

- カードキーは非防水です。

■ 駐車場などでキーを預けるときは

必要に応じてグローブボックスを施錠します。(→P. 256)

メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

■ キーナンバープレート

車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。万一、メカニカルキーを紛失した場合、レクサス販売店でキーナンバーから新しいキーが作製できます。(→P. 369)

■ 航空機に乗るときは

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

 注意**■ キーの故障を防ぐために**

以下のことをお守りください。

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■ 電子キーについて

電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守りください。

- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用ください。

■ キーを携帯するときは

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。

■ スマートエントリー&スタートシステムの故障等で販売店に車両を持っていくときは

車両に付属している全ての電子キー（カードキーを含む）をお持ちください。



注意

■ キーを紛失したときは

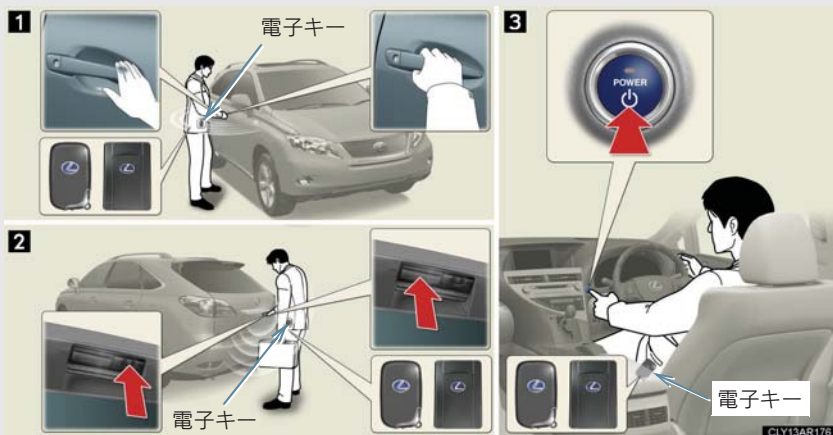
電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーとカードキーを全てお持ちのうえ、ただちにレクサス販売店にご相談ください。

■ カードキー取り扱いの注意

- メカニカルキーをカードキーに挿し込むときは、無理な力を与えないでください。カードキーが破損するおそれがあります。
- 電池やカードキーの電極がぬれた場合は、電池が錆びて作動しなくなるおそれがあります。
水の中に落としたときや飲料水などをこぼしたときは、ただちに電池カバーをはずして電池および電極部分を拭き取ってください。(電池カバーをはずすには、軽く持って引き抜いてください)。電池が錆びた場合は、レクサス販売店で電池を交換してください。
- 電池カバーを取りはずす場合は、押しつぶしたりドライバーなどを使用したりしないでください。
無理にこじ開けようとすると、曲がったり傷をつけたりするおそれがあります。
- 電池カバーをひんぱんに取りはずすと、電池カバーが抜けやすくなることがあります。
- 電池を取り付けるときは、必ず電池の向きを確認してください。電池の向きを間違えると、電池が急激に消耗する原因になります。
- 以下のような使い方をした場合は、カードキーの表面に傷をつけたり塗装がはがれたりするおそれがあります。
 - ・ 小銭や鍵などの硬いものと同時に携帯したとき
 - ・ シャープペンシルの先端などの鋭利なものでこすったとき
 - ・ シンナーやベンジンでカードキーの表面を拭いたとき

1-3. ドアの開閉のしかた、ロックのしかた スマートエントリー&スタートシステム

電子キーやカードキーをポケットの中などに携帯しているだけで、キーを使用することなく以下の操作が行えます。キーは必ず運転者が携帯してください。



- 1** ドアを施錠・解錠する (→P. 52)
- 2** バックドアを施錠・解錠する (→P. 53)
- 3** ハイブリッドシステムを始動する (→P. 166)

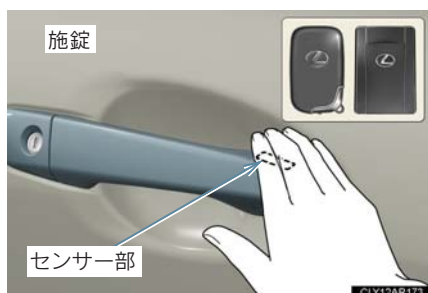
ドアの解錠・施錠（フロント席ドアハンドルのみ）



ハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

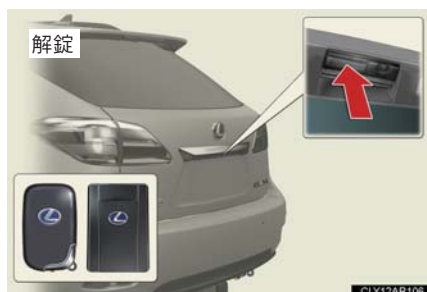
施錠操作後3秒間は解錠できません。



ドアハンドル上側のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

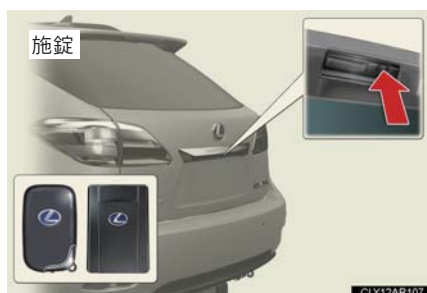
解錠・施錠がうまくできない場合は、ワイヤレスリモコンまたはメカニカルキーで操作してください。（→ P. 61, 370）

バックドアの解錠・施錠



バックドアオープンスイッチを押して解錠する

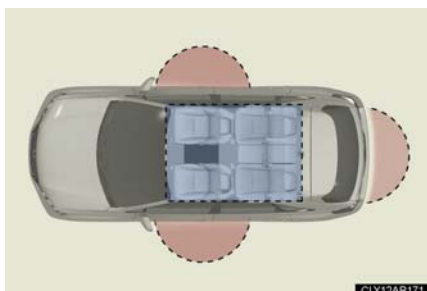
施錠操作後3秒間は解錠できません。



ロックスイッチを押して施錠する

解錠・施錠がうまくできない場合は、ワイヤレスリモコンで操作してください。(→ P. 61)

作動範囲（電子キーの検知エリア）



● : ドアの施錠・解錠時

フロント席ドア・バックドアハンドルから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します。）

● : ハイブリッドシステム始動時または“パワー”スイッチ切りかえ時（→ P. 166）

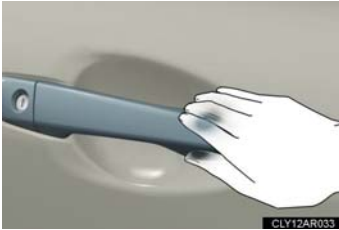
車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

 知識

■ 作動の合図

ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

■ ドアハンドル上側のロックセンサーで施錠できないときは



ドアハンドル上側のロックセンサー部にふれても施錠できないときは、上下のロックセンサー部に同時にふれてください。

■ 警告音と警告表示について

誤動作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。(→P. 338)

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のようになります。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と 10 秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠してください。
車内から“ポーン、ポーン”と 鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態で“パワー”スイッチをアクセサリーモードにした(アクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた)※	運転席ドアを閉めてください。
	運転席ドアが開いている状態で“パワー”スイッチを OFF にした※	運転席ドアを閉めてください。

※ “パワー”スイッチのモード説明：→ P. 167

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないときは

電波の状況が悪い、またはキーの電池が消耗している可能性があります。

●一時的な対処方法：→ P. 370

●キーの電池交換：→ P. 321

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所、ガソリンスタンド、放送局、大型ディスプレイ、空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所に車を停めたとき

●無線機や携帯電話、コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき

●電子キーが、以下のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

- ・アルミ箔などの金属の貼られたカード
- ・アルミ箔を使用したタバコの箱
- ・金属製の財布やかばん
- ・小銭
- ・カイロ
- ・CD や DVD などのメディア

●複数の電子キーが近くにあるとき

●近くでほかの電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、以下のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき

- ・他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
- ・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
- ・デジタルオーディオプレーヤー
- ・ポータブルゲーム機器

●リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

■電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。(カードキーは 1 年半程度で消耗します。)
- 電池残量が少なくなると、ハイブリッドシステムを停止した際に車内から警告音が鳴ります。(→P. 350)
- 電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。以下のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。
 - ・ スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
 - ・ 作動範囲が狭くなった
 - ・ 電子キーの LED が点灯しない
- 電池の著しい消耗を防ぐために以下のような磁気を発生する電化製品の 1 m 以内に電子キーを置かないでください。
 - ・ TV
 - ・ パソコン
 - ・ 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
 - ・ 電気スタンド
 - ・ 電磁調理器

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両の補機バッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

- 以下の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。
 - ・ 車の外約 2m 以内にスマートキーを 10 分以上放置した。
 - ・ 5 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった。
- 14 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレスリモコン、メカニカルキーで解錠してください。

以下のいずれかを行うと、スマートエントリー&スタートシステムが復帰します。

- ドアハンドル上のロックセンサーで施錠する
- ワイヤレスリモコンで施錠・解錠する (→P. 61)
- メカニカルキーで施錠・解錠する (→P. 370)

■スマートエントリー&スタートシステム特有の留意事項

- 電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外では解錠できません。
- 洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、電子キーが作動範囲内にある場合ドアが解錠することがあります。(ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます。)
- キーを車両に近づけすぎた状態で、ワイヤレスリモコンの  ボタンで施錠すると、次に解錠しようとしたときにスマートエントリー&スタートシステムが動かないことがあります。その場合はワイヤレスリモコンの  ボタンで解錠してください。

■施錠時の留意事項

- 手袋を着けてロックセンサーに触れた場合、施錠が遅れたり、施錠されなかったりすることがあります。その場合、手袋をはずしてロックセンサーに触れてください。
- ロック操作は、連続で 2 回まで有効で、3 回目以降はロック動作しません。
- キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作を繰り返すことがあります。その場合はキーを車両から 2m 以上離れた場所に保管して、洗車等をしてください(キーの盗難に注意してください)。
- 車内にキーがあるときに、洗車機で洗車するなどして水をドアハンドルにかけた場合、警報がマルチインフォメーションディスプレイに表示され、車外のブザーが吹鳴することがあります。その場合は全ドアを施錠すれば警報は表示されなくなります。
- ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着した場合、センサーが反応しない場合があります。反応しない場合は表面に付着した氷や雪、泥を取り除いてから操作してください。
- ドアハンドルを操作するときに、爪がドアに当たる場合があります。ドアを傷つけたり、爪を割ったりしないよう注意してください。

■ 解錠時の留意事項

- 急なドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ急に入ってドアハンドルを操作したときは、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。
- 手袋を着けてドアハンドルを握った場合は、解錠が遅れたり、解錠されなかったりすることがあります。
- 作動範囲内に他の電子キーがあるときは、ドアハンドルを握ってから解錠するまでの時間が少し長くなる場合があります。

■ 長期間運転しないときは

- 盗難防止のため、電子キーを車から 2 m 以上離しておいてください。
- あらかじめスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができます。(→P. 392)

■ 電子キーの検知に関する留意事項

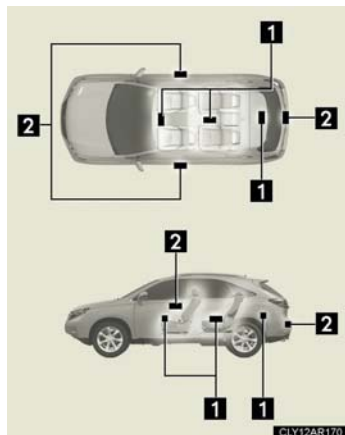
- 以下のように、電子キーの位置や持ち方に問題があると、電子キーが作動範囲内にあっても正しく検知されず、作動しないことがあります。また、誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かない場合もあります。
 - ・ 車外：ドアの施錠・解錠時に、電子キーをドアガラスやドアハンドル、リヤバンパーに近づけすぎたり、電子キーが地面の近くや高い場所にある場合
 - ・ 車内：電子キーがインストルメントパネルやフロア上、ドアポケット、グローブボックス内などに置かれている場合
- インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があり、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。

■ カスタマイズ機能

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。
(カスタマイズ一覧 →P. 392)

警告

電波がおよぼす影響についての警告



● 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を装着されている方は、室内アンテナ（**1**）・車外アンテナ（**2**）から約 22 cm 以内に近づかないようにしてください。（→P. 54）電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

● 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

1-3. ドアの開閉のしかた、ロックのしかた ワイヤレスリモコン

ドアを施錠・解錠できます。

▶ パワーバックドア非装着車



- 1 全ドアを施錠する
- 2 ドアガラスとムーンルーフ*を閉める（押し続ける）※
- 3 全ドアを解錠する
- 4 ドアガラスとムーンルーフ*を開く（押し続ける）※

※：レクサス販売店での設定が必要です。

▶ パワーバックドア装着車



- 1 全ドアを施錠する
- 2 ドアガラスとムーンルーフ*を閉める（押し続ける）※
- 3 全ドアを解錠する
- 4 ドアガラスとムーンルーフ*を開く（押し続ける）※
- 5 バックドアを開閉する（押し続ける）

※：レクサス販売店での設定が必要です。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備



知識

■ 作動の合図

ドア：ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。

（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

バックドア：ブザーと非常点滅灯の点滅（2 回）で知らせます。

ドアガラス・ムーンルーフ：ブザーで知らせます。

■ 半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようすると、ブザーが鳴ります。

ドアを完全に閉めてからもう一度施錠してください。

■ 解錠操作のセキュリティ機能

→P. 57

■ バックドアのオープン機能

- バックドアは施錠されていても、ワイヤレスリモコンで開けることができます。

- ワイヤレスリモコンで開閉したあとは、バックドアは自動的に施錠されません。

■ オートアラームについて

ワイヤレスリモコンで施錠するとオートアラームが設定されます。（→P. 121）

■ パワーバックドアの反転作動について

作動中に再度ワイヤレスリモコンのスイッチを押すと、反転作動に切りかわります。

■ 電池の消耗について

→P. 57

■ ワイヤレスリモコンが正常に作動しないときは

ドアの施錠、解錠：→P. 370

■ 電池が切れたときは

→P. 321

■ カスタマイズ機能

作動合図の設定などを変更できます。（カスタマイズ一覧 →P. 392）

1-3. ドアの開閉のしかた、ロックのしかた ドア

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、ドアロックスイッチを使って施錠・解錠できます。

■ スマートエントリー&スタートシステム

→P. 52

■ ワイヤレスリモコン

→P. 61

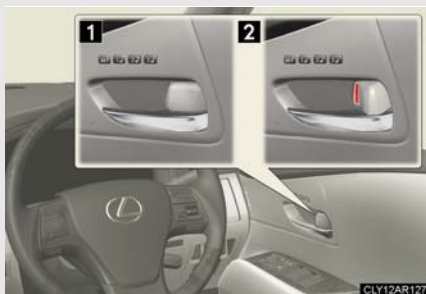
■ ドアロックスイッチ



1 全ドアを施錠する

2 全ドアを解錠する

■ ロックレバー



1 ドアを施錠する

2 ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開けられます。

キーを使わずに外側からフロント席を施錠するときは

- 手順 1 ロックレバーを施錠側にする
- 手順 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

“パワー”スイッチがアクセサリまたは ON モードのときや車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

チャイルドプロテクター



施錠側になると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。



知識

■ 衝撃感知ドアロック解除システム

車が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の形態によっては作動しないことがあります。

■ メカニカルキーでの施錠・解錠

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P. 370)

■ チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■ 不正キーの使用について

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空回りして解錠できません。

■ カスタマイズ機能

キー操作によって解錠されるドアの設定などを変更できます。
(カスタマイズ一覧 → P. 392)



警告

■ 事故を防ぐために

運転中は以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトを必ず使用する
- すべてのドアを施錠する
- すべてのドアを確実に閉める
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない

ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ ドアを開閉するときは

傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

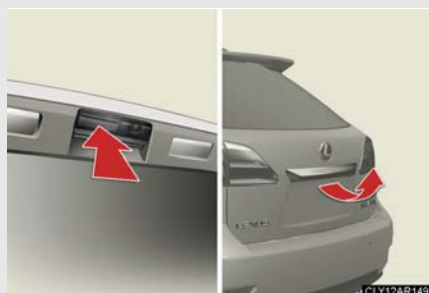
1-3. ドアの開閉のしかた、ロックのしかた バックドア

バックドアは以下の方法で施錠・解錠および開けることができます。

■ バックドアの施錠・解錠

- ▶ ドアロックスイッチ
→P. 63
- ▶ スマートエントリー & スタートシステム
→P. 51
- ▶ ワイヤレスリモコン
→P. 61

■ 車外からバックドアを開けるには



バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる

■ 車外からバックドアを開けるには（パワーバックドア装着車）

▶ バックドアオープンスイッチ※



バックドア解錠時：バックドアオープンスイッチを押す
バックドア施錠時：電子キーを携帯して、バックドアオープンスイッチを長押しもしくは2回押す
※：レクサス販売店ででの設定が必要です。

- ▶ ワイヤレスリモコン（パワーバックドア装着車）
→P. 61

■ 車内からバックドアを開けるには（パワーバックドア装着車）



スイッチを押す

開閉作動中に再度スイッチを押すと、反転作動します。

■ パワーバックドアクローズスイッチ（パワーバックドア装着車）

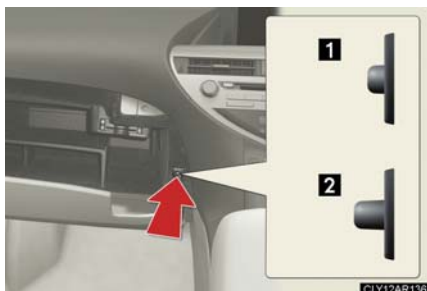


スイッチを押すとブザーが鳴り、非常点滅灯が2回点滅し、バックドアが自動で閉まります。

バックドアが閉まる途中でスイッチを押すと、バックドアは再び開きます。

■ パワーバックドアを使用できなくするには（パワーバックドア装着車）

グローブボックス内のパワーバックドアメインスイッチを OFF にします。



1 ON

2 OFF

ワイヤレスリモコン、バックドアオープンスイッチでもバックドアを開けられなくなります。

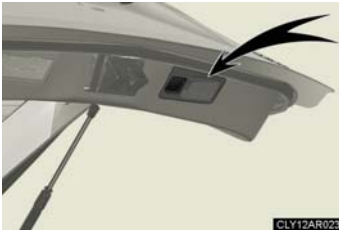
知識

■ パワーバックドアの作動可能条件（パワーバックドア装着車）

- バックドアが解錠されている。（バックドアオープンスイッチ※またはワイヤレスリモコン使用時は、バックドアが施錠されていてもパワーバックドアは作動します。）
- パワーバックドアメインスイッチが ON になっている。
- “パワー” スイッチが ON モードのとき開作動するには上記に加え、車速が 3km/h 未満かつシフトレバーが P になっていることが必要です。（バックドアオープンスイッチ※使用時）
- “パワー” スイッチが OFF になっている。（ワイヤレスリモコン使用時）

※：レクサス販売店ででの設定が必要です。

■ バックドアハンドル



バックドアを引き下げるときにお使い下さい。
バックドアハンドルを持ったまま直接バック
ドアを閉めないで下さい。

■ ラゲージルームライト

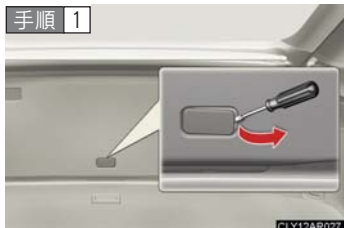


スイッチをONにしておくとバックドアを開け
たとき、ラゲージルームライトが点灯します。

■ バックドアが開かないときは

バックドアを内側から開けることができます。

手順 1



カバーをはずす。

手順 2 レバーを押す。

▶ パワーバックドア装着車



▶ パワーバックドア非装着車



■ バックドアイージークローザー（パワーバックドア装着車）

バックドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働きバックドアが自動で閉まります。

- “パワー” スイッチがどの状態であっても、イージークローザーは作動します。
- イージークローザーが作動中でも、バックドアオープンスイッチを押してバックドアを開けることができます。

■パワーバックドアの作動について

- 作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が2回点滅します。
- パワーバックドアメインスイッチがOFFのときは、パワーバックドアは作動しませんが手動で開閉できます。
- パワーバックドア自動開閉中に、バックドアオープンスイッチを押すと、手動操作に切り替わります。
- パワーバックドア自動開閉中に人や異物などにより挟み込みを感知すると、ブザーが鳴り、その位置から自動的にドアは反対方向に動きます。
- 連続して2回以上の閉方向の異常を感知するとブザーが鳴り、手動操作に切り替わります。

■荷物モードについて（電子制御エアサスペンション装着車）

車高切りかえスイッチで車高を下降させると、荷物の積み降ろしがしやすくなります。（→ P. 224）

■バックドアが開いているときに補機バッテリーを再接続またはヒューズを交換したときは※

パワーバックドアを適切に作動させるために、初期設定としてバックドアを手動で一度全開にしてください。

※バックドアが閉まっているときに補機バッテリーを再接続またはヒューズを交換したときは、初期設定の必要はありません。

■挟み込み防止機能（パワーバックドア装着車）



パワーバックドアの左右端部には、センサーがついています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機能が作動し、その位置からドアは自動的に反対方向に動き、全開位置で停止します。



警告

■ 走行中の警告

- 走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものに当たったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行する前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。
- 走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

警告

■ バックドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが落下するおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。



- 半開状態で使用すると、バックドアが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。とくに傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。



- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

- バックドアダンパーステアを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。
手を挟んだり、バックドアダンパーステアが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが落下し、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリ用品の取り付けは、レクサス純正品を使用することをおすすめします。

！ 警告

■ イージークローザーについて



- バックドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。

- イージークローザーは、パワーバックドアメインスイッチがOFFであっても作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。

■ パワーバックドアについて

パワーバックドアの操作時は、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 自動開閉中にパワーバックドアメインスイッチをOFFにすると、作動が停止し手動操作に切り替わります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
- 自動開閉中に作動可能条件を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切りかわる場合があります。
この場合、坂道などの傾斜した場所ではバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので十分注意してください。
- 傾斜した場所では、開いたあとにドアが落ちる場合があります。必ずドアが全開で静止していることを確認してください。

警告

- 次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、手動作動に切り替わることがあります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
 - ・ 自動作動中、障害物に干渉したとき
 - ・ ハイブリッドシステム停止時でパワーバックドアが自動作動しているときに、“パワー”スイッチを ON モードにしたりハイブリッドシステムを始動したりして、12V バッテリー電圧が急に低下したとき
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとにドアが落下し、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリ用品の取り付けは、レクサス純正品を使用することをおすすめします。

■ 挟み込み防止機能（パワーバックドア装着車）

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 挟み込み防止機能が作動したときは、十分注意してください。バックドアに当たりけがをするおそれがあります。
- 挟み込み防止機能はバックドアが閉まる途中で異物を感知すると反転しますが、体を挟んだ場合けがをするおそれがあるため、十分注意してください。
- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、バックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- パワーバックドアの左右端部のセンサーは障害物を検知し、挟み込みを防止する装置です。挟まれる物の形状や挟まれかたによっては検知できない場合があります。ドア開閉時は指などを挟まないよう十分注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

 注意

■ ダンパーステータについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステータが取り付けられています。ダンパーステータの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。



- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステータのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などで触れない
- バックドアにレクサス純正品以外のアクセサリ用品をつけない
- ステータに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

■ イージークローザーの故障を防ぐために

- イージークローザーの作動中はバックドアに無理な力をかけないでください。
- バックドアの開け閉めを短時間に繰り返すとイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、1度ドアを開け、少し時間をおいてから閉めなおすと作動します。

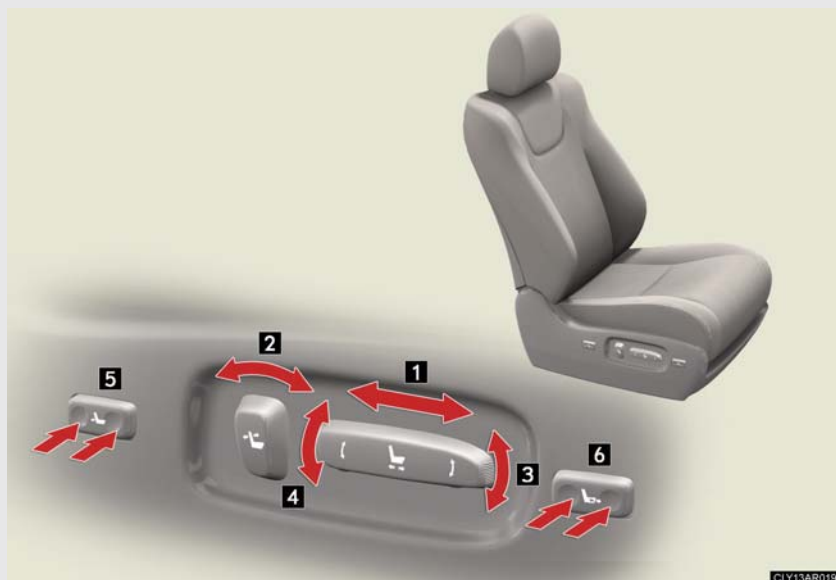
■ パワーバックドアの故障を防ぐために

- パワーバックドアを作動させる前に、凍結によるバックドアの貼り付きがないことを確認してください。バックドアに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。
- パワーバックドアの作動中は、バックドアに無理な力をかけないでください。
- パワーバックドア左右端部のセンサーを刃物などの鋭利なもので傷つけないように注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。
- パワーバックドアが自動で全開した直後に手でバックドアを閉めようすると抵抗を感じる場合があります。

1-4. シート、ミラー、ハンドルの調整のしかた フロントシート

1

運転する前に



- 1 前後位置調整
- 2 リクライニング調整
- 3 クッション前端の上下調整
- 4 シート全体の上下調整
- 5 腰部硬さ調整（ランバーサポート）
- 6 クッションの長さ調整*

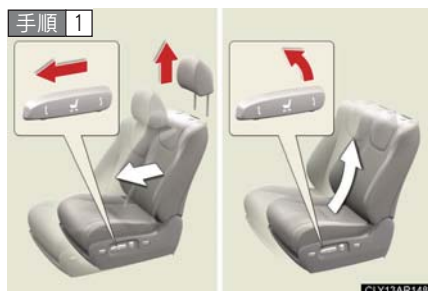
*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

フラットシートの作りかた

■ 背もたれを倒す前に

リヤシートをいちばんうしろまで移動させてください。(→P. 80)

■ シートを平らにする

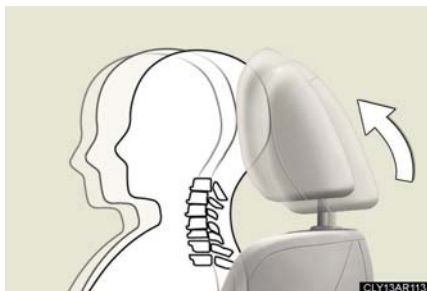


フロントシートのヘッドレストを取りはずし(→P. 88)、シート全体をいちばん前および上まで移動させる

シートを元にもどしたら、必ずヘッドレストを取り付けてください。

リクライニングスイッチを押しながら、背もたれをいちばんうしろまで倒す

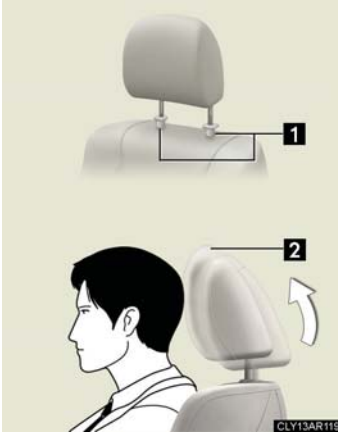
アクティブヘッドレスト



追突の衝撃によって、乗員の腰がシートバックを押すことでヘッドレストが少し斜め上方に動き乗員のむち打ち傷害軽減に貢献します。

 知識

■ アクティブヘッドレスト



シートバックへの衝撃が弱い場合でもアクティブヘッドレストが作動することがあります。なお、解除ボタンを押さずにヘッドレストを無理に押し上げると、ヘッドレストの構造部品が出てきますが、故障ではありません。

1 構造部品

2 作動状態

1

運転する前に

 警告

■ シート調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。

倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

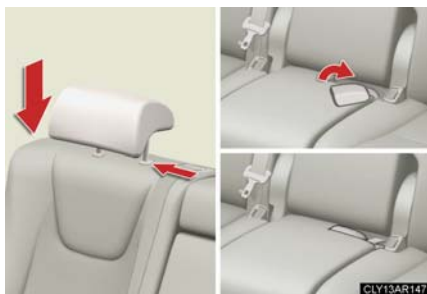
- 走行中は運転席シートの調整をしないでください。シートが突然動いて運転を誤り、思わぬ事故の原因となるおそれがあります。

1-4. シート、ミラー、ハンドルの調整のしかた リヤシート



背もたれを前に倒す

■ 操作する前に



ヘッドレストとセンターシートの
シートベルトバックルを格納する

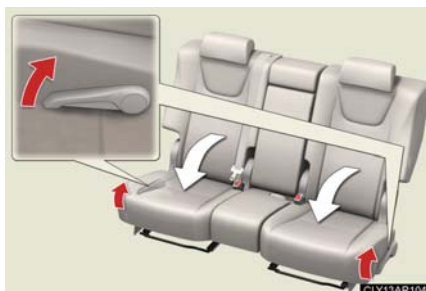


シートベルトをリヤシート側面のポケットに格納する

シートベルトを使用しないときは、常にポケットに格納しておいてください。

■ 前に倒すときは

▶ 車内から



リクライニングレバーを引く

もどすときは背もたれを起こし、固定してください。

▶ 車外から



レバーを引く

左のレバー：左のシート

右のレバー：右・中央のシート

■ 中央のシートだけを倒すときは



レバーを引いて、背もたれを前方に倒す

もどすときは背もたれを起こし、固定してください。

 警告

■ 背もたれを前倒しするときは

以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中に前倒しをしない
- シートに座ったまま、または荷物を置いたままで前倒しをしない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P にする
- 倒した状態でシートを前後に軽くゆさぶり、前後調整位置が確実に固定されていることを確認する
- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

■ リクライニング調整について

背もたれを必要以上に倒さないでください。事故のときに体がシートベルトの下にもぐり腹部などに強い圧迫を受けたり、肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 背もたれをもとの位置にもどしたあとは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認する
- シートベルトを挟み込まないようにする

■ 前後調整をするときは

- 足元のスペースを確保し足をフロント席に挟まないように注意してください。
- 中央のシートベルトバックルを格納し、挟み込まないようにする。

 注意

■ 背もたれを前倒しするときは

背もたれを倒す前に、必ずシートベルトとバックルを格納してください。

ドライビングポジションメモリー*

お好みのドライビングポジション（運転席・ハンドルの位置・ドアミラーの角度）を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。また、ドアの解錠と連動させることもできます。

ドライビングポジションは3パターンまで登録できます。

助手席ドアスイッチ*は助手席の位置を登録できます。

■ ポジションの登録

手順 1 “パワー” スイッチを ON モードにする

手順 2 運転席・ハンドル・ドアミラー角度をお好みの位置に調整する

手順 3



SET ボタンを押したあと、3 秒以内に1～3のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。

■ ポジションの呼び出し

手順 1 シフトレバーがPの位置にあることを確認する

手順 2 “パワー” スイッチを ON モードにする

手順 3



1 ～ 3 のうち呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押す

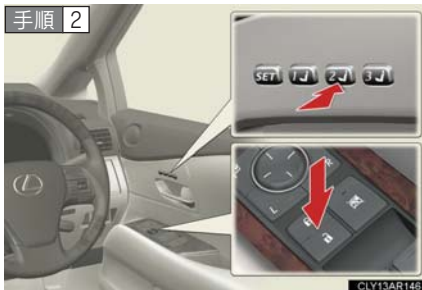
*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

ドアの解錠と連動させるには（運転席のみ）

お好みのポジションをあらかじめ 1 ～ 3 のいずれかのボタンに登録しておきます。

登録させたいキー（カードキーを含む）のみ携帯してください。車内にキーが2つ以上あると、正確に登録できません。

手順 1 “パワー” スイッチを ON モードにし、運転席ドアを閉める



手順 2

1 ～ 3 のうち連動させたいボタンを押しながら、ドアロックスイッチ（運転席側）の施錠側または解錠側をブザーが鳴るまで押す

スマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでドアを解錠して運転席ドアを開けると、ドライビングポジションが呼び出されます。

パワーイージーアクセスシステム（運転席のみ）

運転者が乗り降りする際に、ハンドルと運転席が自動で、以下のように動きます。



降車時：以下のすべての操作を行ったとき、ハンドルが最上段・最前方に移動、運転席シートが後方に移動（オートアウェイ機能）

- ・ シフトレバーを P に入れる
- ・ “パワー” スイッチを OFF にする
- ・ シートベルトをはずす

乗車時：以下のいずれかの操作を行ったとき、ハンドルが手前に移動、運転席シートが前方に移動（オートリターン機能）

- ・ “パワー” スイッチをアクセサリモードにする
- ・ シートベルトを装着する

 知識

■ ドアの解錠と連動させたとき

運転席ドアを開けると運転席が登録したポジションまで動くように作動しますが、乗車しやすいように登録したポジションより少し後方でいったんシートが止まります。“パワー”スイッチをアクセサリモードにする、またはシートベルトを装着すると、登録したポジションまでもう一度スライドします。

■ ドアの解錠との連動を解除するには

手順 1 “パワー”スイッチを ON モードにし、運転席ドアを閉める

手順 2 SET ボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側をブザーが鳴るまで押す

■ “パワー”スイッチ OFF 後の作動

“パワー”スイッチを OFF にしたあとも、運転席ドアを開けて 180 秒以内、およびその後再び運転席ドアを閉めて 60 秒以内ならポジションの呼び出し（ハンドルを除く）ができます。

■ ポジションの呼び出し作動を止めるには

以下のいずれかの操作をします。

- SET ボタンを押す
- 1 ～ 3 のボタンを押す
- シート調整スイッチを操作する（シートのみ作動停止）
- ハンドル調整スイッチを操作する（ハンドルのみ作動停止）

■ シート位置の正しい再生について

シート位置が、各シート調整機構の最端部にある状態で、更にその方向に操作すると、システムがシートの現在位置を誤認識し、メモリー再生位置にずれが生じることがあります。

■ 降車時の運転席シートのオートアウェイ機能について

降車時に、シートの位置が最後方に近い位置にある場合、オートアウェイ機能を行わない場合があります。

■ カスタマイズ機能

オートアウェイ機能によるシート移動量を変更できます。

シート移動量を OFF にした場合：OFF を選択した場合、ハンドルのオートアウェイ／オートリターン機能は“パワー”スイッチのみに連動します。

(カスタマイズ一覧 →P. 392)

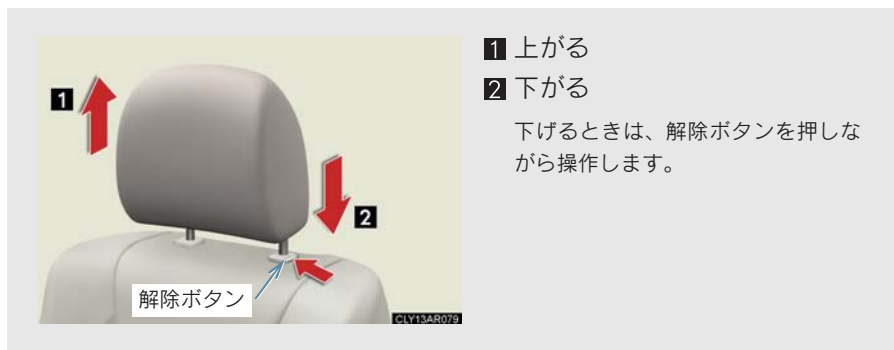


警告

■ シート調整時の警告

シート調整中は、シートがリヤ席乗員に当たったり、運転手の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

1-4. シート、ミラー、ハンドルの調整のしかた ヘッドレスト



知識

■ヘッドレストを取りはずすときは



解除ボタンを押しながら取りはずします。

■ヘッドレストの高さについて（フロント席）



必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。

■リヤ席について

使用するときは、常に最上段ロック位置にしてください。

**警告****■ヘッドレストについて**

以下のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

1-4. シート、ミラー、ハンドルの調整のしかた シートベルト

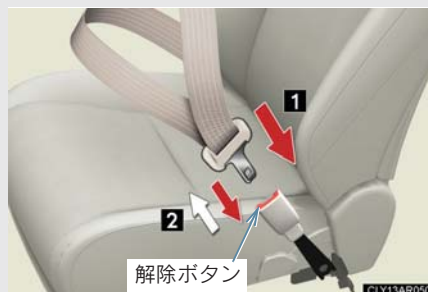
走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

■ 正しく着用するには



- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれが無いようにする

■ 着け方、はずし方



- 1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレート
をバックルに差し込む
- 2 ベルトを解除するには、解除ボ
タンを押す

■ シートベルトの高さ調節（フロント席）



- 1 解除ボタンを押しながら、ア
ジャスターを下げる
- 2 アジャスターを上げる
“カチッ”と音がして固定されるこ
ろまで動かしてください。

シートベルトコンフォートガイド（リヤ外側席）

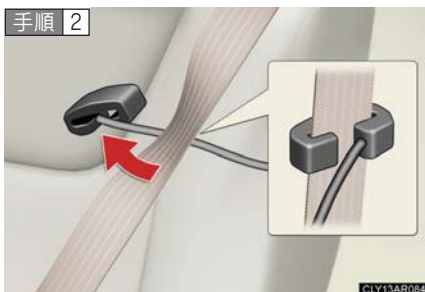
肩部ベルトが首の近くにかかるときはコンフォートガイドを使用してください。

手順 1



シート横のポケットからコンフォートガイドを引き出す

手順 2



ベルトをコンフォートガイドの穴に通す

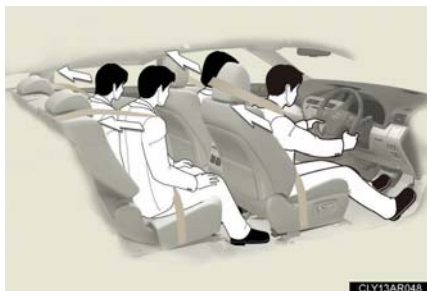
ゴムひもがベルトの裏側になるように通してください。

手順 3



シートベルトを留め、コンフォートガイドの位置を調整する

シートベルトプリテンショナー（フロント席、リヤ外側席）



前方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、横や後ろからの衝撃のときは作動しない場合があります。

プリクラッシュシートベルト（プリクラッシュセーフティシステム装着車フロント席）

プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突の前にフロントシートベルトを巻き取り、プリテンショナーの効果を高めます。

急ブレーキをかけたときや、車がコントロールを失ったときも同様に作動します。
(→P. 238)

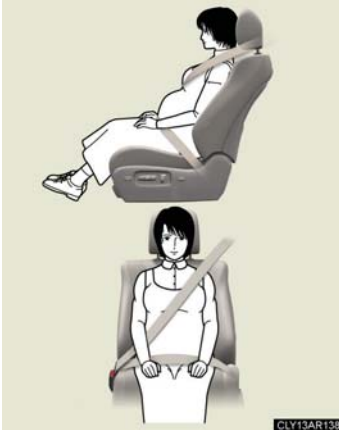


■ 緊急時シートベルト固定機構

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを巻きもどし、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

 知識

■ 妊娠中の女性の場合



医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P. 90)

妊娠中の方も、通常の着用の仕方と同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■ お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを着用するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P. 138)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→P. 90)

■ シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **シートベルトの着用について**

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さない
上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■ **お子さまをのせるときは**

お子さまをシートベルトであそばせないでください。万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルも外せない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■ **プリテンショナー付きシートベルトについて**

シートベルトプリテンショナーが作動すると SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずレクサス販売店で交換してください。

 警告**■ シートベルトの損傷・故障について**

- ベルトやプレート、バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に差し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく差し込めない場合はただちにレクサス販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、レクサス販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動なくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

1-4. シート、ミラー、ハンドルの調整のしかた ハンドル

ハンドル位置を運転しやすいように調整できます。

スイッチを操作すると、ハンドルを下記の方に動かします。



- 1 上方へ
- 2 下方へ
- 3 前方へ
- 4 手前へ

オートアウェイ&オートリターン機構



“パワー”スイッチを OFF にすると、乗降がしやすいようにハンドルが動きます。

“パワー”スイッチをアクセサリーまたは ON モードにすると、もとの位置にもどります。

知識

■ ハンドル位置調整の作動条件

“パワー”スイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのとき※

※ドライビングポジションメモリー装着車は、シートベルトを装着していれば“パワー”スイッチの位置にかかわらず、ハンドルの調整ができます。

■ ハンドル位置の自動調整（ドライビングポジションメモリー装着車）

好みのハンドル位置をドライビングポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。（→P. 84）

■ ドライビングポジションメモリー装着車のオートアウェイ&オートリターン機構について

“パワー”スイッチ OFF 時のアウェイ作動は、シート移動量の設定（→P. 392）が OFF 以外で、シートベルトをはずした状態でのみ作動します。また、シートベルトを装着すると、もとの位置に戻ります。（→P. 85）

警告

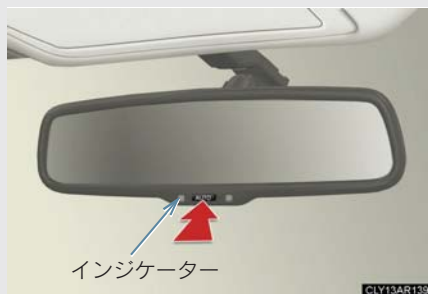
■ 走行中の警告

運転中はハンドル位置の調整をしないでください。

運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

1-4. シート、ミラー、ハンドルの調整のしかた インナーミラー

自動（AUTO）モードにしておくと、センサーが後続車のライトを感知し、自動で反射光を減少させます。

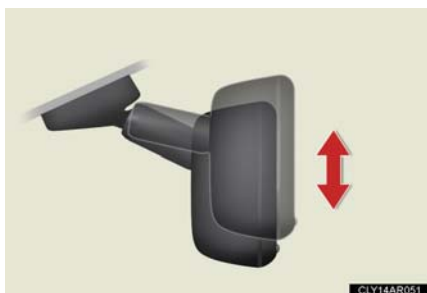


自動モードの ON・OFF を切りかえる

自動モードのときはインジケータが点灯します。

“パワー” スイッチを ON モードにしたときは、ミラーは常に自動モードになっています。

上下調整のしかた



インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する。

知識

■ センサーの誤作動防止



センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



警告

■ 運転中の警告

運転中はミラーの調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

1

運転
する
前に

1-4. シート、ミラー、ハンドルの調整のしかた ドアミラー

スイッチで鏡面の角度調整をします。

手順 1



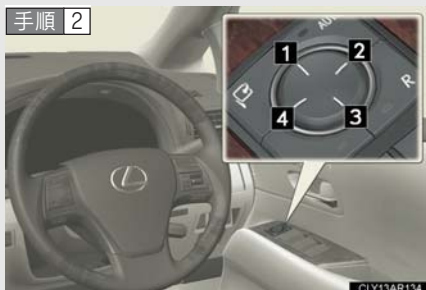
調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す

1 左

2 右

もう一度押すと、選択が解除されます。

手順 2



ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す

1 上

2 右

3 下

4 左

ドアミラーを格納するときは

■ マニュアル作動での格納・復帰のしかた



ボタンを押す

もう一度押すと、もとの位置にもどります。

■ オート作動での格納・復帰のしかた

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠に連動して、ドアミラーを自動的に格納・復帰させることができます。



ボタンを押す

ボタンを押すと、インジケーターが点灯します。

もう一度ボタンを押すと、マニュアル作動にもどります。

サイドモニターシステム

■ 画面の出し方



サイドカメラスイッチを押すと、画面が表示されます。

詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

 知識

■ 作動条件

“パワー”スイッチがアクセサリモードまたは ON モードのとき

■ ミラーが曇ったときは

ミラーヒーターを作動させて、曇りを取ることができます。(別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。)

■ リバース連動機能

後退時に左右のドアミラーの角度が下向きになり、下方が見やすくなります。この機能は、ミラー選択スイッチ (L・R) のどちらかが選択されているときのみ作動します。

■ レインクリアリングミラー*

鏡面に付着した水滴を膜状に広げる親水効果を持つコーティングを施しており、雨天時における後方視認性を向上させます。

鏡面に汚れなどが付着すると親水効果は一時的に低下しますが、太陽光をあてることにより付着した汚れを化学的に分解し、親水効果を徐々に回復させる機能も持っています。

● 次のような場合、親水効果が低下しますが、晴天時に 1・2 日間太陽光をあてることで親水効果は徐々に回復します。親水効果を早く回復させたいときは回復作業 (→P. 283) を行ってください。

- ・ 鏡面に、汚れや異物が付着したり、素手でふれたり汚れた布などでふいたとき
- ・ 洗車により鏡面に洗剤やワックスが付着したとき
- ・ 地下・屋内駐車場などの日のあたらない場所に長時間駐車したとき

● 次のような場合、親水効果が回復できなくなります。十分注意してください。

- ・ 鏡面にシリコーン入りのカーメンテナンス商品が付着したとき
- ・ 鏡面に傷を付けたとき

■ ミラー角度の自動調整 (ドライビングポジションメモリー装着車)

お好みのミラー角度をドライビングポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→P. 84)

■ 自動防眩機能

インナーミラーを自動モードにしておくと、ドアミラーも連動して防眩機能が作動します。(→P. 98)

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

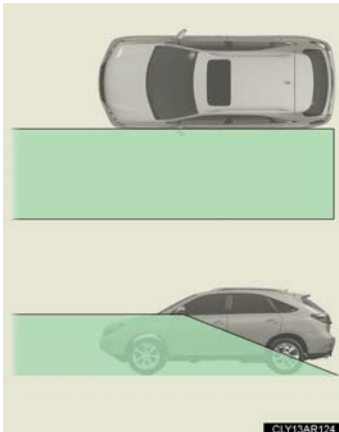
■ 寒冷時に「オート作動」で使用するときは

寒冷時に「オート作動」で使用していると、ドアミラーが凍結して、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、「マニュアル作動」で作動させるか、手で動かしてください。

■ サイドモニターについて

- 発進時またはごく低速時、左側車両側面を確認するときに役立ちます。
- この車は構造上、通常の乗用車に比べ、車両の左斜め前方が確認しにくいいため、発進時やごく低速時はサイドモニターなどを使用し、必ず周囲の安全を確認してください。

■ サイドモニターに映るおよその範囲



⚠ 警告

■ 走行しているときは

走行中は以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない

- ミラーを格納したまま走らない

走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

 警告

■ **ミラーが動いているときは**

手を触れないでください。

手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ **ミラーヒーターが作動しているときは**

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

■ **サイドモニターに関する警告**

- 必ず車の前方や左右の安全を直接確認しながら運転してください。
- サイドモニターは、左側の視界を確保するために保安基準上必要な装置です。故障したときは速やかにレクサス販売店で点検を受けてください。
- ドアミラーを格納したまま走行しないでください。ドアミラーを格納した状態でサイドモニターを表示させると、ドアミラーの根元が映り込むため、車両前端付近での状況が確認できず、事故につながるおそれがあります。

 注意

■ **レインクリアリングミラーの取り扱いについて**

- 鏡面が凍結したときは、温水をかけるか、ミラーヒーターを作動させるなどして解氷してください。
親水膜の効果を持続させるため、鏡面の凍結部分はプラスチックの板などで削り落とさないでください。
- シリコン入りの撥水剤や油膜取り剤、ワックス、その他のカーメンテナンス商品を使用する場合は、鏡面に付着させないように十分注意してください。
- 砂の付いた布・油膜取り剤・研磨剤など、鏡面を傷付けるものでこすらないでください。

■ **サイドモニター使用時の注意**

車両の前後確認は直接確認するか、インナーミラー、ドアミラーなども併用して十分行ってください。

1-5. ドアガラス・ムーンルーフの開け方、閉め方 パワーウィンドウ

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを下記のように動かします。



- 1 閉める
- 2 自動全閉※
- 3 開ける
- 4 自動全開※

※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。



ウィンドウロックスイッチ



インジケータ

スイッチを押すと、インジケータが点灯し、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



知識

■ 作動条件

“パワー”スイッチがONモードのとき

■ “パワー”スイッチ OFF 後の作動

“パワー”スイッチをアクセサリモードまたはOFFにしたあとでも、約45秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ 挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■ パワーウインドウを閉めることができないときは

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉めることができないときは、閉めることができないドアのパワーウインドウスイッチで、下記の操作を行ってください。

- 車を停止し、“パワー”スイッチをONモードの状態で、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けることでドアガラスを閉めることができます。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが閉まらない場合、挟み込み防止機能の初期化を次の手順で実施してください。

手順 1 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを6秒間引き続ける

手順 2 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを2秒間押し続ける

手順 3 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを2秒間引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ ドアロック連動ドアガラス開閉機能

- メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。(→P. 370)
- ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できるように、レクサス販売店で設定できます。(→P. 61)

■ 窓閉め提案機能

ドアガラスを閉めずに“パワー”スイッチを OFF にすると、マルチインフォメーションディスプレイにドアガラスを閉める提案が表示されます。(→P. 193)

■ 補機バッテリーをはずしたときは

ウインドウロックスイッチが OFF になるため、補機バッテリーを接続したあと、再度ウインドウロックスイッチを ON にする必要があります。

■ カスタマイズ機能

ドアロック連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧 →P. 392)

警告

■ ドアガラスを開閉するときは

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻きこんだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。
- お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
ドアガラスに挟まれたり巻きこまれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

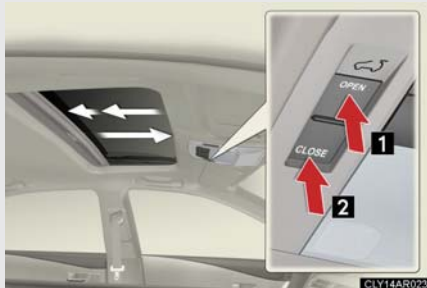
■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあります。

ムーンルーフ*

頭上のスイッチでムーンルーフを開閉・チルトアップ/ダウンすることができます。

■ 開閉



1 ムーンルーフを開く※

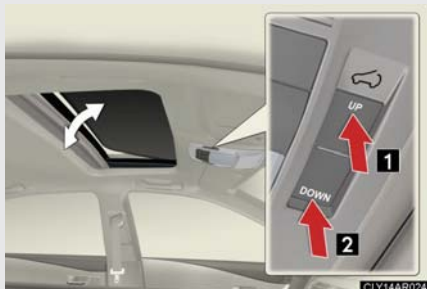
全開の手前の位置で止まります。(風切音の低減機能)

全開にしたいときはスイッチをもう一度押してください。

2 ムーンルーフを閉める※

※途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。

■ チルトアップ/ダウン



1 チルトアップ※

2 チルトダウン※

※途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。



知識

■ 作動条件

“パワー”スイッチがONモードのとき

■ “パワー”スイッチOFF後の開閉作動

“パワー”スイッチをアクセサリモードまたはOFFにしたあとでも、約45秒間は操作できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動なくなります。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ 挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■ サンシェード

手動で開閉できます。ただし、ムーンルーフが開くときは連動して開きます。

■ ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能

- メカニカルキーでムーンルーフを開閉できます。(→P. 370)
 - ワイヤレスリモコンでムーンルーフを開閉できるように、レクサス販売店で設定できます。※ (→P. 61)
- ※：ワイヤレスリモコンでのドアガラス開閉が可能でなければ設定できません。

■ムーンルーフが正常に閉まらないときは

下記の操作を行ってください。

●閉まるときに反転し、閉じ切らない場合

手順 1 車を停止する

手順 2 スイッチの“CLOSE”側を押し続ける※¹

ムーンルーフが閉じ、再び開き、10 秒間停止します。※² その後再び閉じ、チルトアップし、1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

手順 3 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手をはなす

●チルトダウン時に反転し、閉じ切らない場合

手順 1 車を停止する

手順 2 スイッチの“UP”側を押し続け※¹、ムーンルーフをチルトアップ位置にする

手順 3 スイッチから一度手をはなし、再度“UP”側を押し続ける※¹

ムーンルーフがチルトアップの状態で 10 秒間停止し、※² 微調節後 1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

手順 4 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手をはなす

※¹ 途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。

※² 10 秒間停止した後にスイッチから手をはなすと、それ以降オート作動でなくなります。その場合は、スイッチの“UP”、または、“CLOSE”側を押し続けてください。ムーンルーフがチルトアップし、1 秒間停止します。その後、チルトダウンし、いったん開いてから閉じます。ムーンルーフが完全に閉まったことを確認したら、スイッチから手を離してください。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

ドアキー連動ムーンルーフ開閉機能などの設定を変更できます。

(カスタマイズ一覧→P. 392)

警告

■ムーンルーフを開けているときは

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中はルーフから手や顔を出さない
- 開口部に腰かけない

■ムーンルーフを開閉するときは

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、骨折など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻きこんだりしないように注意してください。

- お子さまには、ムーンルーフの操作をさせないでください。

ムーンルーフに挟まれたり巻きこまれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



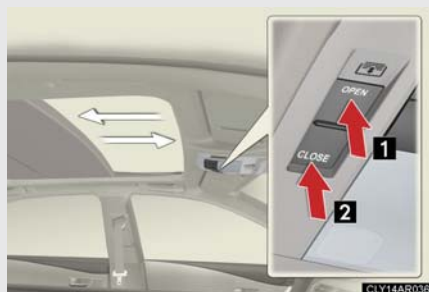
**警告****■ 挟み込み防止機能**

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

電動サンシェード*

頭上のスイッチで電動サンシェードを開閉することができます。

■ 開閉



1 電動サンシェードを開く※

2 電動サンシェードを閉める※

※途中で停止するときは、スイッチを軽く押します。

📖 知識

■ 作動条件

“パワー” スイッチが ON モードのとき

■ 挟み込み防止機能

電動サンシェードを閉めるときに、異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

警告**■ 電動サンシェードを開閉するときは**

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、骨折など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- 電動サンシェードを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。
- お子さまには、電動サンシェードの操作をさせないでください。
電動サンシェードに挟まれたり巻きこまれたりするおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 挟み込み防止機能は、電動サンシェードが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

1-6. 給油のしかた 給油口の開け方

以下の手順で給油口を開けてください。

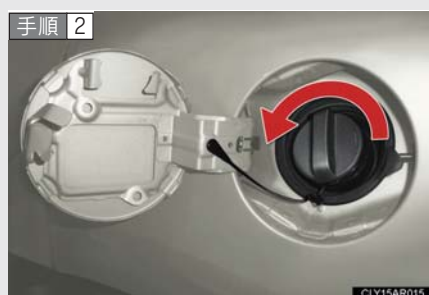
■ 給油する前に

ドアとドアガラスを閉め、“パワー” スイッチを OFF にしてください。

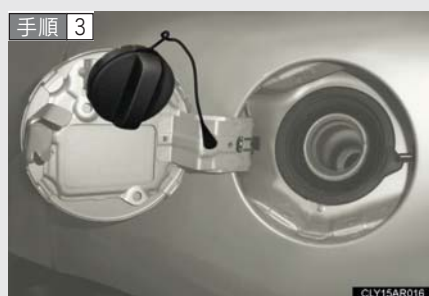
■ 給油口の開け方



オープナーを押して、給油口を開ける



キャップをゆっくりまわして開ける



キャップをハンガーにかける

給油口のキャップを開めるときは

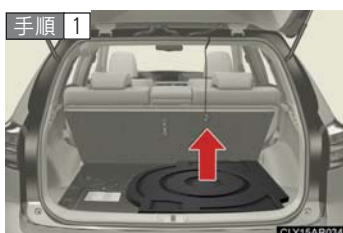


キャップを“カチツ”と音がするまでまわして閉める

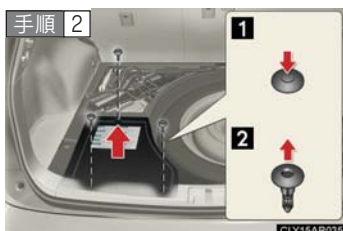
手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。

知識

給油口が車内から開けられないときは



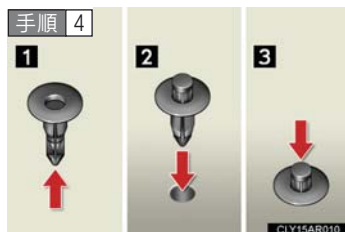
デッキボードを持ち上げ、スペアタイヤのカバーを取りはずす。(→ P. 356)



ラゲージルーム内の補機バッテリーカバーを取りはずす。



レバーを引く。



クリップを取り付ける。

警告

■ 給油について

給油するときは以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 車体などの金属部分にふれて身体の静電気を除去する
除去しないと放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップをゆるめたときに、“シュー” という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開ける
キャップを開けると、キャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けます。ゆっくりと開けないと、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き返すおそれがあります。
- 給油口に、静電気を除去していない人を近付けない
- 気化した燃料を吸わないようにする
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しない
引火して火災を引き起こすおそれがあります。
- 車内にもどったり、静電気を除去していない人や帯電しているものにふれない
再び帯電する可能性があります。

**警告****■ 給油時の注意**

- 給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

■ キャップ交換時の警告

レクサス純正品以外のキャップを使用しないでください。

純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**注意****■ 給油するときは**

指定以外のガソリン（無鉛レギュラーガソリン）や他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・アルコール系燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- ノッキングが発生する
- ハイブリッドシステムの出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

イモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではハイブリッドシステムを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。



“パワー”スイッチをOFFにすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、“パワー”スイッチをアクセサリモードまたはONモードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

知識

■ メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ 機能が正常に作動しないおそれのある状況

周囲の環境や条件により、イモビライザーシステムが正常に作動せずハイブリッドシステムを始動できないことがあります。(→P. 56)

注意

■ イモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

侵入を検知した場合、音と光で警報します。

■ オートアラームが作動するとき

オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアが、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコン・キーを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき
- 侵入センサーが車内で動くものを検知したとき（侵入者が車内に乗り込んだとき）

※ G-Link サービスをご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合 E メールや電話でお知らせすることができます。

詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書 /G-Link/G-Security」を参照してください。

■ オートアラームを設定するには



ドア・ボンネットを閉め、スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスリモコンを使って施錠します。30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームが設定されるとインジケーターは点灯から点滅にかわります。

■ オートアラームの設定を解除・作動を停止するには

以下のいずれかを行ってください。

- ドアを解錠する。
- “パワー”スイッチをアクセサリモードまたはONモードにするか、ハイブリッドシステムを始動する（数秒後に解除・停止します。）

侵入センサーの作動について

侵入センサーは、超音波を使って車内への侵入者や室内の動きを検知するセンサーです。

このシステムは、車両盗難を防止または抑止する機能であり、すべての侵入に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

■ 侵入センサーを停止するには



“パワー”スイッチを OFF にし、侵入センサー OFF スイッチを押す

メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに、侵入センサー停止のメッセージが表示されます。

侵入センサーは“パワー”スイッチを ON モードにするたびに、ON モードにもどります。

知識

■ メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスとムーンルーフ*が閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームの設定を解除・作動を停止する操作を行ってください。



- 車内に残った人が、ドア・ボンネットを開けたとき



- 施錠後、補機バッテリーあがりなどで補機バッテリーの充電や交換をしたとき

■ オートアラーム作動によるドアロック機能について

- オートアラームが作動したときドアが解錠されていると車内への不正な侵入を防止するため自動的に施錠されます。
- オートアラームが作動したときに車内でキーを閉じ込めないように、補機バッテリーあがりなどで充電・交換する場合は車内にキーがないかを確認してください。

■ 侵入センサーの作動・停止について

- 車両から離れる時は盗難を防ぐため、ドアガラスとムーンルーフを閉めてください。
- 侵入センサーの機能を停止しても、オートアラームは作動します。
- 侵入センサー機能を停止したあとに“パワー”スイッチを押すか、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコン・メカニカルキーによる解錠操作を行うと、侵入センサーは機能復帰します。
- 再度オートアラームをセットすると、侵入センサーは作動可能状態(システム ON の状態)に自動復帰します。

■ G-Link（ご契約のお客様のみ）

- うっかり通知機能によって、施錠のし忘れや非常点滅灯の消し忘れ、ドアガラスの閉め忘れを、ご指定の E メールアドレスへお知らせすることができます。うっかり通知機能は車内の電子キー検知を使用しているため、スマートエントリー&スタートシステムが正しく作動しない場合は、うっかり通知機能が正しく働かないことがあります。
- リモート確認機能によって、ドアの開閉や施錠の状態、非常点滅灯の点滅状態、電子キーの車内への置き忘れなどを携帯電話で確認できます。

詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書 /G-Link/G-Security」を参照してください。

⚠ 注意

■ 侵入センサーの検知について

次のような場合、侵入センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、侵入センサー機能を停止してからアラームを設定してください。



- 車内に乗員やペットなどを残して車両から離れる場合



- ドアガラスやムーンルーフなどが開いている場合

以下のものを検知することがあります。

- ・ 室内に入った落ち葉・虫・風など
- ・ 他車の侵入センサーなどが発する超音波
- ・ 室外の歩行者の動き

⚠ 注意



- マスコットやアクセサリをぶら下げた状態で取り付けたり、コートフックに衣類をかけているときなど、動きやすいものが車内にある場合



- 立体駐車場のような振動や騒音の激しい場所に駐車した場合



- 雪かきやガラスに付着した氷を削り落とすときに、連続的な衝撃や振動が車両に伝わった場合

- 高圧洗車機や自動洗車機などを使う場合
- ひょうや落雷などにより、連続的な衝撃や振動が車両に伝わった場合

 注意

■ 侵入センサーを正しく作動させるために



- センサーの穴は塞がないようにしてください。



- センサーの穴に向かって、直接消臭スプレーなどを噴霧しないでください。

■ オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

正しい運転姿勢

以下の条件にあった正しい姿勢で運転してください。



- 1 まっすぐ座り、背もたれから背を離さない (→ P. 77)
- 2 シートをペダルが十分に踏み込めるようなシート位置にする (→ P. 77)
- 3 各装置が操作しやすい背もたれの角度にする (→ P. 77)
- 4 SRS エアバッグが自分の胸の方へ向くようなハンドルの位置にする (→ P. 96)
- 5 ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする (→ P. 88)
- 6 シートベルトが正しく着用できる (→ P. 90)

警告

■ 走行中は

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故の原因になって、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、調整機構の故障の原因になります。

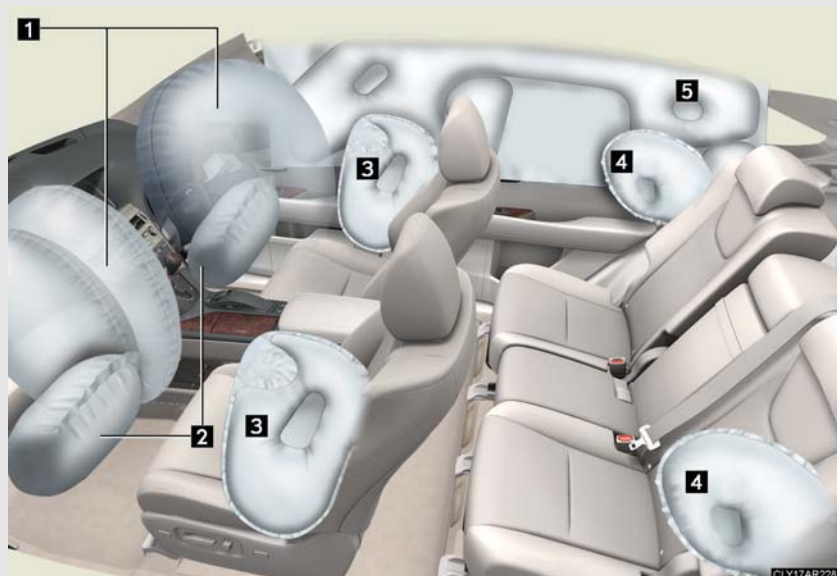


■シートを調整するときは

- 同乗者がシートにあたっけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが身体を拘束する動きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



▶ フロント SRS エアバッグ

- 1 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
(運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃緩和を補助)
- 2 SRS ニーエアバッグ
(運転者と助手席乗員の衝撃緩和を補助)

▶ SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ

- 3 SRS フロントサイドエアバッグ
(フロント席乗員の胸などへの衝撃緩和を補助)
- 4 SRS リヤサイドエアバッグ*
(リヤ外側席乗員の胸などへの衝撃緩和を補助)
- 5 SRS カーテンシールドエアバッグ
(フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和を補助)

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備



知識

■ SRS エアバッグが展開すると

- SRS エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- フロント席・リヤ席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部などだけでなくエアバッグモジュールの各部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。
- G-Linkの契約期間内は、SRSエアバッグが作動すると自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両を手配します。詳しくは「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■ SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、約 20 ～ 30 km/h の速度で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合や、もぐりこむような衝突（例えば、車両前部がもぐりこむ、下に入り込む、トラックの下敷きになる、など）の場合は、展開車速は設定値より高くなります。
- 衝撃の強さが設定値に近い場合での前方からの衝突の場合には、フロント SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーが同時に作動しない場合があります。

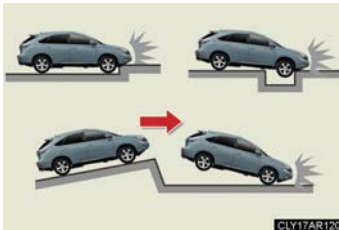
■ SRS エアバッグが作動するとき

(SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ)

SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

■ 衝突以外で作動するとき

以下のような状況で、車両下部に強い衝撃を受けたときも、作動する場合があります。



- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

■ SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃で作動するようには設計されていません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。



- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

■ SRS エアバッグが作動しないとき
(SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ)

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイドエアバッグとSRSカーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。



- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃

SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃で作動するようには設計されていません。

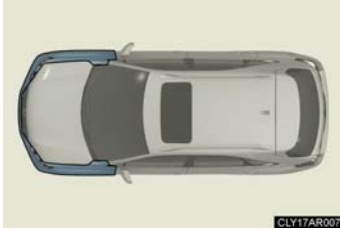


- 前方からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

■ レクサス販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、できるだけ早くレクサス販売店へご連絡ください。

● いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき



- フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



- SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドア部分が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



- ハンドルのパッド部分・助手席 SRS エアバッグのカバー部・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき
- SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロント・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



警告

■ SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転手と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。

SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトが使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。

お子さまはリヤ席に寄せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→ P. 146)



- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

**警告**

■ SRS エアバッグについて



- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



- 助手席やリヤ外側シートでは、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



- ドア・フロントガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない



警告

■ SRS エアバッグについて

- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は取り除いてください。
- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。
- SRSエアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、レクサス販売店で交換してください。

**警告****■ 改造・廃棄について**

レクサス販売店への相談なしに、以下の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車両客室側面部の修理、改造
- グリルガード(ブルバー・カンガルーバーなど)・除雪装置・ウィンチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- 車の仕様やお子さまの年齢、体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取り扱い説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ 0	: 10kg まで
グループ 0+	: 13kg まで
グループ I	: 9 ~ 18kg
グループ II	: 15 ~ 25kg
グループ III	: 22 ~ 36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44 は、子供専用シートに関する国際法規です。

■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにもなう取り付け器具の記号になります。

▶ ベビーシート



ECE R44 基準のグループ 0、0⁺ に相当

▶ チャイルドシート



ECE R44 基準のグループ 0⁺、I に相当

▶ ジュニアシート



ECE R44 基準のグループ、II、III に相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

質量グループ	着席位置（または他の場所）		
	フロントシート	リヤシート	
	助手席	左右席	中央席
0（10kg まで）	×	U	×
0+（13kg まで）	×	U	×
Ⅰ（9 ～ 18kg）	前向き UF	U	×
	うしろ向き ×		
Ⅱ（15 ～ 25kg）	UF	U	L
Ⅲ（22 ～ 36kg）	UF	U	L

● 上表に記入する文字の説明

U：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリの子供専用シートに適しています。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリの前向きの子供専用シートに適しています。

L：子供専用シートのリストに示す特定の子供専用シートに適しています。

（リストに記載があれば「特定自動車」、「限定」、「準汎用」カテゴリの子供専用シートにも適しています。）

×：子供専用シートを取り付けることはできません。

子供専用シートの装着に関しては子供専用シートの取扱い説明書もご確認ください。

● 子供専用シートのリスト

質量グループ	子供専用シート	カテゴリ
Ⅱ（15 ～ 25kg）	レクサス純正ジュニアシート	汎用
Ⅲ（25 ～ 36kg）	レクサス純正ジュニアシート	汎用

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

シート位置別子供専用シートの適合性一覧表 (ISOFIX対応トップテザーアンカーでの取り付け)

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置
			リヤシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0 (10kg まで)	E	ISO/R1	IL
0+ (13kg まで)	E	ISO/R1	IL
	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
I (9 ~ 18kg)	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF
	B1	ISO/F2X	IUF
	A	ISO/F3	IUF
II (15 ~ 25kg)		(1)	×
III (22 ~ 36kg)		(1)	×

● 上表に記入する文字の説明

(1) : サイズ等級表示 (A から G) のない子供専用シートの各シート位置での ISOFIX 対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF : この質量グループでの使用を許可された汎用 (ユニバーサル) カテゴリーの ISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL : ISOFIX 子供専用シートのリストに示す「特定自動車」、「限定」、または「準汎用」カテゴリーの子供専用シートに適しています。

× : ISOFIX 子供専用シートを取りつけることはできません。

子供専用シートの装着に関しては子供専用シートの取扱い説明書もご確認ください。

ISOFIX 子供専用シートの一覧

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISOFIX 子供専用シート	カテゴリー
0 (10kg まで)	E	ISO/R1	レクサス純正ベビーシート	準汎用
0+ (13kg まで)	E	ISO/R1	レクサス純正ベビーシート	準汎用

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。



知識

■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シートの取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■ 子供専用シートの選択、使用について

- お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用ください。
- 体が十分大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、リヤシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

■ シートベルト (→ P. 146) で取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」(→ P. 140) を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類(記号)をご確認の上、適したものを選択してください。

■ ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」(→ P. 141)を確認して、適切なシートを選択してください。

手順 1 お子様の体重から、該当する「質量グループ」を確認する

(例 1) : 体重が 12 kg の場合、質量グループは「O⁺」になります。

(例 2) : 体重が 15kg の場合、質量グループは「I」になります。

手順 2 サイズ等級を選択する

手順 1 で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

(例 1) : 質量グループが「O⁺」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

(例 2) : 質量グループが「I」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

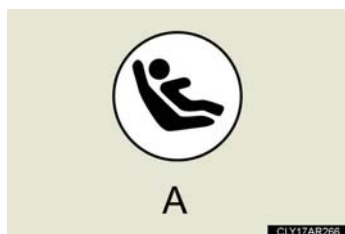
※ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「II」と記載されている場合は、「ISOFIX 子供専用シートのリスト」(→ P. 142)で指定されている製品を使用してください。



子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する

汎用（ユニバーサル）子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。※

※表示されている位置・記号などは、商品により異なります。



- 1** ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

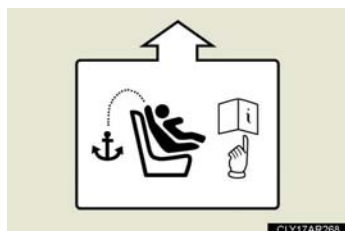
サイズ等級が示されています。(表示される文字は、製品により異なります)

手順 2 で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。



- 2** 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることをあらわし、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。



- 3** トップテザー（→ P. 146）を示すマーク

商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。

■ ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート (B-ISO/F2 と別形状のもの)
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

■ 助手席に子供専用シートを取りつけるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取りつける場合には、助手席シートを以下のように調整し、子供専用シートを前向きに取りつけてください。



- 背もたれを直立状態にする
- シートをいちばん後ろに下げる
- シートの高さをいちばん高い位置まで上げる

■ キャリコットについて

キャリコットは横向きに取りつけることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シート製造業者または販売業者にお尋ねください。

⚠ 警告

■ 子供専用シートを使用しない場合

- 子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取りつけた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

1-8. 安全にお使いいただくために チャイルドシートの取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。

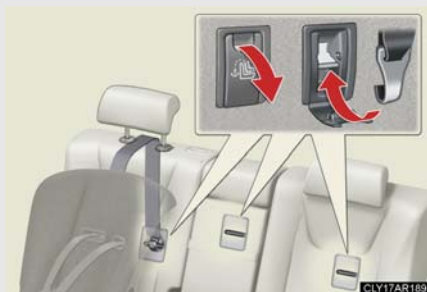


シートベルトによる取り付け
(→ P. 147)



ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー (→ P. 147)

リヤ外側シートに装備されています。(固定専用バーが装備されていることを示すボタンがシートに付いています。)



トップテザーアンカー
(→ P. 147)

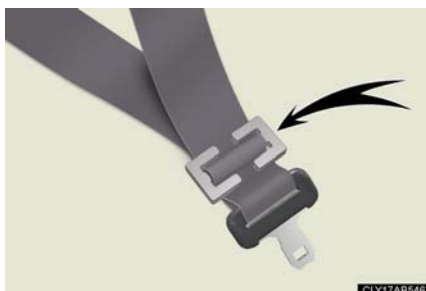
テザーベルトを固定するときに使用します。
トップテザーアンカーはリヤシートのそれぞれの座席に装備されています。

シートベルトで固定する



チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで差し込む。ベルトがねじれていないようにする。

チャイルドシートに付属の取扱書にしたがい、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

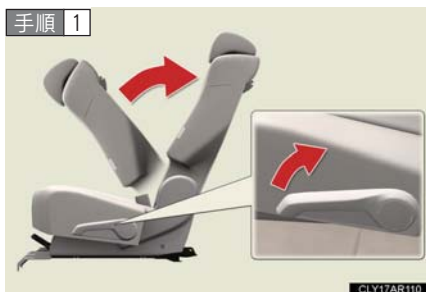


チャイルドシートにシートベルトのロック機構が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する。

ロッキングクリップの購入にあたっては、レクサス販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ 品番：73119-22010）

取り付け後はチャイルドシートを軽くゆさぶり、しっかりと固定されていることを確認してください。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーで固定する



背もたれの角度を調整する

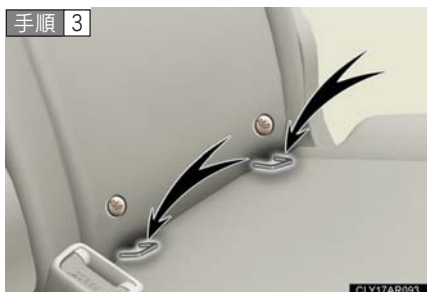
レバーを引ながらいったん背もたれを前に倒し、初段目の固定位置まで起こします。（→P. 80）

手順 2



ヘッドレストをはずす (→ P. 88)

手順 3



固定専用バーの位置を確認する

固定専用バーは、シートクッションの奥にあります。

手順 4

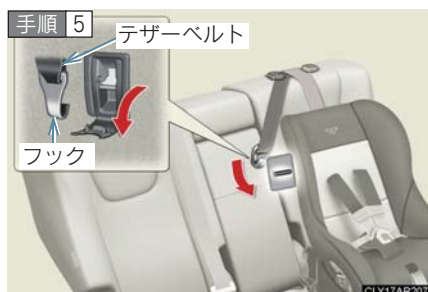


チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれの商品に付属の取扱説明書にしたがってください。

手順 5



フタを開けて、トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトは必ず背もたれの上を通し、ピンと張ってフックがしっかり固定されていることを確認します。

手順 6



ヘッドレストを取り付ける
(→ P. 88)

ヘッドレストは、最上段ロック位置に固定してください。

手順 7



取り付けたチャイルドシートを軽くゆさぶり、固定されていることを確認する

1

運転する前に



警告

■チャイルドシートについて

- 事故や急停止の際、効果的に保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントガラスや乗員、車内の装備にぶつかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してリヤシートに取り付けてください。
- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけさせないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■チャイルドシートを取り付けるときは

- お子さまをシートベルトであそばせないでください。万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルも外せない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを左右に動かして、しっかり固定されているか確認してください。



- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。
- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

警告

■チャイルドシートを取り付けるときは



- 助手席にはチャイルドシートをうしろ向きに取りつけないでください。うしろ向きに取りついていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。あわせてご覧ください。



- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にできるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと事故や急ブレーキの際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 警告**■チャイルドシートを取り付けるときは**

- ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

■チャイルドシートを使用しないときは

- 車両にチャイルドシートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取り付けてください (→ P. 147)。チャイルドシートを使用しない場合でも、シートにしっかりと固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、ラゲージルーム内に収納し、しっかりと固定しておいてください。

2-1. 運転のしかた

運転にあたって	156
パワー（イグニッション）	
スイッチ	166
トランスミッション	171
方向指示レバー	179
パーキングブレーキ	180
ホーン（警音器）.....	181

2-2. メーターの見方

計器類.....	182
表示灯／警告灯	186
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	189
ヘッドアップ	
ディスプレイ	196

2-3. ライトのつけ方・

ワイパーの使い方

ライトスイッチ	200
フォグライトスイッチ	203
ワイパー＆ウォッシャー	
（フロント）.....	205
ワイパー＆ウォッシャー	
（リヤ）.....	208
ヘッドライトクリーナー	210

2-4. その他の走行装置の 使い方

クルーズコントロール.....	211
レーダークルーズ	
コントロール	215
電子制御エア	
サスペンション.....	224
運転を補助する装置.....	230
ヒルスタートアシスト	
コントロール	236
プリクラッシュセーフティ	
システム	238

2-5. 様々な状況での運転

荷物を積むときの注意.....	245
寒冷時の運転	247

2-1. 運転のしかた

運転にあたって

安全運転を心がけて、以下の手順で走行してください。

■ ハイブリッドシステムを始動する

→P. 166

■ 発進する

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする
(→P. 171)

手順 2 パーキングブレーキを解除する (→P. 180)

手順 3 ブレーキペダルから徐々に足をはなし、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける
長時間停車する場合は、シフトレバーを P にします。(→P. 171)

■ 駐車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 パーキングブレーキをかける (→P. 180)

手順 3 シフトレバーを P にする (→P. 171)

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※輪止めはレクサス販売店で購入することができます。

手順 4 “パワー” スイッチを押してハイブリッドシステムを停止する

手順 5 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

上り坂の発進のしかた

手順 1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D にする

手順 2 アクセルペダルをゆっくり踏む

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

 知識

■ 燃費を良くする走り方

ハイブリッド車も急加速をひかえるなど、通常のカソリン車と同様の心がけが必要です。P. 44 の「ハイブリッド車運転のアドバイス」を参照してください。

■ 雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面の間に水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ 運転標識の取り付け

磁石式の初心者運転標識や高齢者運転標識などをアルミボデー部に取り付けることはできません。

■ 環境に配慮した運転



環境に配慮したアクセル操作（エコ運転）中は、エコドライブインジケーターランプが点灯します。アクセルの踏みすぎなど、エコ運転の範囲をこえた場合には、エコドライブインジケーターランプが消灯します。（→P. 184）

■ カスタマイズ機能

エコドライブインジケーターランプの ON/OFF を変更できます。
（カスタマイズ一覧 → P. 392）

 警告

■ **シフトレバーを操作するときは**

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ **発進するときは**

車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■ **運転するときは**

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。
 - ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
 - ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
 - ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 燃えやすい物の上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。
- シフトレバーを前進側のシフトポジションにいれたまま惰性で後退したり、R にいれたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車内で排気ガス臭に気付いたら、ドアガラスを開け、バックドアが閉まっていることを確認してください。多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となる他、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡に至るおそれがあります。すみやかにレクサス販売店で点検整備を受けてください。

 警告

- 車両が動いているあいだは、シフトレバーを P に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーを R に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを D に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーを N にすると、ハイブリッドシステムの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- 通常走行時は、走行中にハイブリッドシステムを停止しないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもステアリングやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はステアリングとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 384 を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキがオーバーヒートして正常に機能しなくなります。(→ P. 171)
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、ブレーキペダルやパーキングブレーキを使用してください。
- 走行中はハンドル、シート、ドアミラー、インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤り、思わぬ事故の原因となって重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- AWD 車：オフロード走行をしないでください。
本格的なオフロード走行を目的とした AWD 車ではありません。やむをえずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。

 警告

- 渡河などの水中走行はしないでください。

電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。

- やむをえず浅瀬などを走行する場合は、まず水深と川底の硬さを確認してください。

電子制御エアサスペンション装着車*は、ハイトコントロールスイッチを“H”に選択した後、車高制御 OFF スwitchを押して電子制御エアサスペンションを停止させ、30 km/h 以下の速度で走行してください。

■ すべりやすい路面を運転するときは

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- シフトアップやシフトダウンによるエンジンブレーキなど、エンジン回転数の急な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効が悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したときは

できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ローターの損傷につながる場合があります。ブレーキパッドやディスクローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界を超えて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

 警告

■ 停車するときは

- 不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 長時間 READY インジケーターが点灯したままにしないでください。
どうしても必要な場合は、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入っていないことを確認してください。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■ 駐車するときは

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したまましていると、以下のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
 - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- フロントウインドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストールメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

 警告

- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウィンドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてハイブリッドシステムを停止し、施錠してください。
ハイブリッド車は走行できる状態（READY インジケーターが点灯している状態）になっていても、音や振動がない場合があります。
- READY インジケーターが点灯しているとき、またはハイブリッドシステム停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。
- 降雪時や雪が積もった場所では、READY インジケーターが点灯したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 排気ガスについて

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排気ガスを吸い込むと、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 換気が悪い場所ではハイブリッドシステムを停止してください。
とくに車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。
- 排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は必ずレクサス販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 仮眠するときは

必ず“パワー”スイッチを OFF にしてください。

READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やハイブリッドシステムの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 警告**■ ブレーキをかけるときは**

- ブレーキが濡れているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキが濡れていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- 電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりもブレーキペダルを強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。
- ブレーキシステムは三つの独立したシステムで構成されており、一つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。この状態で走行しないでください。走行中、ブレーキ警告灯（赤色）の点灯と同時にブザーが鳴ったときは、ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へご連絡ください。

■ 万一脱輪したときは（AWD 車）

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 注意

■ 運転中は

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、駆動力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■ 駐車するときは

必ずシフトレバーを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

以下のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかりとって徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 355 をご覧ください。

 注意

■ 冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、以下のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずレクサス販売店で以下の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・ハイブリッド用トランスミッションなどのオイルやフルードの量および質の変化
- 各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

パワー（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して以下の操作を行うことで、ハイブリッドシステムの始動または“パワー”スイッチのモードを切りかえることができます。

■ ハイブリッドシステムの始動方法

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する

手順 3 ブレーキペダルをしっかりと踏む

スイッチ上のインジケーターが緑に点灯します。

緑色に点灯していないとハイブリッドシステムは始動しません。

手順 4



“パワー”スイッチを押す。

READY インジケーターが点灯すれば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

完全にハイブリッドシステムが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

“パワー”スイッチのどのモードからでもハイブリッドシステムを始動できます。

手順 5 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが消灯している状態では走行できません。

■ ハイブリッドシステムの停止方法

- 手順 1 車両を停止させる。
- 手順 2 シフトレバーを P の位置にする。
- 手順 3 パーキングブレーキをかける。(→P. 180)
- 手順 4 “パワー” スイッチを押す。
- 手順 5 ブレーキペダルから足を離した状態にして “パワー” スイッチのインジケーターが消灯していることを確認する。

■ “パワー” スイッチ切りかえ

ブレーキペダルを踏まずに “パワー” スイッチを押すと、モードを切りかえることができます。(スイッチを押すごとにモードが切りかわります。)



1 OFF ※

非常点滅灯が使用できます。

2 アクセサリーモード

オーディオなどの電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

3 ON モード

すべての電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

※ : シフトレバーが P 以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。

シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止したときは

シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止させた場合、ハイブリッドシステムは停止しますが、“パワー”スイッチのモードは OFF になりません。以下の手順で OFF にしてください。

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する。

手順 2 シフトレバーを P の位置にする。

手順 3 “パワー”スイッチのインジケーターが橙色に点灯していることを確認し、“パワー”スイッチを 1 回押す。

手順 4 “パワー”スイッチのインジケーターが消灯していることを確認する。



知識

■ 自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき 20 分以上アクセサリモードか 1 時間以上 ON モード（ハイブリッドシステムが始動していない状態）にしたままにしておくと、“パワー”スイッチが自動で OFF になります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。ハイブリッドシステムが始動していないときは、“パワー”スイッチをアクセサリモードまたは ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■ “パワー”スイッチの操作について

“パワー”スイッチを操作する際は、短く確実に押してください。確実に押せてない場合は、モードの切りかえやハイブリッドシステムの始動ができない場合があります。また、確実に操作すれば押し続ける必要はありません。

■ 高電圧リレーの音について

ハイブリッドシステム始動時および停止時に、車両後方から“コトン”、“カチツ”などの音が聞こえることがあります。これは高電圧リレーの音で、異常ではありません。

■ 電子キーの電池の消耗について

→P. 57

■ 外気温が低いときは

ハイブリッドシステム始動時に READY インジケーターの点滅時間が長くなることがあります。READY インジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P. 56

■ご注意いただきたいこと

→P. 58

■ハイブリッドシステムが始動しないときは

イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。(→ P. 120)

■ステアリングロックについて

“パワー”スイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。“パワー”スイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ステアリングロックが解除できないときは



マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、“パワー”スイッチ上のインジケーターが緑色に点滅します。ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。

■ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にハイブリッドシステムの始動・停止を繰り返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。2秒程度でもとの状態にもどります。

■“パワー”スイッチ上のインジケーターが橙色に点滅したときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■万一、READY インジケーターが点灯しないときは

正しい手順で始動操作を行っても READY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにレクサス販売店へご連絡ください。

■ハイブリッドシステムに異常があるときは

→P. 338

■電子キーの電池が切れたときは

→P. 321

 警告

■ **ハイブリッドシステムを始動するときは**

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **走行中の警告**

ハイブリッドシステムの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **緊急時のハイブリッドシステム停止方法**

走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したい場合には、3 秒以上“パワー”スイッチを押し続けてください。

ただし、緊急時以外は走行中に“パワー”スイッチにふれないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

 注意

■ **補機バッテリーあがりを防止するために**

ハイブリッドシステム停止中は、“パワー”スイッチをアクセサリモードまたは ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

2-1. 運転のしかた トランスミッション

状況に応じてシフトポジションを選択してください。

■ シフトレバーの動かし方



← “パワー”スイッチがON モードの状態、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。
P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

■ シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車またはハイブリッドシステムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※ 1
S	S モード走行※ 2 (→ P. 175)

※ 1 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

※ 2 S モードはシフトレンジを選択することで、エンジンブレーキ力を切りかえることができます。

■ エコドライブモードの選択

エコドライブモードは車両駆動力とエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。



1 メニュースイッチを押す

マルチインフォメーションディスプレイがスイッチモードに移行します。

2 ENTER スイッチを上下に操作して ECO MODE を表示させる。



ENTER スイッチを押して、ON に切りかえると ECO MODE 表示灯が表示されます。

ENTER スイッチを押すごとに ON/OFF は切り替わります。

メニュースイッチを押すと、元の画面にもどります。

■ スノーモードの選択

スノーモードは雪道や滑りやすい路面での走行に適しています。



1 メニュースイッチを押す

マルチインフォメーションディスプレイがスイッチモードに移行します。

2 ENTER スイッチを上下に操作して HYBRID SNOW を表示させる。



ENTER スイッチを押して、ON に切りかえると Hybrid SNOW 表示灯が表示されます。

ENTER スイッチを押すごとに ON/OFF は切り替わります。

メニュースイッチを押すと、元の画面に戻ります。

■ EV ドライブモードの選択

EV ドライブモードは、駆動用電池を使い電気モーターを駆動して走行するモードです。深夜の住宅街や屋内の駐車場などで、騒音や排気ガスを気にすることなく走行することができます。



1 メニュースイッチを押す

マルチインフォメーションディスプレイがスイッチモードに移行します。

ハイブリッドシステム始動後約 10 秒以内であれば EV が優先的に表示されます。

2 ENTER スイッチを上下に操作して EV を表示させる。

ENTER スイッチを押して、ON に切りかえると EV ドライブモード表示灯が表示されます。

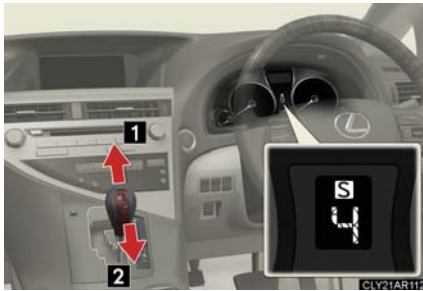
ENTER スイッチを押すごとに ON/OFF は切り替わります。

メニュースイッチを押すと、元の画面にもどります。



S モードでの操作方法

シフトレバーを S の位置にして、以下のように操作します。



- 1 シフトレンジを上げる
- 2 シフトレンジを下げる

S ポジションへ操作したときの初期シフトレンジは、車速に応じて 4 レンジもしくは 5 レンジに設定されます。

シフトレンジ機能

- エンジンブレーキ力は、6 段階から選択が可能です。
- シフトレンジの数字が小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。



知識

エコドライブモードのエアコン作動について

エコドライブモードは暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをより良くしたい時は、風量の調整又はエコドライブモードの解除をしてください。

詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をご覧ください。

■ 通常走行モードへの自動復帰

スノーモードと EV ドライブモードは、ハイブリッドシステムを停止するごとに自動的に通常走行モードにもどります。

■ S モード

- 5 レンジ以下のとき、シフトレバーを“+”側へ保持すると 6 レンジに設定されます。
- エンジン過回転前に自動的にシフトアップします。

■ AI-SHIFT について

AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に最適なシフトレンジに切りかえます。

AI-SHIFT は、シフトレバーを D にしているときに自動的に作動します。(シフトレバーを S にすると、機能が解除されます。)

アクセルペダルをはなしてもエンジン回転数の高い状態が続くことがありますが、異常ではありません。

NAVI・AI-SHIFT (AWD 車) :

ナビゲーションシステムの機能を利用した、高度な自動変速制御の機能です。詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をご覧ください。

■ クルーズコントロールまたはレーダークルーズコントロールを使って走行しているとき

S モード走行時に 5 または 4 ヘシフトレンジダウンしてもエンジンプレーキは効きません。(→P. 211, 215)

■ シフトレバーを P からシフトできないときは

→P. 368

■ シフトレバーを S にしても、S が点灯しないときは

システム異常のおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

この場合、シフトレバーを D にしているときと同じ制御になります。

■ シフトダウン制限警告ブザー (S モード走行時)

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーを操作してもシフトダウンできない場合があります。(このときブザーが2回鳴ります)

■ リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■ EV ドライブモードの切りかえについて

次のようなときは EV ドライブモードに切りかわらない場合があります。EV ドライブモードに切りかわらないときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

- ハイブリッドシステムが高温のとき
炎天下に駐車したあとや登降坂、高速走行後など
- ハイブリッドシステムが低温のとき
低温下に長時間駐車したあとなど
- ガソリンエンジンが暖機運転中のとき
- 駆動用電池の充電量が低いとき
- 車速が 40km/h 以上のとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など
- フロントデフロスターを使用しているとき

■ EV ドライブモードの自動解除について

EV ドライブモードで走行中、次のようなときは自動的に通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）になることがあります。EV ドライブモードが解除されるときは、ブザーが鳴り、EV ドライブモード表示灯が点滅した後、消灯します。

- 駆動用電池の充電量が低下したとき
- 車速が 40km/h を超えたとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

■ EV ドライブモードの走行可能距離

EV ドライブモードの走行可能距離は、車速約 40km/h 以下で、数百 m から約 1 km 程度です。（走行距離は、駆動用電池の充電量や走行状態によって異なります）

■ 燃費について

RX450h は、通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）において、最も燃費が良くなるように制御されています。EV ドライブモードを多用すると、燃費が悪くなる場合があります。

 警告

■ **すべりやすい路面では**

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が、横すべりやスピンの原因となりますので注意してください。

■ **走行中の警告**

EV ドライブモードでの走行は、エンジン音がしないため、歩行者・自転車付近の人や車が車両の発進や接近に気が付かない場合があります。十分注意して運転してください。

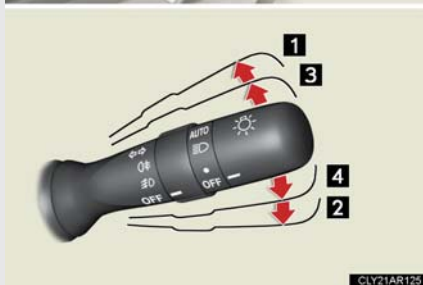
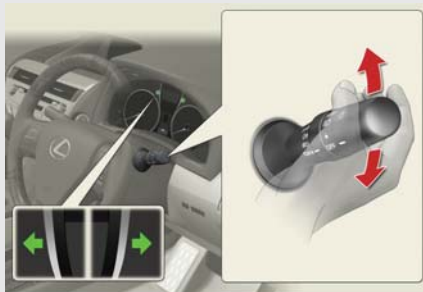
 注意

■ **駆動用電池の充電について**

シフトレバーが N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、N で長時間放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

2-1. 運転のしかた 方向指示レバー

レバー操作により、以下のように運転者の意思を表示することができます。



- 1 左折
- 2 右折
- 3 左側へ車線変更
(レバーを途中で保持)

レバーを放すまで左側方向指示灯が点滅します。

- 4 右側へ車線変更
(レバーを途中で保持)

レバーを放すまで右側方向指示灯が点滅します。

知識

■ 作動条件

“パワー” スイッチが ON モードのとき

■ 表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

2-1. 運転のしかた

パーキングブレーキ



パーキングブレーキをかけるには、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングペダルをいっぱいまで踏み込む（再度踏み込むと解除される）

知識

■ 冬季のパーキングブレーキの使用について

「寒冷時の運転」（→P. 247）の記載を参照してください。

注意

■ 走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

2-1. 運転のしかた

ホーン（警音器）



ハンドルの  周辺部を押すとホーンが鳴ります。

2-2. メーターの見方

計器類



- 1 ハイブリッドシステムインジケーター**
ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。
- 2 マルチインフォメーションディスプレイ**
→P. 189
- 3 スピードメーター**
車両の走行速度を示します。
- 4 燃料計**
燃料残量を示します。
- 5 オドメーター・トリップメーターディスプレイ**
オドメーター：走行した総距離を km の単位で表示します。
トリップメーター：リセットしてからの走行距離を km の単位で表示します。区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。
- 6 シフトポジション・シフトレンジ**
→P. 171
- 7 水温計**
ガソリンエンジン冷却水の温度を示します。

表示の切りかえ



スイッチを押すごとに表示が切りかわります。また、トリップメーター表示中に押し続けると、走行距離を0にもどします。

インストルメントパネル照度調整

スイッチを押して、インストルメントパネル照明の明るさを調整できます。



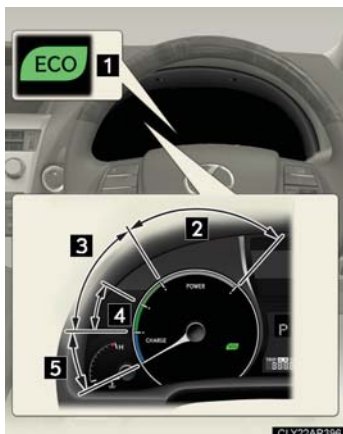
- 1 暗くなる
- 2 明るくなる

知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

“パワー”スイッチがONモードのとき

■ハイブリッドシステムインジケータについて



1 エコドライブインジケータランプ

環境に配慮したアクセル操作（エコ運転）中は、エコドライブインジケータランプが点灯します。

次の場合、エコドライブインジケータランプは作動しません。

- シフトレバーがD以外のとき
- 走行モードがスノーモード、またはEVドライブモードのとき
（→P. 173, 174）
- 車速が約 100 km/h 以上のとき

2 パワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲を越えている状態を示します。

3 エコエリア

環境に配慮した走行をしている状態を示します。

4 ハイブリッドエコエリア

ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。

ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

5 チャージエリア

回生ブレーキ機能により、エネルギーを回収している状態を示します。

- インジケータの針をエコエリア（グリーンエリア）に保つことで、環境に配慮した走行が可能です。
- CHARGE エリアは、回生※状態を示します。回生した電力は、駆動用電池を充電します。

※ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

**注意****■ エンジンや構成部品への損傷を防ぐために**

水温計の針が H のレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。(→P. 378)

2-2. メーターの見方 表示灯／警告灯

メーター・センターパネル内の表示灯・警告灯でお車の状況をお知らせします。

▶ メータ-



▶ センターパネル



■ 表示灯

システムの作動状況を表示します。



方向指示表示灯
(→P. 179)



※ 1 AFS OFF 表示灯
(→P. 201)



尾灯表示灯 (→P. 200)



※ 1, 2 スリップ表示灯
(→P. 231, 236)



ヘッドライト
上向き表示灯 (→P. 200)



※ 1 VSC OFF 表示灯
(→P. 232)



フロントフォグライト
表示灯 (→P. 203)



※ 1 電子制御エアサスペンション表示灯* (→P. 224)



リヤフォグライト
表示灯* (→P. 203)



※ 1 エコドライブインジケータランプ (→P. 157)



Hybrid SNOW 表示灯
(→P. 173)



ECO MODE 表示灯
(→P. 172)



クルーズコントロール
表示灯 (→P. 211, 215)



READY インジケータ
(→P. 166)

※ 1 作動確認のために“パワー”スイッチを ON モードにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

※ 2 点滅した場合はシステムが作動していることを示します。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備



レーダークルーズコントロール表示灯*
(→ P. 215)



EV ドライブモード表示灯
(→P. 174)



クリアランスソナー表示灯*
(→ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」参照)

■ 警告灯

万一のシステム異常などを警告します。(→ P. 334)



※¹ 作動確認のために“パワー”スイッチを ON モードにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

※² 点滅した場合はシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

■ 安全装置の警告灯が点灯しないときは

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、“パワー”スイッチを ON モードにしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイは、外気温や走行に関する様々な情報を表示します。

■ マルチインフォメーションスイッチ



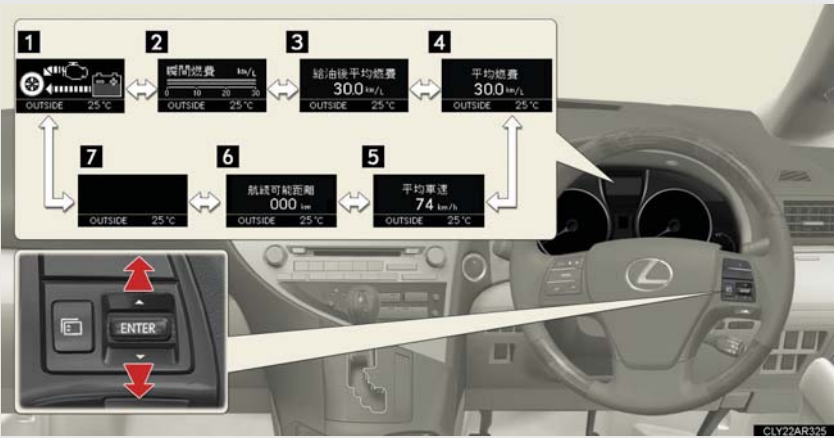
1 メニュースイッチ

スイッチモードやカスタマイズモードを表示したり、各モードから通常画面に戻したりすることが出来ます。

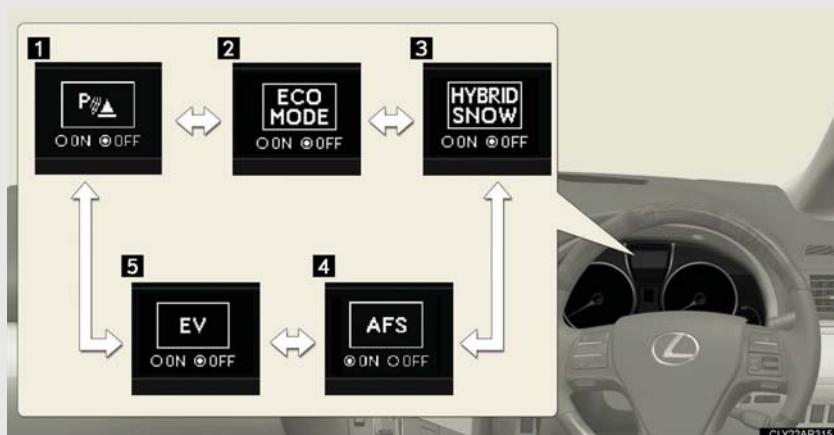
2 ENTER スイッチ

表示中のトリップインフォメーションの項目を切り替えたり、スイッチモードやカスタマイズモードの設定を切り替えたりすることが出来ます。

■ 表示する情報



トリップインフォメーション	表示の切りかえ
1 エネルギーモニター	ENTER スイッチを上下に操作する。
2 瞬間燃費	
3 給油後平均燃費	
4 平均燃費	
5 平均車速	
6 航続可能距離	
7 表示 OFF	



スイッチモード	機能と内容
1 クリアランスソナー*	別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をご覧ください。
2 エコドライブモード	→P. 172
3 スノーモード	→P. 173
4 AFS	→P. 201
5 EV ドライブモード	→P. 174

表示順はお車の状態により異なる場合があります。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

その他の機能	機能と内容
外気温	外気温を表示します。
窓閉め提案モード →P. 193	降車時にドアガラスを閉める提案を表示します。
カスタマイズモード →P. 392	窓閉め提案モードやエコドライブインジケータランプの ON/OFF を変更することができます。
レーダークルーズコントロール表示* →P. 215	レーダークルーズコントロール使用時に自動で表示されます。
警告メッセージ →P. 338	各システムに異常が発生すると自動で表示されます。

トリップインフォメーション

■ エネルギーモニター

車両駆動状況、ハイブリッド作動状況およびエネルギーの回収状況を表示します。(→P. 39)

■ 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

■ 給油後平均燃費

給油をしてからの平均燃費を表示します。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■ 平均燃費

リセットしてからの平均燃費を表示します。

- ・ リセットするには、平均燃費表示中に ENTER スイッチを 1 秒以上押します。
- ・ 表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■ 平均車速

リセットしてからの平均車速を表示します。

リセットするには、平均車速表示中に ENTER スイッチを 1 秒以上押します。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ 航続可能距離

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

- ・ 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
- ・ 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。

窓閉め提案モード

降車時にいずれかの窓が開いているときに、“パワー”スイッチを OFF にすると、窓を閉めるかどうかの確認画面が表示されます。以下の操作を行うと全ての窓を一括して閉めることができます。



- 1 ENTER スイッチを上下に操作して YES を選択
- 2 ENTER スイッチを押す
NO を選択すると窓閉め提案モードは終了します。



- 1 ENTER スイッチを上下に操作して 開始を選択
- 2 ENTER スイッチを押す
全ての窓が一括して閉まります。
中止を選択すると窓閉め提案モードは停止されます。



知識

■スイッチモードの作動条件

“パワー” スイッチが ON モードのとき

■スイッチモードの終了条件

操作条件によって以下のようなときスイッチモードは終了します。

- メニュースイッチを押したとき
- レーダークルーズコントロールの操作を行ったとき
- クリアランスソナーが作動したとき
- スイッチモード画面表示後、しばらくのあいだ操作を行わなかったとき
- スイッチモード画面表示後に警告メッセージが表示されたとき

■窓閉め提案モードについて

- 以下の場合、窓閉め提案モードは作動しません。
 - ・マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき
 - ・ウィンドウロックスイッチを ON にしているとき
 - ・すべての窓が閉まっているとき
 - ・カスタマイズ設定で降車時窓全閉提案が“しない”になっているとき
 - ・運転席のドアを開閉したとき
- 以下の場合、窓閉め提案モードは終了します。
 - ・“パワー” スイッチを ON モードにしたとき
 - ・“パワー” スイッチを OFF にしてから約 20 秒が経過したとき
 - ・マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき
 - ・すべてのドアガラスを閉めたとき
 - ・ウィンドウロックスイッチを ON にしたとき
 - ・メニューボタンを押したとき
 - ・運転席のドアを開閉したとき
 - ・ワイヤレスリモコンで、ドアガラスの開閉操作を行ったとき

● 以下の場合、全閉作動は途中で停止します。

- ・ “パワー” スイッチを ON モードにしたとき
- ・ ENTER スイッチを押したとき
- ・ ウインドウロックスイッチを ON にしたとき
- ・ 挟み込み防止機能が作動したとき
- ・ ワイヤレスリモコンで、ドアガラスの開閉操作を行ったとき

窓閉め提案モードによる全閉作動中にいずれかのパワーウインドウスイッチを操作すると、そのドアガラスは途中で停止します。

■ 外気温表示について

以下の場合、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- 停車しているときや、低速走行（約 25km/h 以下）のとき
- 外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）

■ 低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車内を暖めてください。

■ カスタマイズ機能

窓閉め提案モードの ON/OFF などを変更できます。（カスタマイズ一覧 → P. 392）



警告

■ 窓閉め提案モードに関する注意点

- 全閉作動を開始するときは、窓に挟み込むものがないか周囲の安全に十分注意してください。
- 窓閉め提案モードが作動しない場合もあります。
降車時には全ての窓が閉まっていることを確認してください。

■ スイッチモードについて

走行中にスイッチモードを操作する場合は、周囲の安全に十分注意してください。

2-2. メーターの見方

ヘッドアップディスプレイ

ヘッドアップディスプレイは、フロントウインドウガラスに車速などを表示することができます。



1 ヘッドアップディスプレイ

表示輝度は、周囲の明るさに応じて自動で調整されます。

2 表示位置調整スイッチ

3 表示輝度調整スイッチ

表示輝度はお好みの明るさに調整できます。

4 HUD（ヘッドアップディスプレイ）メインスイッチ

■ ヘッドアップディスプレイの表示内容

車速表示以外に以下の表示機能を備えています。



1 車速表示

2 レーン案内

交差点の手前で、走行中のレーン情報を表示します。

3 簡易矢印ナビ※

ナビゲーションシステムがルート案内中、交差点にさしかかると、交差点案内表示を表示します。

4 レーダークルーズコントロール*

接近警報を表示します。(→P. 344)

5 PCS *

注意喚起表示とブレーキ警報を表示します。(→P. 344)

HUD メインスイッチ



ヘッドアップディスプレイの ON・OFF を切りかえる

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

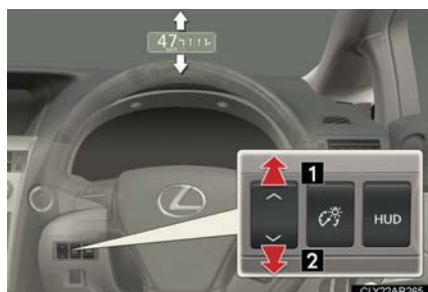
調整のしかた

表示輝度の調整



- 1 明るくなる
- 2 暗くなる

表示位置の調整



- 1 高くなる
- 2 低くなる

表示のカスタマイズ

レーン案内の表示 / 非表示を切りかえることができます。



HUD メインスイッチを 2 秒以上押すと、レーン表示の ON/OFF 切りかえ画面に移行します。HUD メインスイッチを押すごとに ON/OFF は切りかわります。

ヘッドアップディスプレイが ON で車速が 8km/h 以下のときに操作ができます。

 知識

■ 表示輝度について

ヘッドアップディスプレイの表示輝度は、周囲の明るさをライトセンサーで感知して、自動調整されています。(→P. 201)

■ ヘッドアップディスプレイについて

サングラス（特に偏光サングラス）をかけていると、ヘッドアップディスプレイが見えづらい場合があります。表示輝度を調整するか、サングラスをはずしてください。

 警告

■ 安全にお使いいただくために

映像の明るさ、および表示位置は安全運転に支障がないように適切な状態に調整してください。調整した映像の明るさや表示位置によっては、運転者の視界のさまたげから思わぬ事故につながり、重大な傷害または死亡におよぶおそれがあります。

 注意

■ 部品の損傷を防ぐために

- ヘッドアップディスプレイの開口部にものを置かないでください。

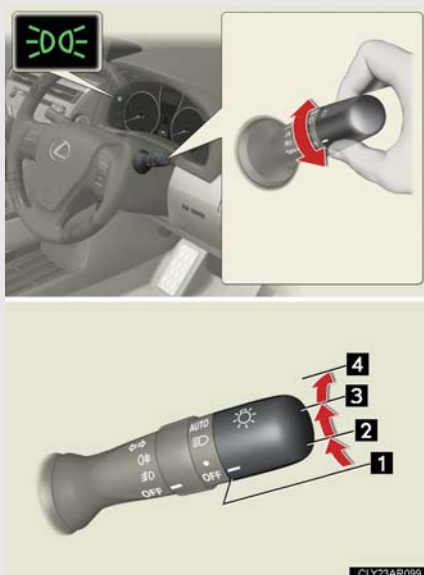


- ヘッドアップディスプレイ開口部にものが落ち込んでしまったときは、すみやかに取り除いてください。また、水などの液体をこぼさないでください。機械の故障の原因となります。

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方

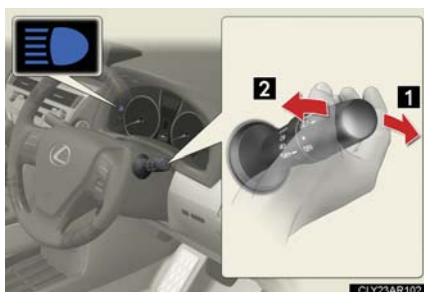
ライトスイッチ

自動または手動でヘッドライトなどを点灯できます。



- 1 **OFF** 消灯
- 2 **●** 車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルライトを点灯
- 3 **≡D** 上記ライトとヘッドライトを点灯
- 4 **AUTO** ヘッドライト、車幅灯などを自動点灯・消灯（“パワー”スイッチがONモードのとき）

ハイビームにする



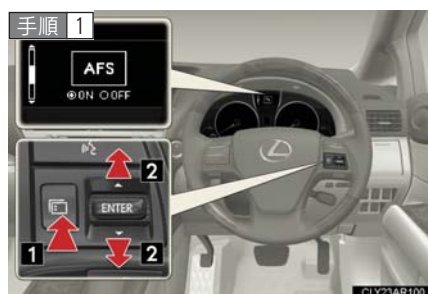
- 1 ライト点灯時ハイビームに切りかえ
レバーを元の位置へもどすとロービームにもどります。
- 2 レバーを引いている間、ハイビームを点灯
ライトが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーをはなすと、ロービームにもどる、または消灯します。

AFS (アダプティブフロントライティングシステム)

AFS は交差点やカーブでの視認性を向上させるため、ハンドル操作によって変化するタイヤの角度や車速に応じてヘッドライトの光軸を自動で調整します。

車速が 10 km/h 以上のときに作動します。

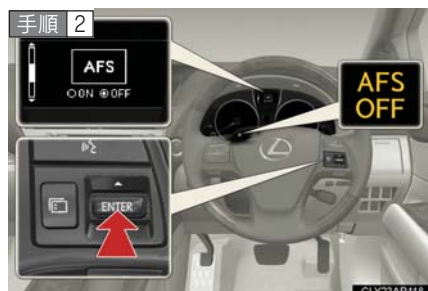
■ AFS を OFF にするには



1 メニュースイッチを押す

マルチインフォメーションディスプレイがスイッチモードに移行します。

2 ENTER スイッチを上下に操作して AFS を表示させる。



ENTER スイッチを押して、OFF に切りかえると AFS OFF 表示灯が表示されます。

ENTER スイッチを押すごとに ON/OFF は切りかわります。

メニュースイッチを押すと、元の画面にもどります。

知識

■ ライトセンサー



センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

■ ライト消し忘れ防止機能

“パワー”スイッチをアクセサリモードまたは OFF にして運転席ドアを開けるとヘッドライトと尾灯が消灯します。

再びライトを点灯する場合は、“パワー”スイッチを ON モードにするか、一度ライトスイッチを **OFF** にもどし、再度  または  の位置にします。

■ オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化にあわせて、ヘッドライトの光軸を自動で調整します。

■ AFS OFF 表示灯が点滅するときは

システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店に連絡してください。

■ カスタマイズ機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。(カスタマイズ一覧 →P. 392)



注意

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でライトを長時間点灯しないでください。

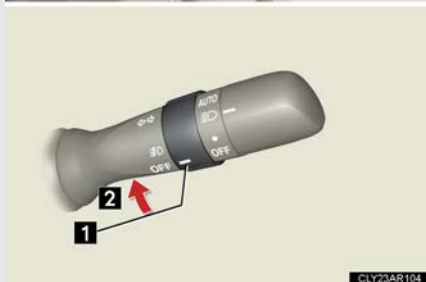
2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方 フォグライトスイッチ

雨や霧などの悪天候下で視界を確保します。

フロントフォグライトスイッチ*



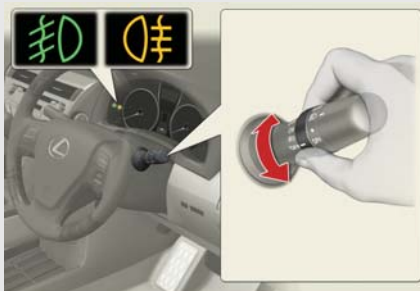
- | | | |
|---|------------|------|
| 1 | OFF | 消灯する |
| 2 | ⦿ | 点灯する |



CLY23AR104

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

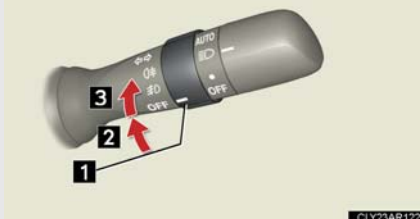
フロント&リヤフォグライトスイッチ*



- 1 **OFF** 消灯する
- 2 **ON** フロントフォグライトを点灯させる
- 3 **ON** フロント&リヤフォグライトを点灯させる

手を離すと **ON** の位置までもどります。

再度操作すると、リヤフォグライトのみ消灯します。



知識

■点灯条件

フロントフォグライト:ヘッドライトまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

リヤフォグライト:リヤフォグライトは、フロントフォグライトが点灯しているときのみ使用できます。

■リヤフォグライトについて

- リヤフォグライトが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

- 雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。

視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。

必要なとき以外は使用しないでください。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

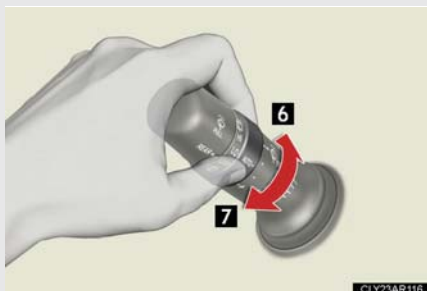
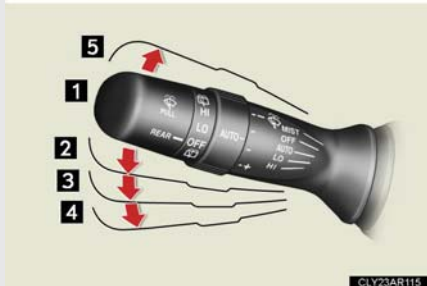
2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方 ワイパー & ウォッシャー（フロント）

AUTO を選択しているとき、雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します。

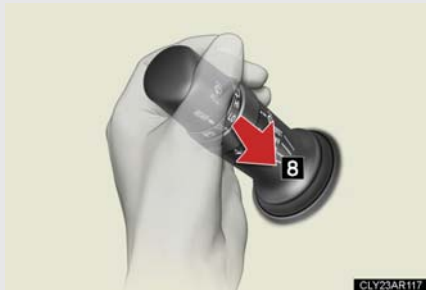
AUTO が選択されているときは、次のようにツマミをまわして、雨滴センサーの感度を調整できます。



- | | | |
|---|-------------|-----------|
| 1 | OFF | 停止 |
| 2 | AUTO | 雨滴感知オート作動 |
| 3 | LO | 低速作動 |
| 4 | HI | 高速作動 |
| 5 | MIST | 一時作動 |



- | | |
|---|----------------|
| 6 | 雨滴センサーの感度調整（低） |
| 7 | 雨滴センサーの感度調整（高） |



8 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。(数回作動したあと、液だれ防止としてさらに1回作動します)

知識

■ 作動条件

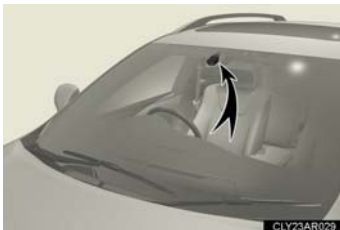
“パワー” スイッチが ON モードのとき

■ 車速による作動への影響

AUTO 選択時以外でも、車速によってウォッシャー連動時のワイパー作動（液だれ防止作動が働くまでの時間）が変わります。

LO 選択時は停車時のみ間欠作動へ切りかわります。
(雨滴センサーの感度調整が最高に調整されているときは、低速作動を続けます。)

■ AUTO 作動について



● 雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

- “パワー” スイッチが ON モードのときにワイパースイッチを **AUTO** にすると、動作確認のためワイパーが1回作動します。
- ワイパースイッチが “AUTO” モードのときに雨滴センサーの感度調整を高側へ調整すると、動作確認のためワイパーが1回作動します。
- 雨滴感知センサーの温度が90℃以上または-15℃以下のときは、AUTO作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。



警告

■ AUTO モード時のワイパー作動に関する警告

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが動くおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。



注意

■ フロントガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作しつづけないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったときは

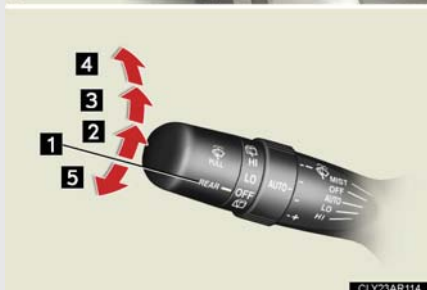
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方 ワイパー&ウォッシャー（リヤ）

ワイパーを以下のように操作して作動を選択します。



- | | | |
|---|------------|-------------------------------|
| 1 | OFF | 停止 |
| 2 | LO | 間欠作動 |
| 3 | HI | 通常作動 |
| 4 | | ウォッシャー液を出す
ワイパーが連動して作動します。 |
| 5 | | ウォッシャー液を出す |



知識

■ 作動条件

“パワー” スイッチが ON モードのとき

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

**注意****■ リヤウインドウガラスが乾いているときは**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったときは

ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方

ヘッドライトクリーナー

ヘッドライトへウォッシャー液を噴射します。



スイッチを押してヘッドライトを洗淨する

知識

■ 作動条件

“パワー” スイッチが ON モードでヘッドライトが点灯しているとき

注意

■ ウォッシャー液が出ないときは

ヘッドライトクリーナースイッチを操作しつづけないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

2-4. その他の走行装置の使い方

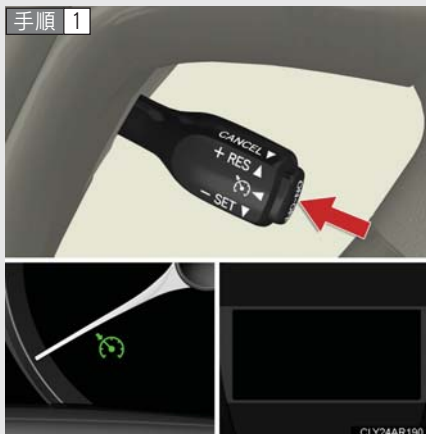
クルーズコントロール*

アクセルペダルを踏まなくても一定の速度で走行できます。



- 1 表示灯
- 2 ディスプレイ
- 3 クルーズコントロールスイッチ

■ 速度を設定する



ON-OFF スイッチを押して、システムを ON にする

OFF には、再びスイッチを押します。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

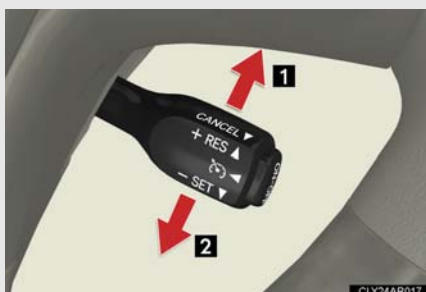
手順 2



希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて設定する

ディスプレイ内に SET と表示されます。

■ 設定速度を変える



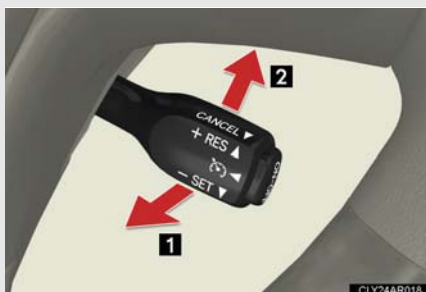
1 速度を上げる

2 速度を落とす

希望の速度になるまでレバーを保持します。

レバーを上または下に軽く操作して手を離せば、設定速度を微調整できます。

■ 定速走行を解除する・復帰させる



1 解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキを踏んだときも解除されます。

2 定速走行にもどすには、レバーを上げる



知識

■ 設定条件について

- シフトレバーが D ポジションまたは S の 4・5・6 レンジのとき設定できます。
- 車速は約 40 km/h から約 100 km/h の範囲で設定できます。

■ アクセル操作

通常走行と同様にアクセルで加速できます。加速後、設定車速にもどります。

■ 定速走行の自動解除

以下のとき、自動的に定速走行が解除されます。

- 設定速度より実際の速度が約 16 km/h 以上低下した
- 速度が約 40 km/h 以下になった
- 車が横すべりして VSC が作動した

■ 定速走行中に表示灯が点滅したときは

ON-OFF スイッチでシステムを一度 OFF にし、再度設定してください。

設定できないとき、またはすぐに解除されるときは、システム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

 警告

■ **誤操作を防ぐために**

クルーズコントロールを使わないときは、ON-OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

■ **クルーズコントロールを使用してはいけない状況**

以下の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。

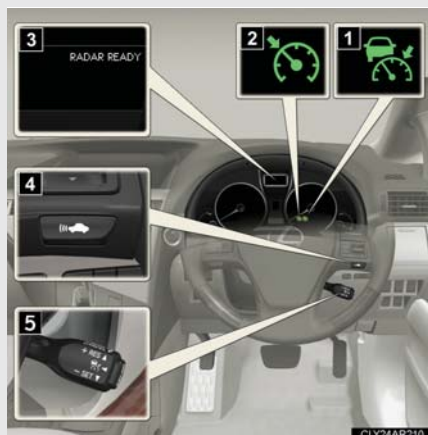
車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路、積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂
急な下り坂では設定車速以上になることがあります。
- トレーラー、または車両けん引時

レーダークルーズコントロール*

アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードで先行車の车速変化に合わせた追従走行を行ったり、定速制御モードにより一定の速度で走行できます。

先行車との車間距離が確保しやすい高速道路や自動車専用道路などでご使用ください。



- 1 表示灯（車間制御モード）
- 2 表示灯（定速制御モード）
- 3 ディスプレイ
- 4 車間距離切りかえスイッチ
- 5 レーダークルーズコントロールスイッチ

■ 制御モードを選択する

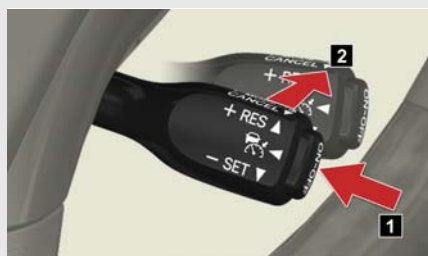


車間制御モードを選択する

ON-OFF スイッチを押してシステムを ON にする

OFF には再度 ON-OFF スイッチを押します。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備



定速制御モードを選択する

1 ON-OFF スイッチを押してシステムを ON にする

OFFにするには再度ON-OFFスイッチを押します。

2 定速制御モードに切りかえ（約 1 秒間押し続ける）

定速制御モードに切りかえると、インジケータ（定速制御モード）が点灯します。

“パワー” スイッチが ON モードになると、車間制御モードに再設定されます。



■ 選択したモード（車間制御・定速制御）で走行する

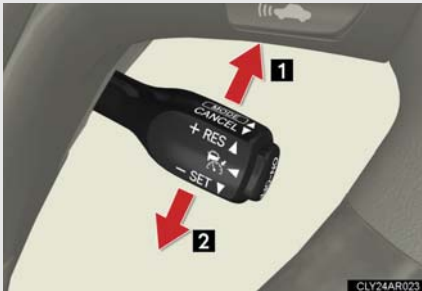


希望の速度まで加速 / 減速し、レバーを下げて速度を設定する

ディスプレイ内に SET と表示されます。



■ 設定速度を変えるには



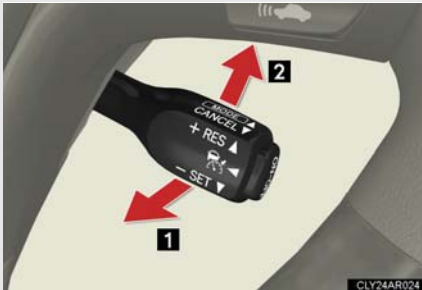
1 速度を上げる

2 速度を落とす

表示が希望の車速になるまでレバーを保持します。

レバーを軽く操作して手を離せば、設定速度を微調整できます。

■ 制御を解除する・復帰させるには



1 解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキを踏んだときも解除されます。

2 もとの制御状態にもどすには、レバーを上げる

■ 車間距離を変更するには（車間制御モード）



スイッチを押すごとに以下のように車間距離を切りかえます。

1 長い

2 中間

3 短い

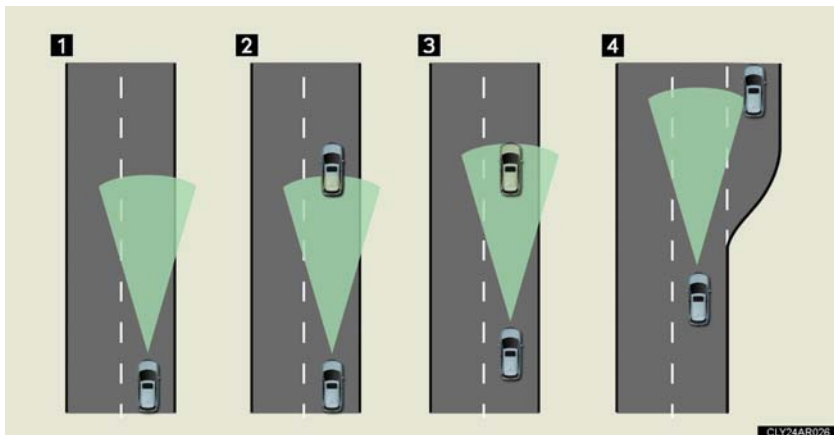
“パワー”スイッチがONモードになるときに1に設定されます。

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。

車間制御モードでの走行

このモードではレーダーセンサーにより、車両前方約 100 m 以内の先行車を検知して、先行車の有無・先行車との車間距離を判定します。

長い下り坂を走行しているときは、車間距離が短めになります。



1 定速走行：

先行車がないとき

運転者が設定した車速で定速走行します。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

2 減速走行：

設定した車速より遅い先行車が現れたとき

自車線に先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

3 追従走行：

設定した車速より遅い先行車に追従するとき

先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるよう追従します。

4 加速走行：

設定した車速より遅い先行車がいなくなったとき

先行車が車線変更したときは設定車速までゆっくり加速し、定速走行にもどります。

接近警報

追従走行中に他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキを踏むなど適切な車間距離を確保してください。



知識

■ 設定条件について

- シフトレバーが D のとき設定できます。(推奨)
シフトレバーが S の 4、5、6 レンジのときでも設定できます。
- 車速は約 50 km/h から約 100 km/h の範囲で設定できます。

■ モードの切りかえについて

車間制御モードを使用してから定速制御モードに切りかえることはできません。また、定速制御モードから車間制御モードへもどすこともできません。システムを OFF してから再度操作してください。

■ アクセル操作

通常走行と同様にアクセル操作で加速できます。

■ 車間制御走行の自動解除

以下の場合、自動的に車間制御走行が解除されます。

- 速度が約 40km/h 以下になった
- 車が横すべりして VSC が作動した
- センサーが何かで塞がれて適切に働かない
- ワイパーが高速で作動した
- 走行モードをスノーモードにセットした

その他の理由で車間制御走行が自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。

■ 定速制御走行の自動解除

以下の場合、自動的に定速制御が解除されます。

- 設定速度より実際の速度が約 16 km/h 以上低下した
- 速度が約 40 km/h 以下になった
- 車が横すべりして VSC が作動した

■ 車間距離選択の目安

以下の目安を参考に車間距離を選択してください。(→P. 217)

(時速 80 km/h で走行している場合)

なお、車速に応じて車間距離は増減します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50 m
中間	約 40 m
短い	約 25 m

■ レーダーセンサーとグリルカバーについて

システムを正しく作動させるためにセンサーとグリルカバーは常にきれいにしておいてください。(ビニールやつらら・雪など、汚れ検知機能で検知できないものもあります。)

汚れを検知したときは、レーダークルーズコントロールは解除されます。



1 グリルカバー

2 レーダーセンサー

■ レーダークルーズコントロールの表示灯・警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、表示灯や警告メッセージ・警告表示・警告ブザーで注意をうながします。(→ P. 344)

■ 接近警報について

車間距離が短くても、以下のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルが踏まれたとき

警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転をおこなう責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。したがって注意義務、危険性の判断、安全の確保は運転者がおこなう必要があります。なお、誤った使い方をしたり、操作慣れなどで注意を怠ったりすると思わぬ危険を招くことがあります。

■ システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。

運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

● 運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

● 運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

 警告

■ **誤操作を防ぐために**

レーダークルーズコントロールを使わないときは ON-OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

■ **レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況**

以下の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。
適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路、積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
- 高速道路の出入り口
- レーダーセンサーが正しく働かないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき
- トレーラーまたは車両けん引時

■ **センサーが正しく検知しないおそれのある先行車**

以下のような場合は、必要に応じてブレーキで減速してください。
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P. 219）も作動しないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 先行車が急に割り込んできたとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 停車中の車がいるとき
- 先行車の後部が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）
- 同じ車線を二輪車が走行中のとき

 警告**■ 車間制御が正しく働かないおそれのある状況**

以下の状況では、必要に応じてブレーキで減速してください。

レーダーセンサーが正常に車両を検知せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーセンサーの作動のさまたげになる場合
- 自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）
- カーブ路や車線幅が狭い道路などを走行する場合
- ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合
- 先行車が急ブレーキをかけた場合

■ レーダーセンサーを正しく働かせるためには

センサーとグリルには以下のことをしないでください。

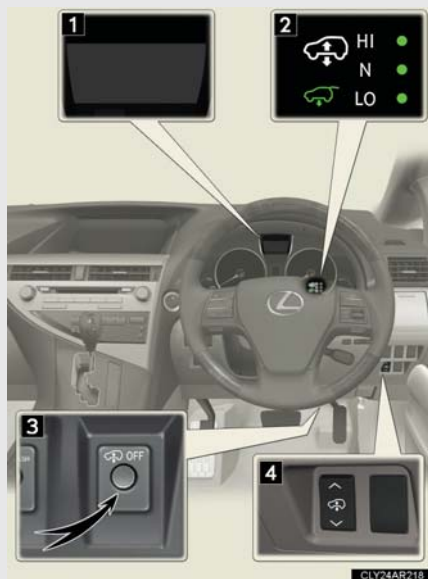
センサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ステッカーを貼ったり、アクセサリーを取り付けたりする
- 汚れたままにしておく
- 分解したり、強い衝撃を与える
- 改造や塗装
- 純正品以外の部品に交換する
- センサーは電波法の基準に適合しています。センサーに貼り付けられているラベルはその証明ですのではありません。また、センサーを分解・改造すると罰せられることがあります。

2-4. その他の走行装置の使い方

電子制御エアサスペンション*

電子制御エアサスペンションは、走行状態に応じて車高を変更することができます。車高切りかえスイッチでご希望の車高を選択してください。



*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

車高の選択

■ 車高モード

- H I モード：悪路走行

標準車高より約 30mm 高いモードです。

H I モードは、車速が約 30km/h 未満のとき選択できます。

- N モード：通常走行

標準車高です。

- L O モード：スポーツ走行

標準車高よりフロント約 20mm、リヤ約 5mm 車高が低いモードです。

- 荷物モード：荷物の積み降ろしや乗降時

標準車高より約 30mm 低いモードです。

■ 車高切りかえスイッチ

車高切りかえスイッチは約 1 秒間押してください。

▶ 運転席側



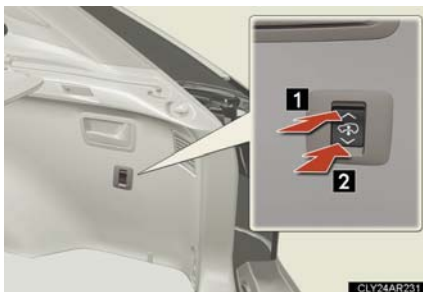
1 車高上昇

荷物モード時に押した場合は、N モードに切りかわります

2 車高下降

LO モード時に押すと荷物モードに切りかわります。

▶ 荷室側



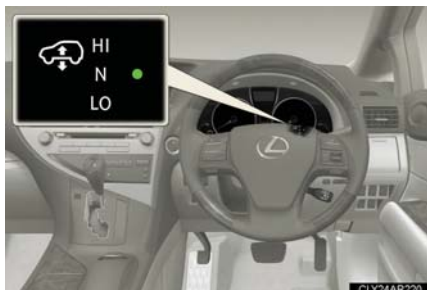
1 車高上昇

荷物モード時に押した場合は、N モードに切りかわります

2 車高下降

N モード時に押した場合は、荷物モードに切りかわります

■ 電子制御エアサスペンション表示灯



インジケーターが点灯し、選択中のモードを表示します。選択したモードへ移行中はインジケーターが点滅します。

■ 車高制御を停止する



停車中にボタンを押す。

ディスプレイにメッセージが表示され、車高制御が停止します。

この状態で車速が約 30km/h をこえた場合は、車高制御を自動的に再開します。

 知識**■ 作動条件**

車高が下がる側へのモード移行中に限り、ハイブリッドシステムを停止したあとも最大で 60 秒間は移行を継続します。

車高切りかえスイッチ（運転席側）

- ハイブリッドシステムが始動しているとき車高が選択できます。
- 荷物モードは、シフトレバーが P のときのみ選択できます。

車高切りかえスイッチ（荷室側）

- シフトレバーが P ポジションでハイブリッドシステムが始動しているとき、LO モードを除いた車高が選択できます。
- “パワー” スイッチが、OFF モードでは、車高が下がる側（V 側ボタン）のみ選択できます。

バックドアが開いているときのみ使用できます。

車高制御 OFF スイッチ

“パワー” スイッチが ON モードのとき車高制御を OFF/ ON できます。

■ 車高モードを変更するときは

車体が障害物に接触することがないように周囲を確認してから車高選択ボタンを操作してください。

■ N モード選択時

高速走行中は、自動的に LO モードと同じ車高に制御されます。

■ HI モード選択時

車速が約 50km/h をこえるか、約 30km/h 以上の状態が 10 秒以上継続したときは、自動的に N モードにもどります。なお、車速が約 30km/h 以下になっても HI モードにはもどりません。

■ LO モード選択時

ハイブリッドシステムを再始動するごとに、自動的に N モードにもどります。

■ 荷物モード選択時

荷物モードのまま走り始め、車速が約 8km/h をこえると、自動的に N モードにもどります。なお、車速が約 8km/h 以下になっても荷物モードにはもどりません。

■エアサスペンションの作動音

乗車や荷物の積み込みなどによって車高が低下したときや車高切りかえスイッチを操作したときなどに、コンプレッサーの作動音やモードの切りかえ音が聞こえることがあります。異常ではありません。

■オートレベリング機能

乗員数や荷物などの積載条件がかわっても、常に一定の車高になるよう、すべてのモードで自動制御されます。

■モードの移行時間について

- 連続して下げるモードを選択すると、排気タンクがいっぱいになり、モードの移行に時間がかかることがあります。
- コンプレッサーのオーバーヒート防止のため、一定時間制御を中断することがあり、モードの移行に時間がかかる事があります。

■車高モードが切りかえできない場合

路面の起伏が激しくサスペンションが伸びきるようなときや、高い縁石に乗り上げているときなどは、車高モードが切りかえできない場合があります。

警告

■以下の状況では車高制御を停止してください。

車高がかわり車両に体が挟まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 脱輪したとき
- ジャッキアップするとき
- レッカー車などで車を持ち上げてけん引するとき
- トレーラーを脱着するとき

必要に応じてハイブリッドシステムを停止してください。

 警告**■ HI モードについて**

- このモードはオフロードなど悪路を走行するときのみ使用してください。重心が高くなるため、ハンドル・ブレーキ・アクセルなどを慎重に操作してください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ルーフラックに荷物を積んでいるときは、HI モードを使用しないでください。重心が高くなるため、急旋回時などで不安定となり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 注意**■ 起伏の激しい道路では、LO モードを選択しないでください**

車体が路面に接触し、損傷するおそれがあります。また、LO モードや荷物モードから自動復帰中の走行も注意してください。

■ N モードへの自動復帰について

以下の場合、自動復帰により車高が上がるため高さ制限のある場所では注意してください。

- 荷物モードのまま走り始めた場合
- LO モードでハイブリッドシステムを再始動した場合

■ 駐車中の車高について

気温の変化や長時間の駐車により、車高が下がる事があります。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて以下の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ ナビ・ブレーキアシスト

ナビゲーションシステムからの情報を利用したブレーキアシストです。
別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力を確保に貢献します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

→P. 236

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ アクティブスタビライザーサスペンションシステム*

ハンドル操作量や車速などに応じて、コーナリング時のロールを抑え、安定した車両姿勢の確保に寄与します。

■ VDIM（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）

ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・EPSを総合的に制御します。
すべりやすい路面の走行などで急なハンドル操作をする際に、ブレーキ・ハイブリッドシステム出力を制御することで、車両の安定性確保に貢献します。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）*

→P. 238

■ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に制動灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

VSC・TRC が作動しているとき



車が横すべりしそうになったとき、タイヤが空転したときは、VSC・TRCの作動を表示するために、スリップ表示灯が点滅します。

2

運転するときに

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

TRC や VSC を停止するには

ぬかるみや新雪などから脱出するときに、TRC や VSC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもハイブリッドシステムの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに VSC OFF スイッチを押すことにより、脱出しやすくなります。

■ TRC を停止するには



TRCを停止するにはスイッチを押す

マルチインフォメーションディスプレイ上にメッセージが表示されます。

もう一度スイッチを押すと、システム作動状態にもどります。

■ TRC と VSC を停止するには



TRC と VSC を停止するには停車時にスイッチを押し 3 秒以上保持する

マルチインフォメーションディスプレイ上にメッセージが表示され、VSC OFF 表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと、システム作動状態にもどります。

 知識**■ VSC OFF スイッチを押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに TRC OFF 表示がされたとき**

TRC・ヒルスタートアシストコントロールが作動できない状態になっています。レクサス販売店にご相談ください。

■ ABS・ブレーキアシスト・VSC・TRC の作動音と振動

- ハイブリッドシステム始動時や発進直後、ブレーキを繰り返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、以下のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 車体やハンドルに振動を感じる
 - ・ 車両停止後もモーター音が聞こえる
 - ・ ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
 - ・ ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■ EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、ハイブリッドシステムを停止すると自動的に TRC と VSC は作動可能状態にもどります。

■ TRC OFF の作動制限

TRC のみ作動を停止している場合は、車速が高くなると TRC は作動を再開します。

■ EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPSシステムのオーバーヒート为了避免のため、EPS の効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、ハイブリッドシステムを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■ 緊急ブレーキシグナルの作動条件

以下のときシステムが作動します。

- 車速約 55 km/h 以上
- ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだと判断された

■ 緊急ブレーキシグナルの解除条件

以下のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- ブレーキペダルを離した
- 車両の減速度から急ブレーキではないと判断された

警告

■ ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。以下の状況では、常に速度を控えめにし、前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥、砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■ TRC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ スリップ表示灯が点滅しているときは

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

**警告****■ TRC や VSC を OFF にするときは**

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■ タイヤを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→P. 390）

異なったタイヤを装着すると、ABS・VSC が正常に作動しません。

タイヤ、またはホイールを交換するときは、レクサス販売店に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

ヒルスタートアシストコントロール

急な上り坂やすべりやすい丘面を発進するときに、車両の後退を防止し発進を容易に行うことができます。



車両が完全に停止している状態で、更にブレーキペダルを踏み込むとヒルスタートアシストコントロールは作動します。

“ピッ”とブザーが鳴り、スリップ表示灯が点滅します。

知識

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件について

- シフトレバーがP以外の位置のとき
- パーキングブレーキがかかっていないとき
- アクセルペダルを踏んでいないとき

■ヒルスタートアシストコントロールについて

- ヒルスタートアシストコントロールが作動しているときは、ブレーキペダルを踏んでいなくても制動灯が点灯します。
- ヒルスタートアシストコントロールの作動時間は、ブレーキペダルから足を離して約2秒間です。
- ブレーキペダルを踏み込んででもスリップ表示灯が点滅せず、ブザーが鳴らないときは、一度ブレーキペダルを踏む力を弱めてください。(車両が後退しない程度) その後もう一度ブレーキペダルを踏み込んでください。
それでも作動しないときは上記の作動条件を確認してください。

■ヒルスタートアシストコントロール制御ブザーについて

- ヒルスタートアシストコントロールが制御可能状態になると、“ピッ”とブザーが1回鳴ります。
- ヒルスタートアシストコントロールが作動中に以下の状態になると、制御終了状態になり“ピッピッ”とブザーが2回鳴ります。
 - ・ブレーキペダルから足を離して、約2秒間運転操作を行わなかったとき
 - ・シフトレバーをPの位置にしたとき
 - ・パーキングブレーキをかけたとき
 - ・ブレーキペダルを再度踏み込んだとき
 - ・ブレーキペダルから足を離さずに約3分以上経過したとき

■スリップ表示灯が点灯したときは

システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店に連絡してください。

警告

■ヒルスタートアシストコントロールについて

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。
- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での長時間の駐車車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

プリクラッシュセーフティシステム*

前方の障害物と衝突の可能性が高い、または前方の障害物と衝突が避けられないと検知したとき、自動的にシートベルトやブレーキなどに働きかけ、乗員のけがや車両損傷の低減に寄与します。

■ 注意喚起表示・衝突警告表示



衝突の可能性があると検知したとき、“ピーピーピー”とブザー音が鳴り、PCS 警告灯が点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに注意喚起表示が出ます。さらに衝突の可能性が高い場合には、“ピピピ…”とブザー音が鳴り、PCS 警告灯が点滅、衝突警告表示を出し、回避操作をうながします。

■ プリクラッシュシートベルト

プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突前にシートベルトを巻き取ります。また、急ブレーキをかけたときや、車がコントロールを失ったときも同様に作動します。(→P. 92)

ただし、VSC 故障の場合は、急ブレーキをかけたときや車がコントロールを失ったときに、システムは作動しません。

■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いときには、ブレーキペダルが踏まれる強さに反応してブレーキ力を増強します。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いときに警告灯、警告表示、ブザー音で警報を行い、さらに衝突が避けられないと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突速度を低減します。スイッチを使って、プリクラッシュブレーキの ON/OFF 切りかえができます。

プリクラッシュブレーキの切りかえ



- 1 プリクラッシュブレーキ OFF
- 2 プリクラッシュブレーキ ON

OFFにするとPCS警告灯が点灯します。

2

運転するとき

レーダーセンサー



走行中に路上またはその付近に車や障害物があるかどうかを検知し、その位置や速度、進路から衝突するおそれがあるかどうか判断します。



知識

■ システムの作動条件

● プリクラッシュシートベルトの作動条件（タイプ A）

- ・ 車速が約 30 km/h 以上
- ・ 緊急ブレーキや車両の横すべりを判断したとき
- ・ フロント席の乗員がシートベルトを着用している

● プリクラッシュシートベルトの作動条件（タイプ B）

- ・ フロント席の乗員がシートベルトを着用している
- ・ 車速が約 5 km/h 以上
- ・ 自車から見た対向車が障害物の接近速度が約 30 km/h 以上

● プリクラッシュブレーキアシストの作動条件

- ・ 車速が約 30 km/h 以上
- ・ 自車から見た先行車や障害物の接近速度が約 30 km/h 以上
- ・ ブレーキペダルが踏まれているとき

● プリクラッシュブレーキの作動条件

- ・ プリクラッシュブレーキスイッチが ON になっている
- ・ 自車速度が約 15 km/h 以上
- ・ 自車から見た先行車や障害物との接近速度が約 15 km/h 以上

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するとき

衝突の可能性がなくても、以下の場合、システムが作動することがあります。

- カーブ入り口の道路脇に障害物があったとき
- カーブで、対向車とすれちがったとき
- 狭い鉄橋を走行したとき
- 路面に金属物があったとき
- 凹凸のある路面を走行したとき
- 右折時に対向車とすれちがったとき
- 前を走っている車に急に近づいたとき
- 立体交差・標識・看板などが進行方向に見えたとき
- 上り坂走行中に看板などの上方金属物が前方に見えるとき
- VSC が OFF で車が横すべりしているとき
- ETC ゲートを高速で通過したとき
- 車高が極端に変化しているとき
- レーダーの軸がずれているとき

また、このとき、シートベルトがすばやく引きもどされたり、ブレーキをかけたときに通常よりブレーキが強くかかったりすることがあります。シートベルトが巻き取られた状態でロックした場合は車を安全な場所に停止してシートベルトをはずし、再度装着してください。

■センサーが検知しない場合

パイロンなどのプラスチック類は検知できません。人や動物、二輪車、木、雪の吹きだまりなどは検知しない場合があります。

■ システムの作動しない環境

プリクラッシュセーフティシステムは、想定されていない状況では有効に作動しないこともあります。

- きついカーブや起伏がある場所
- 交差点などで、自車の進行方向に急な飛び出しがある状況
- 自車の進行方向に車の急な割り込みがある状況
- 雨、霧、雪、砂嵐などの悪天候の状況
- 車が横すべりしている状態
- 車両姿勢が極端に変化している状態

■ システムの自動解除

システムの異常が検知された場合、センサーが障害物を検知できない状況（センサーの汚れなど）では、システムの動作が自動的に解除されます。このような場合には衝突の可能性があってもシステムは有効に作動しません。

■ システムに異常があるときは

警告灯や警告表示が点灯または点滅します。（→P. 334, 338）

**警告****■安全にお使いいただくために**

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

プリクラッシュセーフティシステムは運転者が衝突の危険を見逃してしまった場合に、警報やブレーキ制御により運転者を支援するものです。本システムだけで衝突を回避したり、安全に停止するというものではないため、システムの機能を過信すると重大な事故につながることも考えられます。また、状況によっては有効に機能しないことがあります。

■レーダーセンサーの取り扱い

プリクラッシュセーフティシステムが効果を発揮できるように以下のことをお守りください。

- センサーとグリルは常にきれいにしておく
お手入れをする際は、センサーやグリルを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。
- センサー周辺への強い衝撃を避ける
センサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。強い衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店にて点検を受け、調整してください。
- センサーを分解しない
- センサーに貼られているラベルは電波法の基準に適合している証明ですので、はがさないでください。分解、改造すると電波法の基準に適合しなくなる場合があります
- センサーやグリル周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカーを貼ったりしない
- センサーやグリルを改造したり塗装したりしない
- センサーは電波法の基準に適合しています。センサーに貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。また、センサーを分解・改造すると罰せられることがあります。



警告

■ システムの支援内容に関する注意点

プリクラッシュセーフティシステムは、警報やブレーキ制御により衝突回避支援を行うために、運転者が「見る」、「判断する」、「操作する」過程で、支援を行います。システムの支援には限界があるため、以下の点に注意してください。

● 運転者が見る過程での支援内容

プリクラッシュセーフティシステムは、前方の障害物を可能な範囲で検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

● 運転者が判断する過程での支援内容

プリクラッシュセーフティシステムは、検知しうる前方の障害物の情報のみから衝突の可能性を判断するものです。安全の確保の判断は運転者自らが行う必要があります。

● 運転者が操作する過程での支援内容

被害軽減制動制御は、衝突が避けられないと判断した段階で作動するもので、単独で衝突を回避したり、安全に停止させるものではありません。このため、危険性があれば自らが安全を確保する必要があります。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは以下のことをお守りください。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積む。
- 荷物が安全な位置に置かれているか確認する。
- 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む。
- 燃費が悪化しないようにするために、不要な荷物は積まないようにする。

警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むときは

- 以下の場所には荷物を積まないでください。

お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ・ 運転席足元
- ・ 助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
- ・ トノカバー
- ・ インストルメントパネル
- ・ ダッシュボード

- 車内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷つけるおそれがあります。



■ 荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

■ 冬の前の準備

- 以下のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシュャー液
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を用意してください。

タイヤは 4 輪とも同一サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを用意してください。
(タイヤについて →P. 289)

■ 運転する前に

状況に応じて以下のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分に拭き取ってください。
- フロントガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 足まわりに氷が付いているときは、氷を取り除いてください。
- フェンダー部分やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。

■ 運転するときは

ゆっくりスタートし、速度を控えて走行してください。

■ 駐車するときは

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーを P にいれて駐車し、輪止め※をしてください。

※輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。



知識

■寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。レクサス販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスが拭き取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 前2輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取扱書に従う
- 取り付け後0.5～1.0km走行したら締め直しを行う



警告

■冬用タイヤ装着時の警告

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない

 警告**■ タイヤチェーン装着時の警告**

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 50 km/h（一般路）または 30 km/h（冰雪路）をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急ハンドル、急ブレーキを避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ

■ 駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 注意**■ タイヤチェーンの使用について**

レクサス純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。

レクサス純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。

詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

■ フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するときは

たたいて割らないでください。

ガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

3-1. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	252
・ インテリアライト	253
・ パーソナルライト	253

3-2. 収納装備の使い方

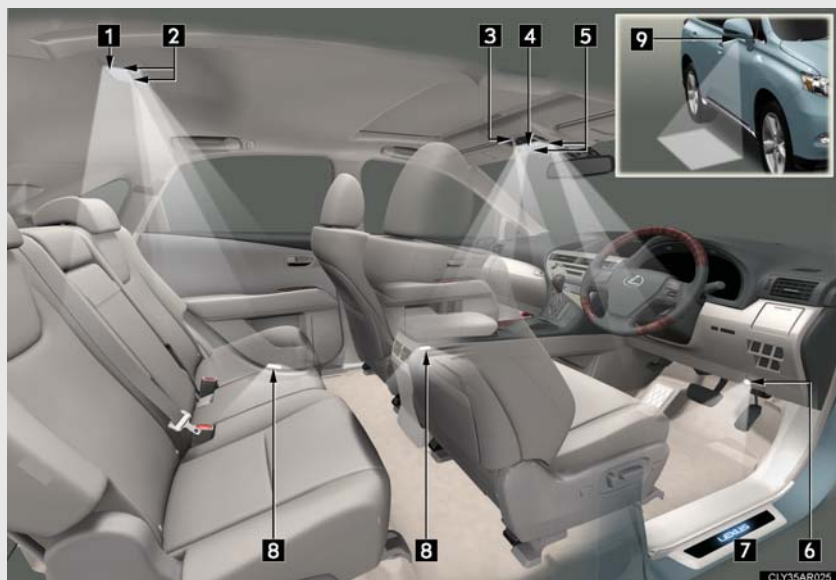
収納装備一覧	255
・ グローブボックス	256
・ ボトルホルダー／ ドアポケット	257
・ カップホルダー	258
・ コンソールボックス	261
・ 小物入れ	262
・ アンダートレイ	263

3-3. その他の室内装備の使い方

サンバイザー	264
バニティミラー	265
アクセサリースOCKET／ アクセサリーコンセント ...	266
シートヒーター＆ ベンチレーター	269
アームレスト	271
コートフック	272
フロアマット	273
ラゲージルーム内装備	275

3-1. 室内灯のつけ方

室内灯一覧

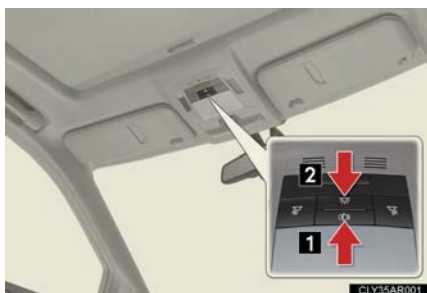


- 1 リヤインテリアライト
- 2 リヤパーソナルライト (→P. 253)
- 3 シフト照明 (“パワー” スイッチアクセサリーまたは ON モード)
- 4 フロントインテリアライト (→P. 253)
- 5 フロントパーソナルライト (→P. 253)
- 6 足元照明
- 7 スカッフプレート照明*
- 8 ドアカーテシー照明
- 9 ドアミラー照明

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

インテリアライト、パーソナルライト

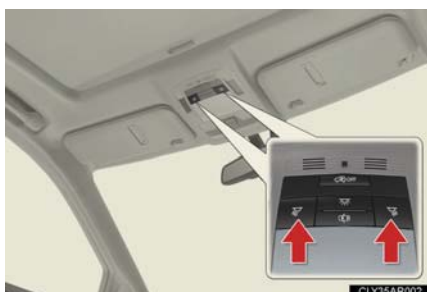
インテリアライト



- 1 ドアの開閉作動に連動してライトの点灯・消灯を切りかえる
- 2 ライトの点灯・消灯を切りかえる

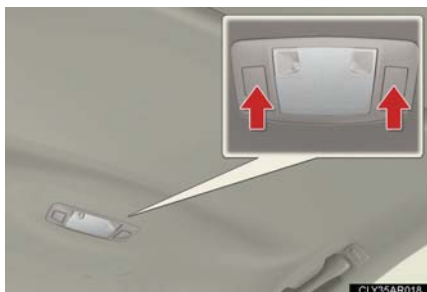
パーソナルライト

▶ フロント



ライトを点灯・消灯する

▶ リヤ



ライトを点灯・消灯する



知識

■ イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・“パワー” スイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

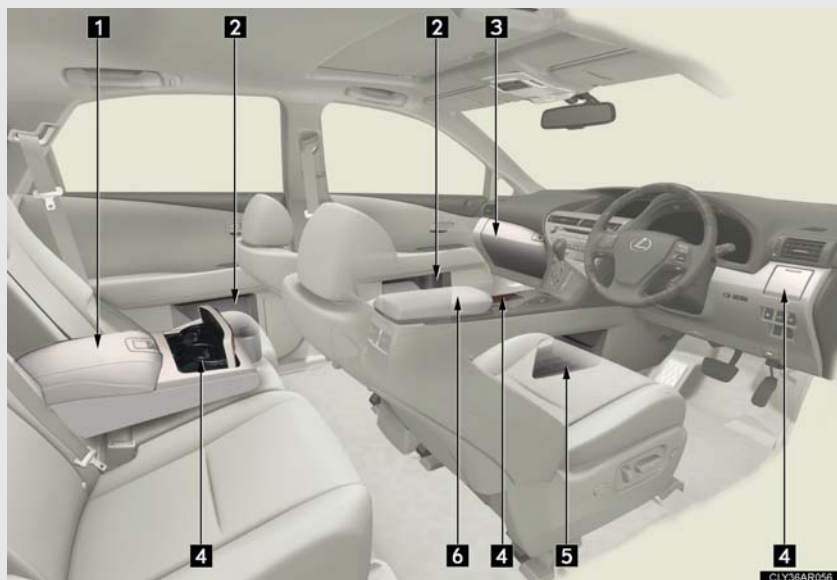
■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

半ドア状態でインテリアライトスイッチのドアポジションが ON のときに、インテリアライトが点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

■ 設定可能な機能

室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。(カスタマイズ一覧 →P. 392)

収納装備一覧



- 1 小物入れ*
- 2 ボトルホルダー／ドアポケット
- 3 グローブボックス
- 4 カップホルダー
- 5 アンダートレイ
- 6 コンソールボックス

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

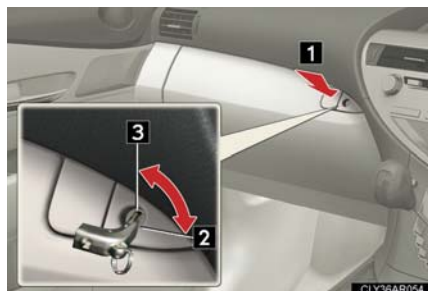
警告**■ 収納装備に放置してはいけないもの**

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
放置したままですと、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

グローブボックス

グローブボックスはロック解除ボタンを押して、開けたり、メカニカルキーを使って施錠・解錠できます。



1 開ける（ボタンを押す）

2 施錠

3 解錠

知識**■ パワーバックドアメインスイッチ***

グローブボックス内に、パワーバックドアメインスイッチがあります。（→P. 68）

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

グローブボックス、ボトルホルダー／ドアポケット

⚠ 警告**■ 走行中の警告**

グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出した
りして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ボトルホルダー／ドアポケット**▶ フロント**

フロントドアのドアポケットは開閉
することができます。

▶ リヤ**📖 知識****■ ボトルホルダーについて**

- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

ボトルホルダー／ドアポケット、カップホルダー

⚠ 警告

■ 走行中の警告（フロントドアポケット）

ドアポケットを必ず閉じてください。

急ブレーキ時などに、開いたドアポケットに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ 収納してはいけないもの

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

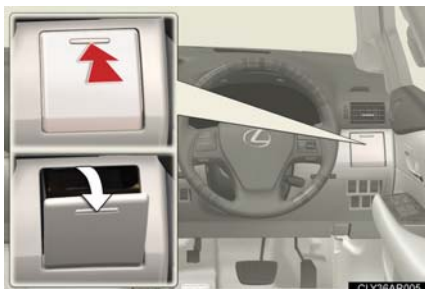
カップホルダー

▶ フロント（タイプ A）



カップホルダーのふたの左側を押して開ける

▶ フロント（タイプ B）

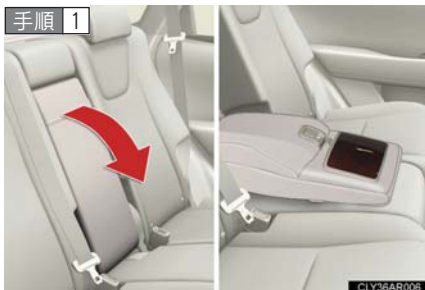


カップホルダーのふたの上側を押して開ける

カップホルダー

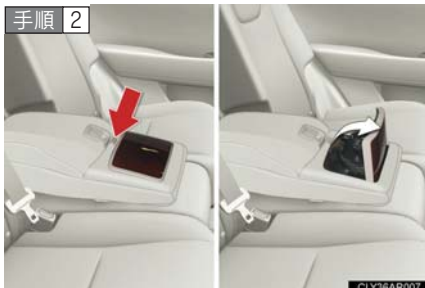
▶ リヤ

手順 1



アームレストを手前に倒す

手順 2

リアアームレストのボタンを押して
開ける
 知識

■ フロントカップホルダー（タイプ A）の仕切り部について

カップホルダー内を清掃するために、仕切り部
を取りはずすことができます。

**警告****■ 収納してはいけない物**

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。また、フタを閉じているときでも、ものを収納しないでください。
急ブレーキや事故により収納していたものが飛び出し、けがをするおそれがあります。

■ やけどを防ぐために

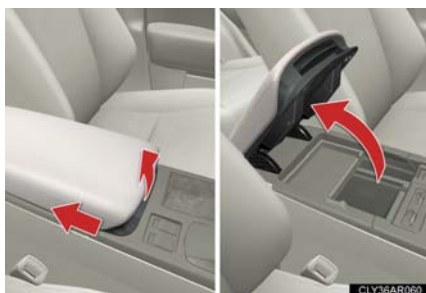
温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

■ 使わないときは

フタを必ず閉じてください。
走行中の思わぬ事故や急停止により、けがをするおそれがあります。

コンソールボックス

コンソールボックス

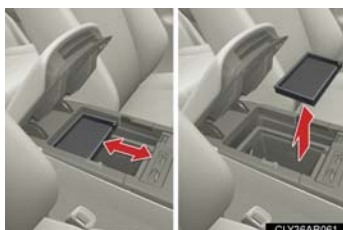


ノブを握ってロック解除し、アームレストをいちばんうしろまでスライドして開く

 知識

■コンソールボックス内のトレイについて

▶ 上段トレイ



トレイは前後へスライド、または取りはずすことができます。

▶ 下段トレイ



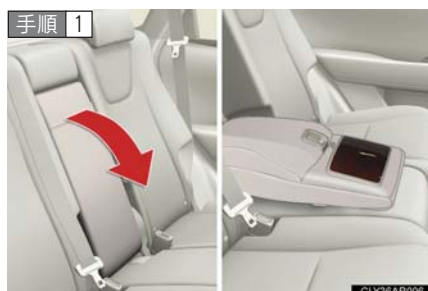
トレイは取りはずすことができます。

⚠ 警告**■ 走行中の警告**

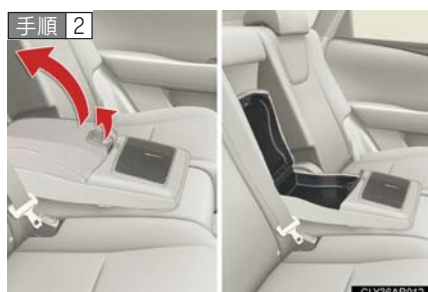
コンソールボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出した
りして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意**■ トレイについて**

トレイの高さ以上に物を入れないでください。ふたの開閉の妨げになるおそれがあり
ます。

小物入れ*

アームレストを手前に倒す



レバーを引き上げてロックを解除
し、ふたを持ち上げて開く

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

小物入れ、アンダートレイ

⚠ 警告**■ 走行中の警告**

小物入れを必ず閉じてください。

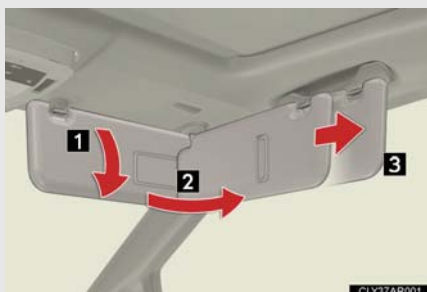
急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

アンダートレイ**⚠ 警告****■ 走行中の警告**

以下のことをお守りください。お守りいただかないと、急ブレーキ時や急旋回時などに、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 転がりやすいものを収納しないでください
- トレイの側面よりも高く積み上げて収納しないでください
- トレイの幅よりも大きなものを収納しないでください

サンバイザー



- 1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- 2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす
- 3 エクステンダーを使用するには、バイザーを横にした状態からうしろへ引く

バニティミラー



カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとライトが点灯します。

注意

■ 使用しないときは

バニティミラーを必ず閉じてください。

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ライトを点灯しないでください。

3-3. その他の室内装備の使い方

アクセサリソケット／アクセサリコンセント

次の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

12 V: DC12 Vで最大電流 10 A(最大消費電力 120 W)以下の電気製品

AC100 V: AC100 Vで最大消費電力 100 W 以下の電気製品

▶ アクセサリソケット (コンソールボックス)

手順 1



コンソールボックスのフタを開き、上段トレイを取り出す

手順 2



下段トレイを取り出す

▶ アクセサリソケット (アンダートレイ)



▶ アクセサリーソケット（ラゲージルーム）



▶ アクセサリーコンセント



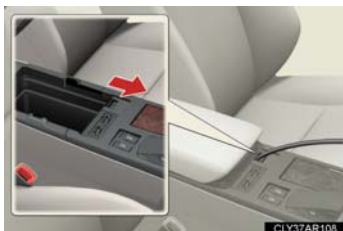
 知識

■ 使用条件

アクセサリソケット：“パワー”スイッチがアクセサリまたは ON モードのとき

アクセサリコンセント：“パワー”スイッチが ON モードのとき

■ 配線を引き出すには



カバーをスライドし、配線を引き出すことができます。

⚠ 注意

■ ショートや故障を防ぐために

ソケットに異物が入ったり、飲料水などがにかかったりしないように、使用しないときは、ふたを閉めておいてください。

■ ヒューズが切れるのを防ぐために

アクセサリソケット：DC12 V で最大電流 10 A（最大消費電力 120 W）以上の電気製品を使用しないでください。

アクセサリコンセント：AC100 V で最大消費電力 100 W 以上の電気製品を使用しないでください。消費電力が 100 W をこえる電気製品を使用すると、保護回路が作動して電源を遮断します。

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でアクセサリソケット／アクセサリコンセントを長時間使用しないでください。

■ 正しく作動しないおそれがある電気製品（アクセサリコンセント）

次のような AC100 V の電気製品は、消費電力が 100 W 以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時のピーク電力が高い電気製品
- 精密なデータを処理する計測機器
- 電源周波数の切りかえ（50/60 Hz）のある機器
- 極めて安定した電力供給を必要とするその他の電気製品

シートヒーター&ベンチレーター*

シートを暖めたり、シートから風を出して通気を良くできます。

■ シートヒーター



1 シートを暖める

インジケーターが点灯します。
大きい数字に合わせるほど高温になります。

■ シートヒーター&ベンチレーター



1 シートを暖める

インジケーターが点灯します。
大きい数字に合わせるほど高温になります。

2 シートから風を出す

インジケーターが点灯します。
大きい数字に合わせるほど風量が強くなります。



知識

■ 作動条件

“パワー”スイッチがONモードのとき

■ 使用しないときは

ダイヤルを0に合わせてください。インジケーターが消灯します。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

 警告

■ **やけどについて**

- 低温やけどを負うおそれがあるため、次の方は特に注意してください。
 - ・ 乳幼児・お子さま・年寄り・病人・体の不自由な方
 - ・ 皮膚の弱い方
 - ・ 疲労の激しい方
 - ・ 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方
- シートに毛布・クッション等を使用しないでください。
シートヒーターの使用により保温性が高まり、異常過熱の原因になります。

 注意

■ **シートヒーター&ベンチレーターの損傷を防ぐために**

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■ **補機バッテリーあがりを防止するために**

ハイブリッドシステムが停止しているときは、スイッチを切ってください。

アームレスト



手前に倒して使用します。

 注意

- アームレストの破損を防ぐために
過度の負荷をかけないでください。

コートフック



使用するときは、コートフックを
押します。

警告

■ コートフックへかけてはいけないもの

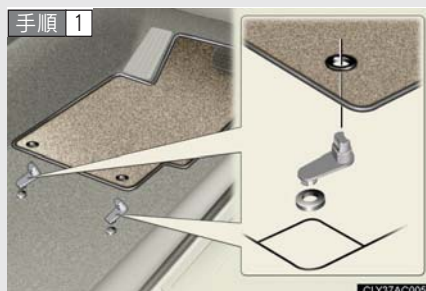
ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。

SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

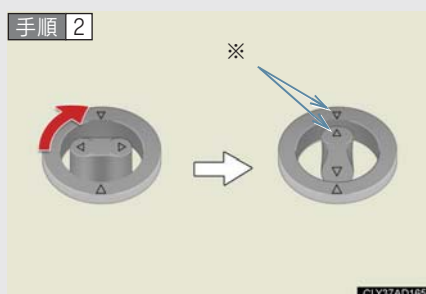
フロアマット

お車（年式）専用のものを、フロアカーペットの上にとしっかりと固定してお使いください。

フロアマット付属の固定フック（クリップ）を使用して固定してください。



固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



固定フック（クリップ）上部レバーをまわして固定する

※△マークを必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状およびフロアマットの固定方法はイラストと異なる場合があります。

詳しい固定方法はフロアマット付属の取扱書をご確認ください。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、重大な事故につながるおそれがあります。

■ 運転席にフロアマットを敷くときは

- レクサス純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 付属のフック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■ 運転する前に



- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- ハイブリッドシステム停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

3-3. その他の室内装備の使い方 ラゲージルーム内装備

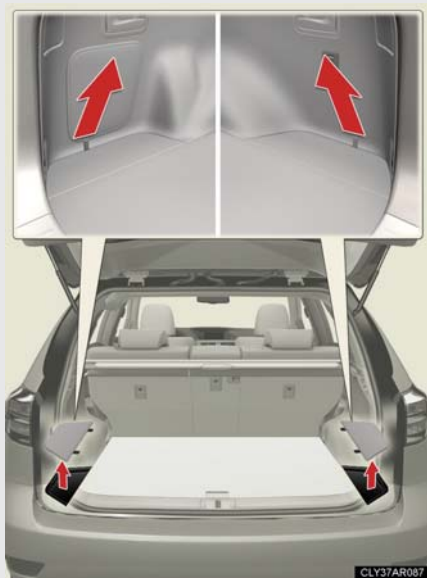
■ デッキフック



フックをを起こして使用してください。

フックを使って荷物を固定することができます。

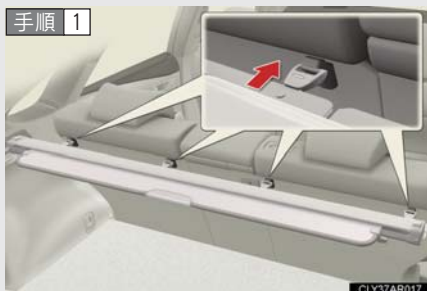
■ デッキアンダートレイ



ストラップを上へ引き上げ、カバーをはずします。

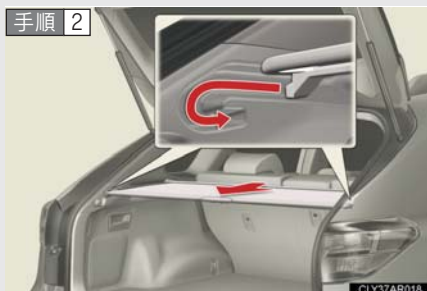
■ トノカバー

手順 1



サブカバーのクリップをリヤシートのホルダーに取り付ける。

手順 2

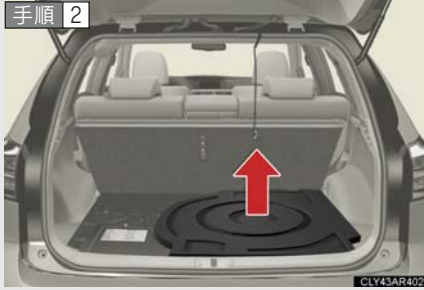


カバー部を手前に引き、左右のホルダーに取り付ける。

■ 三角表示板収納スペース

手順 1 デッキボードを持ち上げる。(→P. 356)

手順 2



スペアタイヤカバーを取りはずす。

手順 3

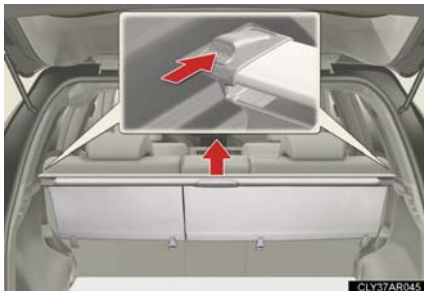


三角表示板を収納することができます。

(大きさ、形によっては収納できないことがあります。)

トノカバーを取りはずす

▶ フロントトノカバー



ボタンを押しながらトノカバーを持ち上げます。

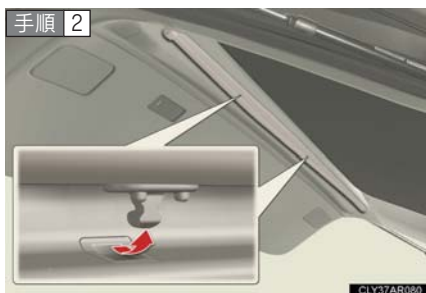
▶ リヤトノカバー

手順 1



リヤトノカバー外側の取り付け部をはずします。

手順 2



リヤトノカバー内側の取り付け部をはずします。

知識

■ リヤトノカバーを取りつけるときは

- 取り付け位置を確認しながら、奥までしっかり押しこんでください。
- 取り付け後は、リヤトノカバーが確実に固定されていることを確認してください。

**警告****■ デッキフックを使用しないときは**

必ずもとの位置にもどしておいてください。

■ トノカバーについて

トノカバーの上には、お子さまが乗ったりしないようにしてください。トノカバーが破損しお子さまが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

お手入れのしかた

4

4-1. お手入れのしかた

外装の手入れ	282
内装の手入れ	286
タイヤについて	289

4-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	292
ガレージジャッキ	295
エンジンルームカバー	297
電球（バルブ）の交換	298
ヒューズの点検、交換	308
電子キーの電池交換	321
ウォッシャー液の補給	323

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施ください。

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のような柔らかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水を拭き取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける。(およそ体温以下を目安としてください。)

なお、ボデーコート、ホイールコート、ガラスコートなどレクサスケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。



知識

■自動洗車機を使うときは

- 洗車する前に、ミラーを格納してください。(→ P. 100)
- 洗車する前に、ワイパースイッチを OFF にしてください。(→ P. 205)
- 洗車する前に、パワーバックドアメインスイッチ*を OFF にしてください。(→ P. 68)
- ブラシで車体に傷がつき、塗装を損なうことがあります。
- 洗車機によっては、リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や、傷付いたり破損したりするおそれがあります。

■高圧洗車機を使うときは

- 室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近づけすぎないでください。
- 洗車の前に給油口がしっかり閉まっていることを確認してください。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ アルミホイール

- 中性洗剤を使用し、早めによごれを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。
- 夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。
- 洗剤を使用した後は早めに十分洗い流してください。

■ バンパー

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■ レインクリアリングミラーの親水効果回復作業について

鏡面の親水効果は、太陽光をあてることにより徐々に回復します（→ P. 102）が、早く回復させたいときは次の作業を行ってください。

- 手順 1 鏡面に水をかけ、泥汚れなどを洗い流す
- 手順 2 水を含ませたきれいなやわらかい布などで汚れを落とす
- 手順 3 ガラスクリーナーか中性洗剤で洗浄後、十分な水で洗剤を洗い流す
- 手順 4 きれいなやわらかい布などで鏡面に付いた水をふき取る
- 手順 5 屋外に車両を駐車し、鏡面に太陽光を5時間程度あてる
（汚れの量や種類により、回復時間は異なります）



警告

■ 洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると車両火災につながるおそれがあり危険です。

警告

■ フロントウインドウガラスを清掃するときは



ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

- 雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき
- 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
- フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき
- 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■ フロントガラスを清掃するときは

確実にワイパースイッチを OFF にしてください。

AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指や手を挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーを損傷するおそれがあります。

- 雨滴センサー上部のフロントガラスに手でふれたとき
- 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
- フロントガラスに衝撃を与えたとき
- 車内からセンサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■ 排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

 注意

■ 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

- 以下のような場合はただちに洗車してください。
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール、花粉、樹液、鳥のふん、虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり、泥などで激しく汚れたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷がついた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐためによごれを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ ライトの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ライトを損傷させるおそれがあります。
- ライトにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■ ワイパーアームの損傷を防ぐために

ワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側を先に立ててから助手席側を立ててください。また、もとにもどすときは、必ず助手席側から先にもどしてください。

■ 自動洗車機を使用するときは

ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

4-1. お手入れのしかた

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施ください。

■ 車内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布で拭き取る

■ 本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- 薄めた洗剤を柔らかい布に含ませ、汚れを拭き取る
ウール用の中性洗剤を約 5% の水溶液まで薄めたものを使用してください。
- 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤を拭き取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分を拭き取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

■ 合成皮革部分の手入れ

- 掃除機をかけて、大まかな汚れを取る
- スポンジや柔らかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤を付ける
- 数分間そのままにしておいてから汚れを落とし、固く絞ったきれいな布で洗剤を拭き取る



知識

■ 本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■ カーベットの洗淨

カーベットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗淨には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーベットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、拭き取ってから乾燥させてください。

■ シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布かスポンジを使って洗ってください。シートベルトの擦り切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。(→ P. 90)

 警告**■ 車両への水の浸入**

- 床・駆動用電池冷却用吸入口など、車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください（→ P. 34）。駆動用電池や電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や配線などをぬらさないでください。（→ P. 129）
電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

 注意

■ 清掃するとき使用する溶剤について

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
 - ・ シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
 - ・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他の揮発性の溶剤
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■ 革の傷みをさけるために

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする。特に夏場は日陰で車を保管する。
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボディが錆びるおそれがあります。

■ リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

- 熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000 km ごとに行ってください。

■ タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」をお読みください。

● タイヤ空気圧

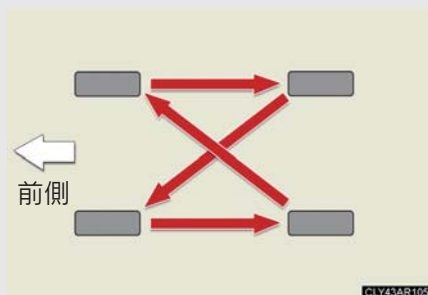
空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

● タイヤの亀裂・損傷の有無

● タイヤの溝の深さ

● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

■ タイヤローテーションの仕方



図で示す順にタイヤをローテーションしてください。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命を延ばすために、レクサスは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。



知識

■ タイヤ空気圧の数値



前輪：230 kPa (2.3 kg/cm²)

後輪：230 kPa (2.3 kg/cm²)

応急用タイヤ：420 kPa (4.2 kg/cm²)

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、レクサス販売店にご相談ください。



警告

■ 点検、交換時の警告

必ず次のことをお守りください。

守らないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスペルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

 警告**■ 異常があるタイヤの使用禁止**

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルを取られたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷をあたえる
- 車が横すべりする
- 車の本来の性能（燃費、車両の安定性、制動距離など）が発揮されない

 注意**■ 走行中に空気漏れが起こったら**

走行を続けしないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■ 悪路走行に対する注意

凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ、ホイール、車体などの部品も損傷するおそれがあります。

ボンネット

車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

手順 1



ボンネット解除レバーを引く。

ボンネットが少し浮き上がります。

手順 2



レバーを引き上げてボンネットを開ける。



知識

■ 補機バッテリーについて



この車両の補機バッテリーはラゲージルーム下部（助手席側）のカバー内にあり、エンジンルームには搭載されていません。（補機バッテリーはバッテリー液の補充が必要ないタイプのため、バッテリー液量等の点検は不要です）

補機バッテリーがあがってしまったときは、エンジンルーム内にある救援用端子を使用して、処置を行います。（→P. 373）

⚠ 警告

■ 走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認ください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 修理・車検・整備点検をする場合は

整備モードに切り替える必要がありますので、必ずレクサス販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認ください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ ボンネットを閉めるときは



ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。

重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ 補機バッテリーの交換について

交換する際は RX450h 専用品を使用してください。専用品以外を使用すると、ガス（水素）が室内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。
補機バッテリーの交換については、レクサス販売店にご相談ください。

 注意

■ ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために

- ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。
- ボンネットにはボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。
 - ・ ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
 - ・ ロッド部を軍手などで触れない
 - ・ ボンネットにレクサス純正品以外のアクセサリ用品を付けない
 - ・ ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用してお車を持ち上げる時は、正しい位置にガレージジャッキを取り付けてください。

正しい位置に取り付けないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

■ フロント側



■ リヤ側



警告

■車両を持ち上げる時には

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



●図のようなガレージジャッキを使用して車両を持ち上げてください。

- ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキ付属の取扱説明書を十分に確認の上、使用してください。
- 車に搭載されているジャッキを使用しないでください。
車両が落下するおそれがあります。
- ガレージジャッキのみで支えられた車両の下に体の一部を入れたり、もぐり込んだりしないでください。
- ガレージジャッキおよび、自動車用ジャッキスタンドをしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用してください。
- 車両がジャッキアップされた状態でハイブリッドシステムを始動しないでください。
- 平らで硬い地面に車両を停車させ、しっかりとパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにしてください。
- ガレージジャッキは、必ずジャッキポイントに正しく取り付けてください。
ガレージジャッキを正しくセットせずに車両を持ち上げると、車両が損傷します。
また、車両がガレージジャッキから落下するおそれがあります。
- 車内に乗員がいるときは車両を持ち上げないでください。
- 車両を持ち上げるときは、ガレージジャッキの上下にものを置かないでください。

4-2. 簡単な点検・部品交換 エンジンルームカバー

ヒューズや電球（バルブ）の点検・交換などをおこなうときに取りはずします。

■ エンジンルームカバーの取りはずし方

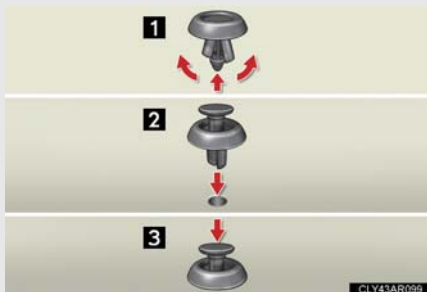
▶ 外側



▶ 前側



▶ クリップの取り付け方



4-2. 簡単な点検・部品交換 電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。詳細が不明な場合やその他の電球交換については、レクサス販売店にご相談ください。

■ 電球の用意

切れた電球の W 数を確認してください。（→P. 390）

■ エンジンルームカバーの取りはずし方

→P. 297

■ パワーバックドアメインスイッチ*を OFF にする

→P. 68

■ フロントのバルブ位置



*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ リヤのバルブ位置



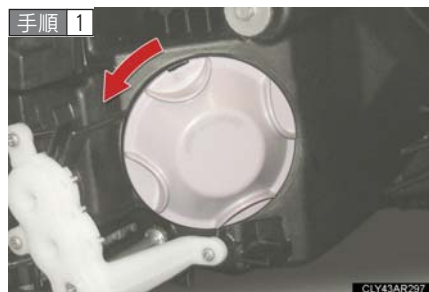
4

お
手
入
れ
の
し
か
た

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

電球交換のしかた

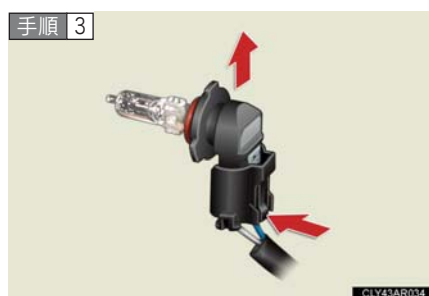
■ ヘッドライト ハイビーム



カバーを取りはずす。



ソケットを取りはずす。



電球を取りはずす。

■ 車幅灯

手順 1 電球を交換するまえに、

▶ 左側



ヒューズボックスのかん合をはずし、ヒューズボックスを移動する。

▶ 右側



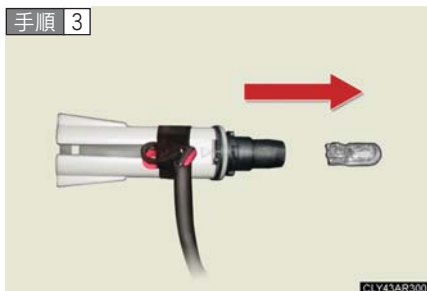
補給口をずらす。

手順 2



ソケットを取りはずす。

手順 3



電球を取りはずす。

■ フロント方向指示兼非常点滅灯

手順 1 電球を交換するまえに、

▶ 左側

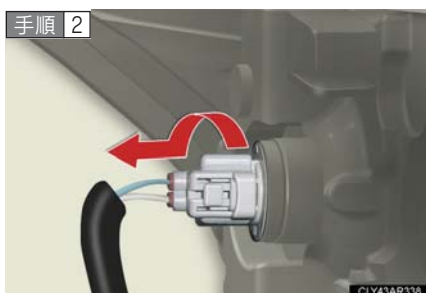


ヒューズボックスのかん合をはずし、ヒューズボックスを移動する。

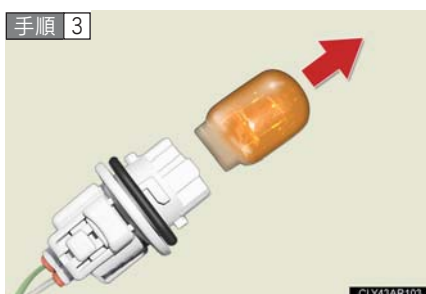
▶ 右側



補給口をずらす。

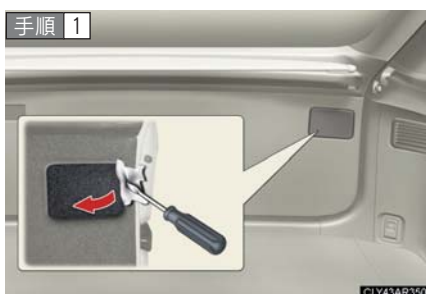


ソケットを取りはずす。



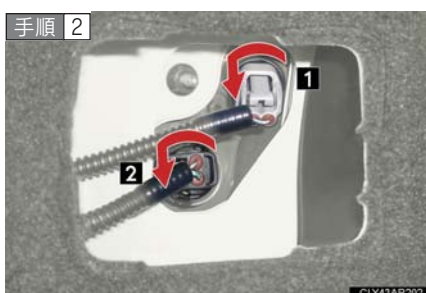
電球を取りはずす。

■ 後退灯、尾灯



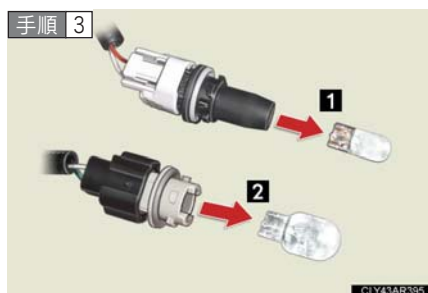
バックドアを開け、カバーの切り欠きにマイナスドライバーなどを差し込んで取り外す。

傷付き防止のため、ドライバーの先端に布などをあててください。



ソケットを取りはずす。

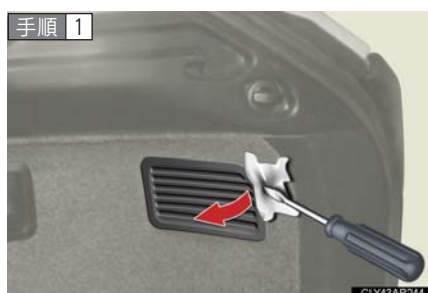
- 1 尾灯
- 2 後退灯



電球を取りはずす。

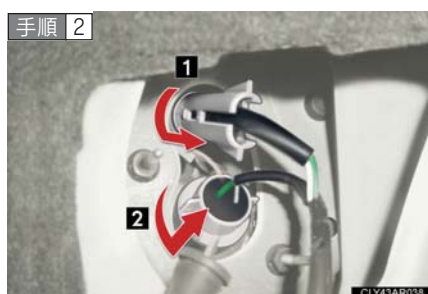
- 1 尾灯
- 2 後退灯

■ リヤ方向指示兼非常点滅灯、尾灯



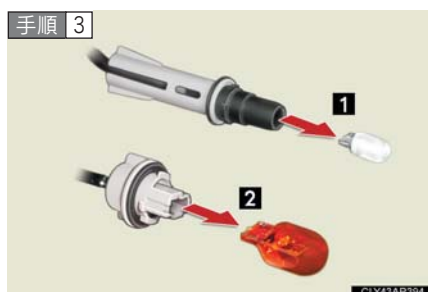
バックドアを開け、カバーの切り欠きにマイナスドライバーなどを差し込んで取り外す。

傷付き防止のため、ドライバーの先端に布などをあててください。



ソケットを取りはずす。

- 1 尾灯
- 2 リヤ方向指示兼非常点滅灯



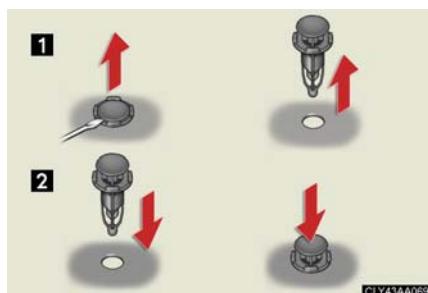
電球を取りはずす。

- 1 尾灯
- 2 リヤ方向指示兼非常点滅灯

■ リヤフォグライト*（右側）



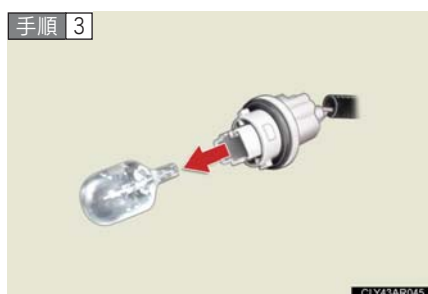
ボルト・クリップをはずし、カバーを取りはずす。



- 1 取りはずし
- 2 取り付け



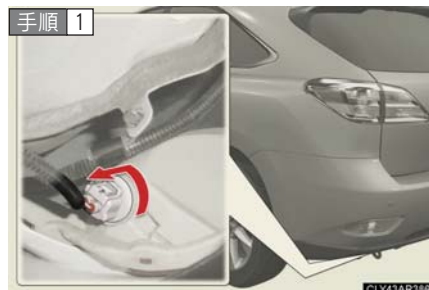
ソケットを取りはずす。



電球を取りはずす。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ リヤフォグライト*（左側）



ソケットを取りはずす。



電球を取りはずす。

■ その他の電球

以下の電球が切れたときは、レクサス販売店で交換してください。

- ヘッドライト（ロービーム）
- サイド方向指示兼非常点滅灯
- フロントフォグライト
- 制動灯
- ハイマウントストップライト
- 番号灯
- ドアミラー照明

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備



知識

■ レンズ内の水滴と曇り

次のようなときは、レクサス販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

- レンズ内側に大粒の水滴がついている
- ライト内に水がたまっている



警告

■ 電球を交換するときは

- ライトは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。
やけどするおそれがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
プラスチック部または金属ケース部を持ってください。また、電球を傷つけたり、落下させたりすると球切れしたり破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドライト内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。



注意

■ ヘッドライト（ハイビーム）、車幅灯、フロント方向指示兼非常点滅灯、後退灯、尾灯、リヤ方向指示兼非常点滅灯、リヤフォグライトの電球交換について

ご自身で電球交換をおこなった場合、車を損傷するおそれがあります。

■ お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

■ LED ヘッドライト（ロービーム）、サイド方向指示兼非常点滅灯、制動灯、ハイマウントストップライト、番号灯について

ヘッドライト（ロービーム）、サイド方向指示兼非常点滅灯、制動灯、ハイマウントストップライト、番号灯は数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、レクサス販売店で交換してください。

ヒューズの点検、交換

ライトがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検をおこなってください。

手順 1 “パワー” スイッチを OFF にする。

手順 2 エンジンルームカバーを取りはずす。(→P. 297)

手順 3 ヒューズボックスを開ける。

▶ エンジンルーム (ヒューズボックス A)



ツメを押しながら、カバーを持ち上げる。

▶ エンジンルーム (ヒューズボックス B)



ツメを押しながら、カバーを持ち上げる。

▶ エンジンルーム（ヒューズボックス C）



ツメを押しながら、カバーを持ち上げる。

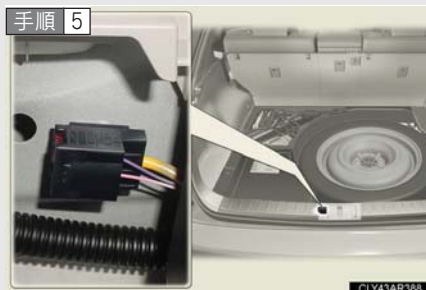
▶ 助手席足元



カバーを取りはずす。

▶ ラゲージルーム

手順 4 デッキボードを持ち上げる。



スペアタイヤカバーを取りはずす。（→ P. 356）

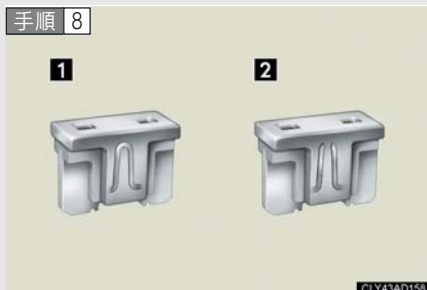
手順 6 故障の状況から、点検すべきヒューズを確認する。（→ P. 311）

手順 7



ヒューズはずしでヒューズを引き抜く。

手順 8



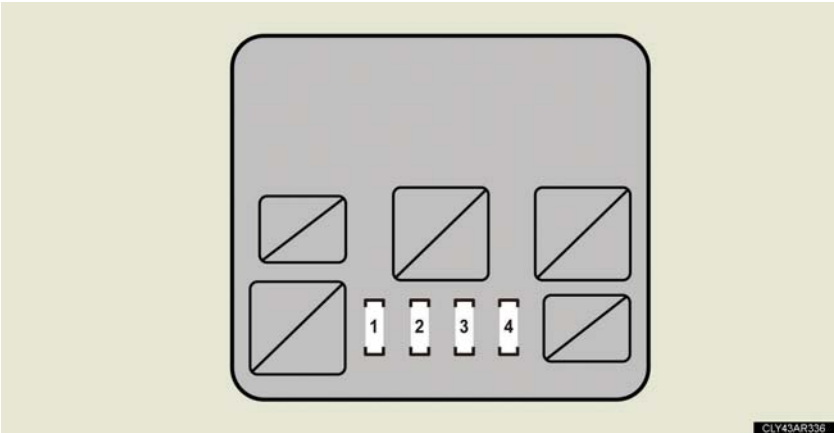
ヒューズが切れていないか点検する。

- 1 正常
- 2 ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示にしたがい、規定容量のヒューズに交換します。

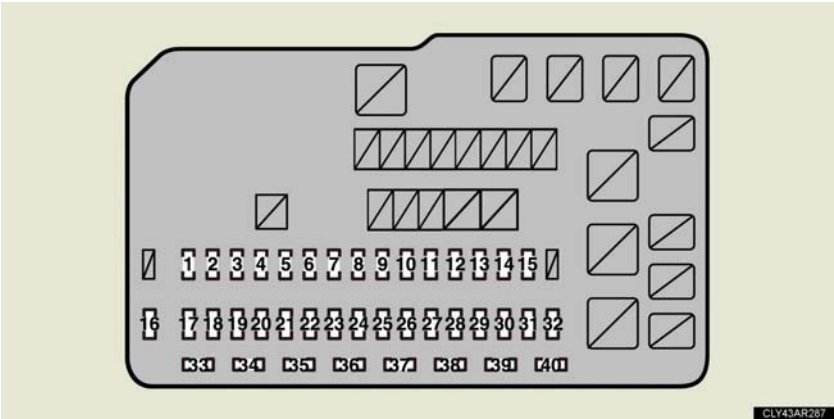
ヒューズの配置と負荷

■ エンジンルーム（ヒューズボックス A）



	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	PCU	15 A	ハイブリッドシステム
2	IGCT NO.2	10 A	ハイブリッドシステム
3	IGCT NO.3	10 A	ハイブリッドシステム
4	INV W/P	10 A	ハイブリッドシステム

■ エンジンルーム（ヒューズボックス B）

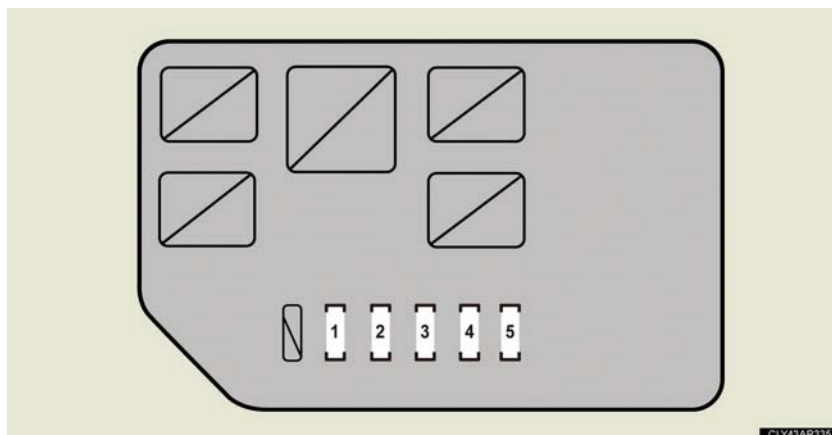


ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	AMP1	30 A	オーディオシステム
2	EFI MAIN	30 A	EFI NO.2、EFI システム
3	AMP2	30 A	オーディオシステム
4	IG2 MAIN	30 A	スタートシステム、IGN、GAUGE NO.2、ECU IG2
5	IP JB	25 A	パワードアロックシステム
6	STR LOCK	20 A	スタートシステム
7	RAD NO.3	15 A	オーディオシステム、メーター、ナビゲーションシステム
8	HAZ	15 A	方向指示兼非常点滅灯
9	ETCS	10 A	EFI システム
10	RAD NO.1	10 A	オーディオシステム
11	AM2	7.5 A	スタートシステム
12	ECU-B NO.2	7.5 A	エアコンシステム、スタートシステム、エアバッグシステム、電動チルト&テレスコピックステアリング
13	MAYDAY/TEL	7.5 A	MAYDAY/TEL
14	IMMOBI	7.5 A	EFI コンピュータ

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
15	ECB MAIN NO. 3	10 A	ブレーキシステム
16	IGN	10 A	ブレーキシステム、EFI システム、エアバッグシステム
17	DOVE	10 A	室内灯、車幅灯、ラゲッジコンパートメントライト、バニティーミラーライト
18	ECU-B NO.1	10 A	室内灯、車幅灯、電動チルト&テレスコピックステアリング、マルチコミュニケーションシステム、メーター&ゲージ、パワーウィンドウ、シート調整、シートポジションメモリーシステム、パワーバックドア、ヘッドアップディスプレイ、スタートシステム、エアコンシステム、パワードアロックシステム
19	EFI NO.1	10 A	EFI システム
20	WIP-S	7.5 A	ワイパー&ウォッシャー
21	AFS	7.5 A	AFS
22	BK/UP LP	7.5 A	後退灯
23	HEATER NO.2	7.5 A	エアコンシステム、AWD システム
24	ECU IG1	10 A	AFS、電動クーリングファン、クルーズコントロール、サスペンションシステム、ピークルスタビリティコントロール、ピークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント、ブレーキシステム
25	EFI NO.2	10 A	EFI システム
26	F/PMP	15 A	EFI システム
27	DEICER	25 A	ワイパー&ウォッシャー
28	STOP	7.5 A	ピークルスタビリティコントロール、ピークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント、ハイマウントストップライト
29	TOWING BATT	20 A	トレーラーバッテリー
30	TOWING	30 A	トレーラーライト
31	FILTER	10 A	コンデンサー

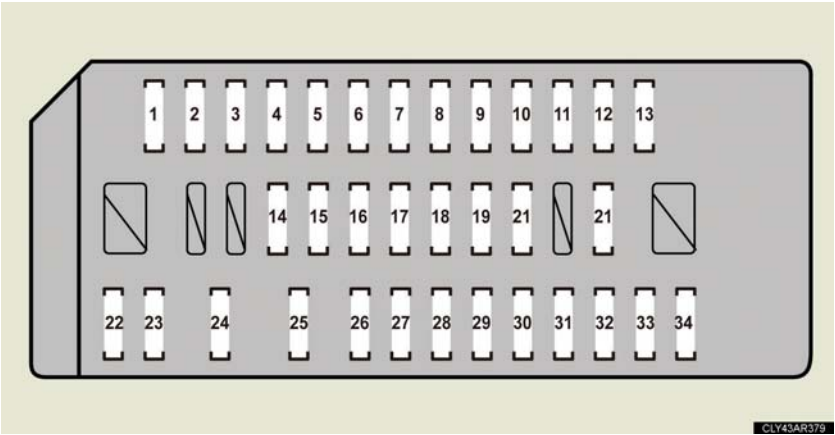
ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
32	IG1 MAIN	30 A	ECU IG1、B K/UP LP、 HEATER NO.2、AFS
33	H-LP RH HI	15 A	ヘッドライト右側（ハイビーム）
34	H-LP LH HI	15 A	ヘッドライト左側（ハイビーム）
35	BIXENON	10 A	———
36	H-LP RH LO	15 A	ヘッドライト右側（ロービーム）
37	H-LP LH LO	15 A	ヘッドライト左側（ロービーム）
38	HORN	10 A	ホーン
39	A/F	20 A	EFI システム
40	S-HORN	7.5 A	S-HORN

■ エンジンルーム（ヒューズボックス C）



	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	ECB MAIN NO.1	10 A	電子制御ブレーキシステム
2	ECB MAIN NO.2	10 A	電子制御ブレーキシステム
3	BATT FAN	15 A	駆動用電池冷却ファン
4	OIL PMP	10 A	ハイブリッドシステム
5	A/C W/P	10 A	エアコン

■ 助手席足元

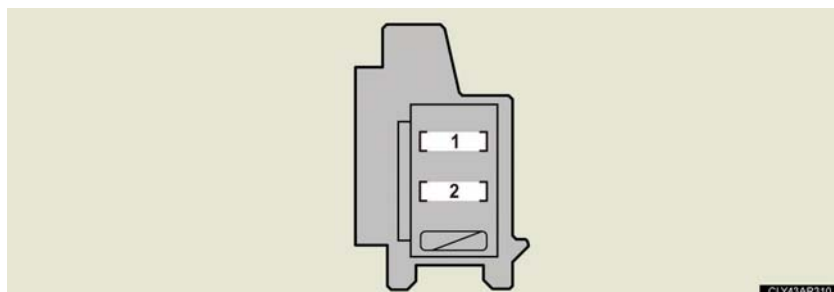


ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	P/POINT	15 A	アクセサリースOCKET
2	ECU-ACC	10 A	ナビゲーションシステム、マルチコミュニケーションシステム、ヘッドアップディスプレイ、電動ミラー、ETC システム
3	CIG	15 A	アクセサリースOCKET
4	RADIO NO.2	7.5 A	オーディオシステム、アクセサリースOCKET
5	GAUGE NO.1	10 A	方向指示兼非常点滅灯、ナビゲーションシステム、ヘッドアップディスプレイ
6	ECU-IG1 NO.3	10 A	方向指示兼非常点滅灯、ワイパー＆ウォッシャー、シートヒーター、スタートシステム、アクセサリースOCKET、ムーンルーフ
7	ECU-IG1 NO.1	10 A	マルチコミュニケーションシステム、パワーステアリングシステム、シフトロックコントロールシステム、電動チルト＆テレスコピックステアリング、ハイブリッドトランスミッションシステム、パワーバックドア、ハイブリッドシステム
8	S/ROOF	30 A	ムーンルーフ

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
9	FUEL OPN	7.5 A	給油口オープナー
10	PSB	30 A	プリクラッシュシートベルト
11	TI & TE	30 A	電動チルト&テレスコピックステアリング
12	DR LOCK	10 A	パワードアロックシステム
13	FR FOG	15 A	フロントフォグライト
14	INVERTER	20 A	——
15	RR FOG	7.5 A	リヤフォグライト
16	D/L ALT B	25 A	マルチコミュニケーションシステム
17	HEATER	10 A	エアコンシステム
18	ECU-IG1 NO.2	10 A	エアコンシステム、EFI システム、エアバッグシステム、マルチインフォメーションディスプレイ、ハイブリッドシステム
19	PANEL	10 A	イルミネーションスイッチ、ナビゲーションシステム、サスペンションシステム、ワイパーデアイサー、シートヒーター、パワーバックドア、オーディオシステム、マルチインフォメーションディスプレイ、エアコンシステム
20	TAIL	10 A	尾灯、番号灯、フロントフォグライト、リヤフォグライト、トローリングコンバーター
21	AIR SUS	20 A	ハイコントロールシステム
22	OBD	7.5 A	ダイアグノーシスコネクター
23	FR DOOR	25 A	フロント右側パワーウインドウ
24	RR DOOR	25 A	リヤ右側パワーウインドウ
25	FL DOOR	25 A	フロント左側パワーウインドウ
26	RL DOOR	25 A	リヤ左側パワーウインドウ
27	FR WASH	25 A	ワイパー&ウォッシャー
28	RR WIP	15 A	ワイパー&ウォッシャー
29	RR WASH	20 A	ワイパー&ウォッシャー

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
30	FR WIP	15 A	ワイパー&ウォッシャー
31	ECU IG2	10 A	スタートシステム、AWD システム、 バックガイドモニター
32	GAUGE NO.2	7.5 A	ゲージ&メーター
33	RH S-HTR	15 A	シートヒーター右側
34	LH S-HTR	15 A	シートヒーター左側

■ ラゲッジルーム



ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	DCDC-S	7.5 A	DC/DC コンバーター
2	CAPACITOR	10 A	ハイブリッドシステム

知識

■ ヒューズを交換したあと

- 交換してもライト類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→P. 298)
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ 補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

 警告

■ **車の故障や、車両火災を防ぐために**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、車の故障や火災につながり、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずレクサス純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

■ **パワーコントロールユニット近くのヒューズボックスについて**

高電圧部位・高電圧の配線が近くにあるため、絶対に点検・交換を行わないでください。

取り扱いを誤ると感電し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意

■ **ヒューズを交換する前に**

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

4-2. 簡単な点検・部品交換 電子キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

■ 用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいプラスドライバー
- リチウム電池 CR1632

■ 電池交換の仕方

手順 1



CLY43AR223

解除レバーをスライドさせメカニカルキーを抜く。

手順 2



CLY43AR224

カバーをはずす。

手順 3



CLY43AD125

消耗した電池を取り出す。

新しい電池は + 極を上にして取り付けます。

知識

■ 電子キーの電池が消耗していると

以下のような状態になります。

- スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスリモコンが作動しない
- 作動距離が短くなる

■ リチウム電池 CR1632 の入手

電池はレクサス販売店、時計店およびカメラ店などで購入できます。

■ カードキーの電池交換が必要なときは

カードキーの電池は市販されていないため、レクサス販売店で交換してください。

警告

■ 取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。

部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ 交換後、正常に機能させるために

以下のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

4-2. 簡単な点検・部品交換

ウォッシャー液の補給



ウォッシャー液が出なかったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたら、ウォッシャー液を補充する。

警告

■ ウォッシャー液を補給するときは

ハイブリッドシステムが熱いときやハイブリッドシステム作動中は、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ハイブリッドシステムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。

塗装にしみがつくおそれがあります。

■ ウォッシャー液の薄め方

必要に応じて水で薄めてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

5-1. まず初めに

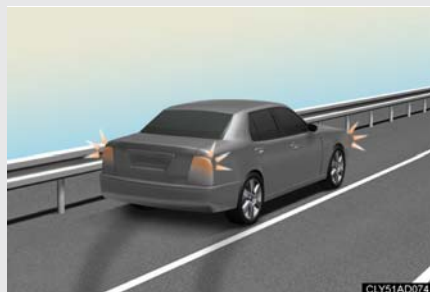
故障したときは.....	326
非常点滅灯	327
発炎筒	328
けん引について.....	330

5-2. 緊急時の対処法

警告灯がついたときは.....	334
警告メッセージが 表示されたときは.....	338
パンクしたときは.....	355
ハイブリッドシステムが ^g 始動できないときは.....	366
シフトレバーが ^g シフトできないときは.....	368
キーを無くしたときは.....	369
電子キーが正常に 働かないときは.....	370
補機バッテリーが ^g あがったときは.....	373
オーバーヒートした ときは	378
スタックしたときは.....	383
車両を緊急停止するには	384

5-1. まず初めに 故障したときは

故障のときは速やかに下記の指示に従ってください。



非常点滅灯を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。

(→ P. 327)

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



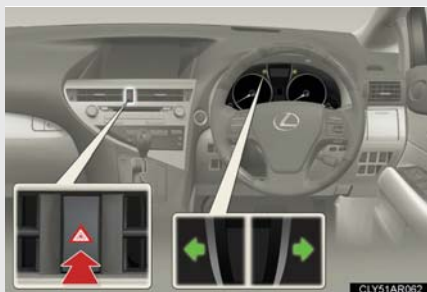
高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。(法的にも義務付けられています。)



緊急を要するときは発炎筒で合図します。(→ P. 328)

5-1. まず初めに 非常点滅灯

事故や故障のときなどにお使いください。



スイッチを押すとすべての方向
指示灯が点滅し、もう一度押すと
消灯します

知識

■ G-Link サービス（ご契約のお客様のみ）

- うっかり通知機能によって、施錠のし忘れ・ドアガラスの閉め忘れ・非常点滅灯の消し忘れを、携帯電話などへメールでお知らせすることができます。
- リモート確認機能によって、施錠の状態やドアガラスの状態、非常点滅灯の状態などを携帯電話から確認することができます。
- うっかり通知機能は車内の電子キーの検知を利用しています。そのため、スマートエントリー&スタートシステムが正しく作動しない場合は、うっかり通知機能が正しく働かないことがあります。

詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書 /G-Link/G-Security」をご覧ください。

注意

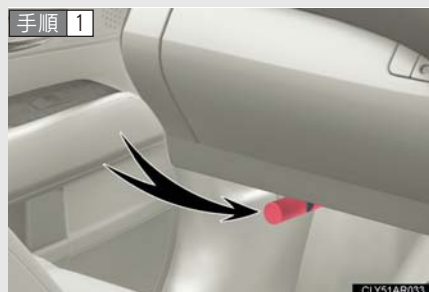
■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステム停止中に非常点滅灯を長時間使用しないでください。

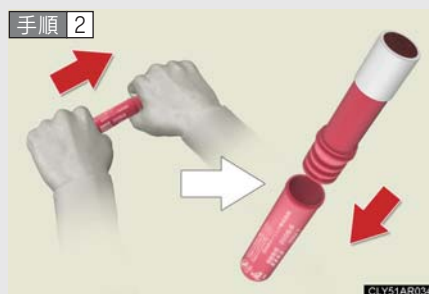
5-1. まず初めに

発炎筒

事故や故障のときなど、緊急時に使用してください。
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。



助手席足元の発炎筒を取り出す



本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして差し込む



先端のフタを取り、すり薬と発炎筒の先端をこすり、着火させる

知識

■ 発炎筒の有効期限

表示してある有効期限が切れる前に、レクサス販売店でお求めください。

**警告****■ 発炎筒が使用できない場所**

以下の場所では、発炎筒を使用しないでください。

煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近づけたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

5-1. まず初めに けん引について

けん引は、できるだけレクサス販売店または専門業者に依頼ください。
やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

■ けん引されるときは

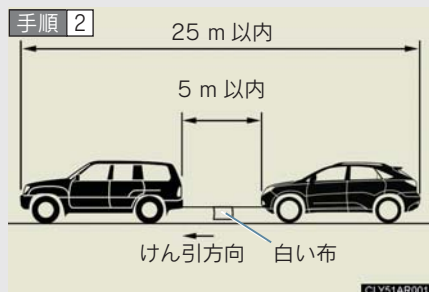
手順 1



車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

前進方向でけん引してください。

手順 2



ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：

0.3 m 平方 (30 cm × 30 cm) 以上

手順 3 ハイブリッドシステムを始動する

ハイブリッドシステムが始動しないときは、“パワー”スイッチをアクセサリモード、または ON モードにしてください。

手順 4 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、前の車の制動灯に注意し、ロープをたるませないようにしてください。

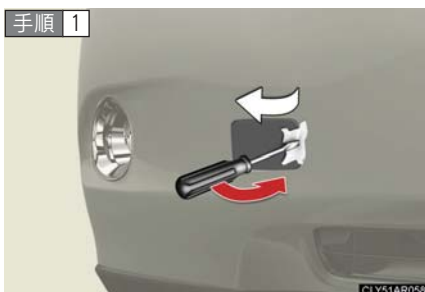
けん引する前に

以下の場合、駆動系の故障が考えられるため、レクサス販売店へご連絡ください。

- READY インジケーターが点灯しているのに車が動かない
- 異常な音ができる

けん引フックの取り付けかた

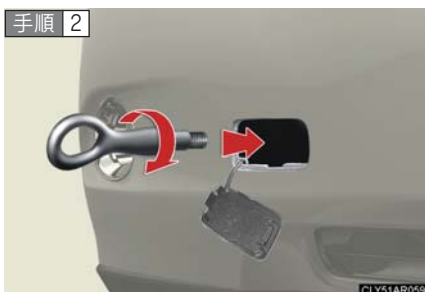
手順 1



マイナスドライバーを使ってフタをはずす

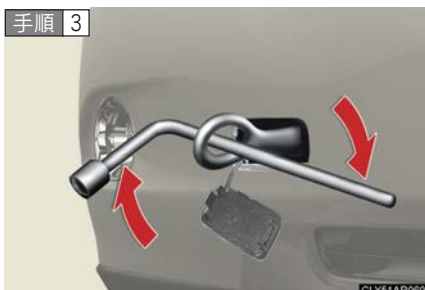
車体の損傷を防ぐため、イラストのように車体とマイナスドライバーの間に布をあててください。

手順 2



けん引フックを穴に挿し込み軽くしめる

手順 3



ホイールナットレンチを使い確実に取り付ける



■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引されるときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■けん引フックの収納位置

→P. 355



■車両を運搬するときは

必ず以下のことをお守りください。

お守りいただかないと駆動装置が損傷したり、車が台車から飛び出すおそれがあります。



2WD 車：前輪が地面に付いた状態で後ろからけん引しない。モーターから電気が発電され、故障や破損の状態によっては漏電による火災のおそれがあり危険です。



AWD 車：前輪または後輪のいずれかの車輪が地面に付いた状態でけん引しない。モーターから電気が発電され、故障や破損の状態によっては漏電による火災のおそれがあり危険です。

 警告**■けん引中の運転について**

- けん引を行うときは細心の注意を払ってください。
けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進や間違った車両操作は避けてください。
けん引フックやロープが破損するおそれがあります。万一の場合、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。
- “パワー”スイッチをOFFにしないでください。
ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- けん引される車は、慎重に運転してください。
ハイブリッドシステムが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが通常より重くなります。

■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にけん引フックをしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかりと取り付けないとけん引時にはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意**■車の損傷を防ぐために**

- けん引するときは以下のことを必ずお守りください。
 - ・ワイヤーロープは使用しない
 - ・速度 30 km/h 以下、距離は車両積載車までの移動などにとどめる
 - ・前進方向でけん引する
 - ・サスペンション部などにロープをかけない
- この車で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。
駆動系部品などに重大な損傷を与えるおそれがあります。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車でけん引してください。
レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて以下のように対処してください。ただし、再度点灯した場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

以下の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	ブレーキ警告灯（警告ブザー）※ ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。 解除後、消灯すれば正常です。

※ パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー
→ P. 344

ただちに停車してください。

以下の警告は、お車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	充電警告灯 充電系統の異常

ただちに点検を受けてください。

以下の警告は、放置するとシステムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	エンジン警告灯 ・ハイブリッドシステムの異常 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常
	SRS エアバッグ/プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常
	ABS & ブレーキアシスト警告灯 ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常
	ブレーキ警告灯 ・回生ブレーキシステムの異常 ・電子制御ブレーキシステムの異常
	パワーステアリング警告灯 ・EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常
 (点滅)	PCS 警告灯* プリクラッシュセーフティシステムの異常 (処置により消灯する場合は、異常ではありません。 → P. 344) システムの異常時以外にも、警告灯が次のように作動します。 ・システムの作動時には、速い点滅でお知らせします。 (→ P. 238) ・プリクラッシュブレーキを OFF にすると点灯します。 (→ P. 239) ・システムが一時的に使用できないときに点灯します。 (→ P. 344)
 (点滅)	AFS 警告灯 アダプティブフロントライティングシステムの異常

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

警告灯	警告灯名・警告内容
	スリップ表示灯 ・VSC システムの異常 ・TRC システムの異常 ・ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常

ただちに処置してください。

以下の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	半ドア警告灯 (警告ブザー) ※ 1 いずれかのドアが確実に閉 まっていない	全ドアを閉める
	燃料残量警告灯 燃料の残量が 10.1L 以下になっ た	燃料を補給する
	運転席シートベルト 非着用警告灯 (警告ブザー) ※ 2 運転席シートベルトの非着用	シートベルトを着用する
	助手席シートベルト 非着用警告灯 (警告ブザー) ※ 2 助手席シートベルトの非着用	シートベルトを着用する
	マスターウォーニング システムの異常時にブザーと 共に点灯・点滅しマルチイン フォメーションディスプレイ 上に警告メッセージを表示し ます。	→ P. 338

※ 1 半ドア走行時警告ブザー：
→ P. 344

※2 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：

運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20 km/h 以上になると警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルト非着用のままだと、ブザーの音が変わり 90 秒間鳴ります。



知識

■ 助手席シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■ パワーステアリング警告灯について

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に点灯することがあります。



警告

■ パワーステアリング警告灯が点灯したときは

ハンドルが非常に重くなることがあります。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。パワーステアリング警告灯が点灯したときは、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示された場合は、落ち着いて以下のように対処してください。



1 マルチインフォメーションディスプレイ

警告メッセージが表示されます。

2 マスターワーニングライト

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

処置後に再度メッセージが表示されたときは、レクサス販売店へご連絡ください。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

以下の警告は、ブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

警告メッセージ	警告内容
ブレーキ異常	ブレーキ液の不足 ブレーキシステムの異常 警告ブザーが鳴ります。
ブレーキシステムチェック	電子制御ブレーキシステムの異常 警告ブザーが鳴ります。

ただちに停車してください。

警告ブザーと共に警告メッセージが表示されます。以下の警告は、お車への損傷や思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

警告メッセージ	警告内容
エンジン油圧不足 	エンジンオイル圧力の異常 エンジンオイルの圧力が異常に低いと表示されます。
ハイブリッド システムチェック 	ハイブリッドシステムの異常

ただちに点検を受けてください。

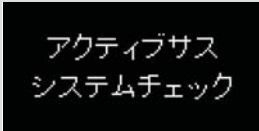
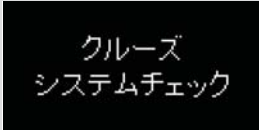
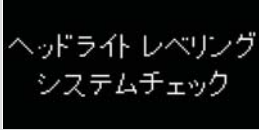
警告ブザーと共に警告メッセージが表示されます。以下の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容
エンジン システムチェック	エンジン制御システムの異常
AWD システムチェック 	AWD システム*の異常
ステアリングロック システムチェック 	ステアリングロックシステムの異常
エアサスペンション システムチェック 	電子制御エアサスペンションシステム*の異常

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容
AFSチェック AFS OFF (点滅) 	AFS の異常
ヘッドランプ システムチェック  (点滅)	ヘッドライトシステムの異常
ブレーキランプ システムチェック 	ブレーキランプ制御システムの異常
PCS システムチェック PCS (点滅) 	PCS (プリクラッシュセーフティシステム) * の異常

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容
 	クリアランスソナー*の異常 異常のある部位が点滅して表示されます。
 	アクティブスタビライザーサスペンションシステム*の異常
  (点滅) または  (点滅) 	レーダークルーズコントロールシステム*の異常 メインスイッチを一度 OFF にし、再度設定してください。
 	ヘッドライトオートレベリングシステムの異常

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容
エアバッグ システムチェック 	SRS エアバッグ・プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常
ABSチェック	ABS・ブレーキアシストの異常
パワーステアリング システムチェック 	EPS の異常
ナビ・ブレーキアシスト システムチェック 	ナビ・ブレーキアシストの異常 ナビ・ブレーキアシストについては別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

ただちに処置してください。

警告ブザーと共に警告メッセージが表示されます。以下の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

警告メッセージ	警告内容	対処方法
	各ドアが確実に閉まっていない 開いてるドアが表示されます。 各ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が5 km/h をこえたときにはブザーが鳴ります。	各ドアを閉める
ボンネット 	ボンネットが確実に閉まっていない ボンネットが確実に閉まっていない状態のまま、車速が5 km/h をこえたときにはブザーが鳴ります。	ボンネットを閉める
バックドア 	バックドアが確実に閉まっていない バックドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が5 km/h をこえたときにはブザーが鳴ります。	バックドアを閉める

警告メッセージ	警告内容	対処方法
ムーンルーフが 開いています  (点滅)	ムーンルーフ*が確実に閉 まっていない状態で“パ ワー”スイッチを OFF にし て運転席ドアを開けた	ムーンルーフを閉める
パーキングブレーキを 解除して下さい	パーキングブレーキが解除 されていない パーキングブレーキをか けたまま、車速が 5 km/h をこえたときには  が点滅しブザー が鳴ります。	パーキングブレーキを解除 する
ウォッシャー液不足	ウォッシャー液が残りわず か	ウォッシャー液を補充する
PCS 現在使用できません 	グリルまたはセンサーの汚 れにより PCS (プリクラッ シュセーフティシステム) *が現在機能していない システムの過熱保護のた め一時的に機能していな い場合にも表示されます。	グリルまたはセンサーの汚 れを取り除く システムの過熱保護によ り表示されている場合は、 システムが通常温度にな り正常復帰するまでしば らくお待ちください。
 センサー 汚れ 	クリアランスソナー*のセ ンサー部分の汚れ、氷など の付着 警告ブザーが鳴ります。 異常のある部位と車マー クが点滅して表示されま す。	汚れおよび氷などを取り除 く

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容	対処方法
レーダー汚れ 清掃必要  (点滅) 	レーダークルーズコントロール*のセンサー部分の汚れ、氷などの付着 警告ブザーが鳴ります。	汚れおよび氷などを取り除く
悪天候 クルーズできません  (点滅) 	レーダークルーズコントロール*の車間制御の測定不可 警告ブザーが鳴ります。	・走行モードを通常走行にかえる ・ワイパーを止めるか、AUTO または高速作動以外にかえる
 (点滅)	衝突の可能性がある（プリクラッシュセーフティシステム*） ヘッドアップディスプレイ*に  も表示されます（部分点滅）。	ブレーキで減速する
ブレーキ!  (点滅)	衝突の可能性が高い、またはプリクラッシュブレーキが作動している（プリクラッシュセーフティシステム*） ヘッドアップディスプレイ*に  も表示されます（点滅）。	ブレーキで減速する

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

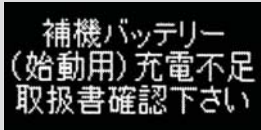
警告メッセージ	警告内容	対処方法
 (点滅)	(レーダークルーズコントロール*の車間制御中) 衝突の危険性 ヘッドアップディスプレイ*に  も表示されます (点滅)。	ブレーキを踏む
エンジン オーバーヒート 	エンジンオーバーヒート 警告ブザーが鳴ります。	→P. 378
ハイブリッド システム過熱 	ハイブリッドシステムの過熱 警告ブザーが鳴ります。	→P. 378
駆動用電池残量低下 Pレンジに入れて下さい  (点滅)	駆動用電池の残量が低下	・警告ブザーが断続して鳴っている場合は、停車してシフトレバーをPに入れ、駆動用電池を充電してください。 ・警告ブザーが連続して鳴っている場合は、すみやかにハイブリッドシステムを停止させ、再始動後シフトレバーをPのままにして駆動用電池を充電してください。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容	対処方法
駐車時はPレンジに入れて下さい  (点減)	シフトレバーがP以外で運転席ドアを開けた	シフトレバーをPに入れてください。
給油して下さい	燃料の不足	燃料残量を点検し、燃料を補給する。

ただちに処置してください。

ハイブリッドシステム始動操作を行ったとき、次の警告が表示された場合は、警告メッセージの表示状態に従ってそれぞれ処置してください。

警告メッセージ	警告内容	対処方法
	補機バッテリーが充電不足	数秒後※に表示が消えたときは 約15分以上、ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。
		表示が消えないときは 「補機バッテリーがあがったときは」（→P. 373）の手順でハイブリッドシステムを始動してください。

※約6秒間表示されます。

注意

■「補機バッテリー（始動用）充電不足」がひんばんに表示されるときは

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーあがりを起こすおそれがあるため、レクサス販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

ただちに処置してください。

それぞれの対処方法に従って処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	なし	キーが 見つかりません  (点滅)	電子キーを携帯していない状態でハイブリッドシステムを始動しようとした	電子キーを携帯する
1 回	3 回	キーが 見つかりません  (点滅)	“パワー”スイッチが OFF 以外の状態で運転席以外のドアが開閉され同乗者が電子キーを持ち出した	電子キーを車内にもどす
		キーが 見つかりません 電源を OFFして下さい (交互に表示)  (点滅)	シフトレバーが P の状態で “パワー” スイッチを OFF にせずにキーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された	“パワー” スイッチを OFF にするまたは電子キーを車内にもどす
1 回	1 回	キーが 見つかりません 電源を OFFして下さい (交互に表示)  (点滅)	“パワー” スイッチを OFF にせずに、電子キーを外に持ち出してドアを施錠しようとした	“パワー” スイッチを OFF にしたあと、再度施錠する

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	なし	キーが 見つかりません  (点滅)	正規の電子キーが 車室内に無い状態 で走行をはじめた	車室内に電子キー があるか確認する
連続音	なし	Pレンジに 入れて下さい  (点滅)	シフトレバーがP 以外の状態で、“パ ワー”スイッチを OFF にせずに運転 席ドアが開いた	シフトレバーをP にする
連続音	連続音	Pレンジに 入れて下さい キーが 見つかりません (交互に表示)  (点滅)	シフトレバーがP 以外の状態で“パ ワー”スイッチを OFF にせずに電子 キーを持ち出した まま運転席ドアが 開閉された	・シフトレバーをP にする ・電子キーを車内に 入れる
1 回	連続音	車室内に キーがあります  (点滅)	車内に電子キーを 置いたまま、ス マートエントリー & スタートシス テムでドアを施錠し ようとした	車内から電子キー を取り出したあと、 再度施錠する

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	なし	ブレーキを踏みながら キーでパワースイッチ に触れて下さい  (点滅)	・メカニカルキーで解錠して“パワー”スイッチを押した際、車室内で電子キーを検出できなかった ・“パワー”スイッチを押したとき車室内で電子キーを検出できないことが2回連続で続いた	ブレーキを踏みながら電子キーで“パワー”スイッチに触れる
1 回	なし	始動時はPレンジに 入れて下さい  (点滅)	ハイブリッドシステム始動不可能なシフトレバー位置でハイブリッドシステムを始動しようとしている	シフトレバーをPに入れてからハイブリッドシステムを始動させる
1 回	なし	電源OFF時はPレンジ に入れてパワー スイッチを押して下さい  (点滅)	シフトレバーがP以外で“パワー”スイッチのモードをOFFにしようとした	“パワー”スイッチのモードをOFFにしたい場合は、シフトレバーをPにし“パワー”スイッチを押す
なし	なし	バッテリー保護の為 自動電源OFFしました	自動電源 OFF 機能が作動した	次回ハイブリッドシステム始動時にエンジン回転数を少し高めにし、約5分間その回転数を保持し補機バッテリーを充電する

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	なし	キーバッテリー 残りわずか 	電子キーの電池残量が少ない	新しい電池と交換する (→P. 321)
1 回	なし	始動時はブレーキを踏み ながらパワースイッチ を押して下さい  (点滅)	“パワー” スイッチ が OFF の状態で運 転席のドアを開閉 してからハイブ リッドシステムを 始動せずに “パ ワー” スイッチを アクセサリモー ドに 2 回した	ブレーキを踏んで “パワー” スイッチ を押す
			電子キーが正常に働かないときのハイブリッドシステムの始動の方法で (→P. 371) “パワー” スイッチに電子キーに触れた	ブザーが鳴ってから 10 秒以内に “パワー” スイッチを押す
1 回	なし	ステアリングロック 未解除  (点滅)	“パワー” スイッチを押してから約 3 秒以内にステアリングロックが解除できなかった	ブレーキを踏んでハンドルを左右に回しながら “パワー” スイッチを押す



■レーダークルーズコントロール*の車間制御中の警告表示について

車間距離が短くても、以下のような場合は警告メッセージが表示されないおそれがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が非常に低速で走行しているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルが踏まれたとき

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

パンクしたときは

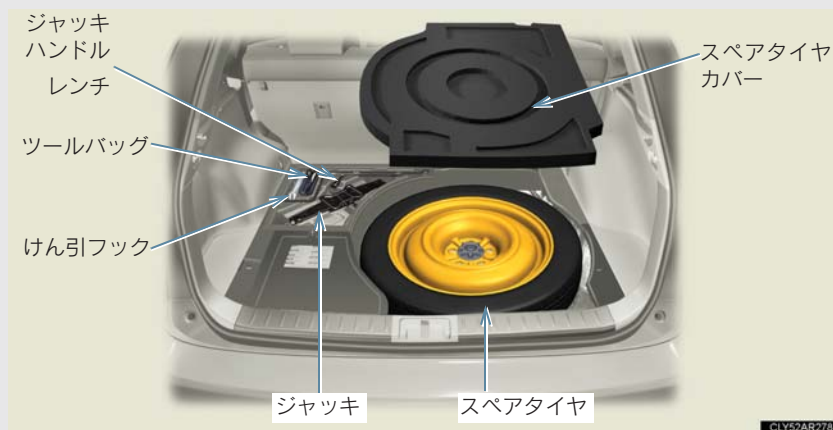
パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。

(タイヤについての詳しい説明は P. 289 を参照ください)

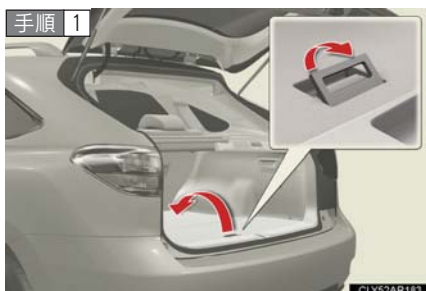
■ ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- 電子制御エアサスペンション装着車：
車高制御を OFF にする (→P. 224)
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

■ 工具とジャッキ位置



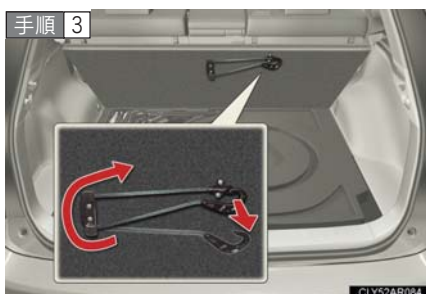
ジャッキの取り出し方



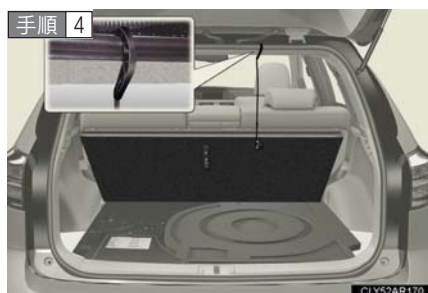
レバーを持ち上げデッキボードを半分に折りたたむ



折りたたんだデッキボードを持ち上げる



デッキボードの裏側のフックを外し、ひもを外す



フックを使って、デッキボードを留める



ジャッキの留め具をはずす

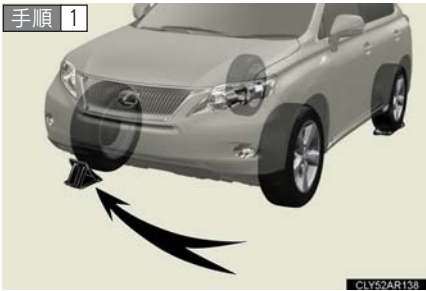
応急用タイヤの取り出し



デッキボードを持ち上げてからスペアタイヤカバーを取りはずす。留め具をはずし、スペアタイヤを取り出す

パンクしたタイヤの交換

手順 1

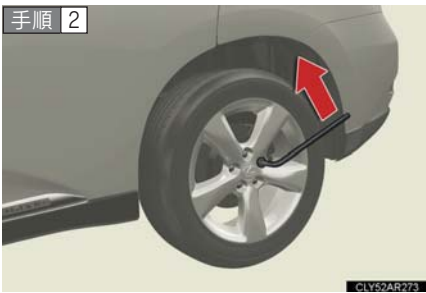


輪止め※をする

パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

※輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

手順 2

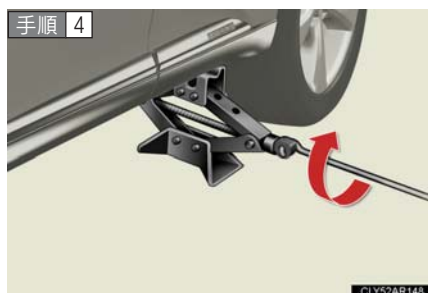


ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる

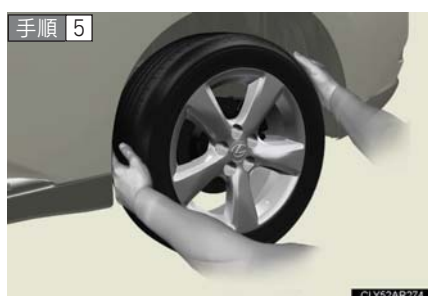
手順 3



ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける



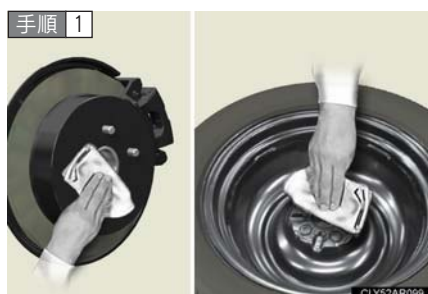
タイヤが地面から少し離れるまで、
車体を上げる



ナットすべてを取りはずし、タイヤ
を取りはずす

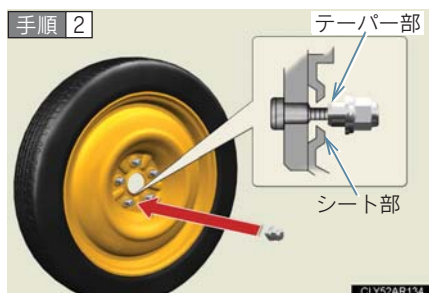
タイヤを直接地面に置くときは、ホイール
の意匠面に傷つかないよう意匠面
を上 に します。

スペアタイヤの取り付け



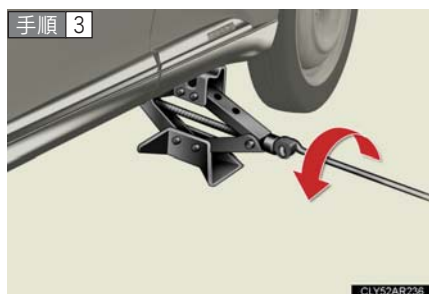
ホイール接触面の汚れを拭き取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中
にナットがゆるみ、タイヤがはずれるお
それがあります。

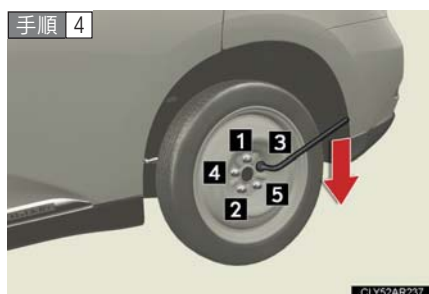


応急用タイヤを取り付け、タイヤが
がたつかない程度まで手でナットを
仮締めする

ナットのテーパ部がホイールのシー
ト部に軽くあたるまでまわす。



車体を下げる



図の番号順でナットを 2、3 度しっ
かり締め付ける

締め付けトルク：
103 N・m (1050 kgf・cm)

手順 5 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

 知識

■ 応急用タイヤについて

- タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみ使用してください。
- 空気圧を必ず点検してください。(→P. 390)

■ 雪道・凍結路で前輪がパンクしたときは

- 手順 1 後輪を応急用タイヤと交換する
- 手順 2 パンクした前輪をはずした後輪と交換する
- 手順 3 タイヤチェーンを前輪に装着する



警告

■ 応急用タイヤを使用するときは

- お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください。
- 同時に2つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。
- できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。
- 急加速、急ブレーキ、急減速、急旋回は避けてください。

■ 応急用タイヤ装着中は

正確な車両速度が検出できない場合があります、以下のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- ABS
- ブレーキアシスト
- VSC
- TRC
- VDIM
- ナビゲーションシステム
- クリアランスソナー*
- バックガイドモニター*
- クルーズコントロール*
- レーダークルーズコントロール*
- 電子制御エアサスペンション*
- プリクラッシュセーフティシステム*

また、以下のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

- AWD システム*

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

 警告**■ 応急用タイヤ使用時の速度制限**

応急用タイヤを装着しているときは、100 km/h 以上の速度で走行しないでください。

応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ ジャッキの使用について

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

以下のことをお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
 - 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
 - ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
 - ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
 - ジャッキで支えられている状態で、ハイブリッドシステムを始動したり走らせたりしない
 - 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
 - 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを載せない
 - 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
 - 車を持ち上げるときは、車高制御を OFF にし、ハイブリッドシステムを停止する（電子制御エアサスペンション装着車）
 - 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車両を下げる際は特に、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。



警告

■ タイヤ交換について

- 次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - ・ 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
 - ・ ねじ部にオイルやグリースをぬらない
ナットを締めるときに必要な以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。
またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部についている場合は拭き取ってください。
- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ ホイールの交換後はすぐに 103 N・m (1050 kgf・cm) の力でナットを締める
 - ・ タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
 - ・ ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、レクサス販売店で点検を受ける

■ パワーバックドア装着車のタイヤ交換について

タイヤ交換などをする際は、パワーバックドアメインスイッチ (→P. 68) を OFF にしてください。OFF にしないと、誤ってパワーバックドアスイッチを操作したときにバックドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。

**注意****■パンクしたままの走行について**

タイヤがパンクした状態で走行を続けしないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。

■応急用タイヤ装着中は段差に注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時に比べ車高が低くなっています。段差を乗り越えるときはご注意ください。

■応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体側に当たり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

ハイブリッドシステムが始動できないときは

ハイブリッドシステムが始動できない原因は状況によって異なります。以下のことをご確認ください、適切に対処してください。

■ 正しいハイブリッドシステムの始動方法（→P. 166）に従っても始動できない

以下の原因が考えられます。

- 電子キーが正常に働いていない可能性があります。（→P. 370）
- イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→P. 120）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。
- 電装品の断線やヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、ハイブリッドシステムを一時的な処置で始動することができます。（→P. 367）

■ 室内灯・ヘッドライトが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

以下の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 373）
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

■ 室内灯・ヘッドライトが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

以下の原因が考えられます。

- 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 373）

処置のしかたがわからないとき、あるいは処置をしてもハイブリッドシステムが始動できないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

緊急始動機能

通常のハイブリッドシステム始動操作でハイブリッドシステムが始動しないときは、以下の手順でハイブリッドシステムが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

- 手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する
- 手順 3 “パワー” スイッチをアクセサリーモードにする
- 手順 4 ブレーキペダルをしっかりと踏んで “パワー” スイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でハイブリッドシステムが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

シフトレバーがシフトできないときは

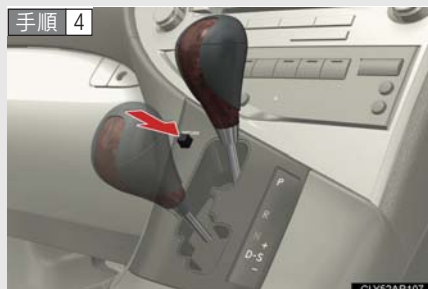
ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにレックス販売店で点検を受けてください。

ただし一時的な処置として、以下の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

手順 1 パーキングブレーキをかける

手順 2 “パワー” スイッチをアクセサリモードにする

手順 3 ブレーキペダルを踏む



シフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。

キーを無くしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、レクサス販売店でレクサス純正品の新しいキーを作ることができます。
(→ P. 46)

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P. 56）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、以下の手順でドアを開けたり、ハイブリッドシステムを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠とキー連動操作



メカニカルキー（→P. 47）を使って操作します。（運転席ドアのみ）

- 1 全ドア施錠
- 2 ドアガラス・ムーンルーフ*が閉まる（まわし続ける）
- 3 全ドア解錠
- 4 ドアガラス・ムーンルーフ*が開く（まわし続ける）

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

モードの切りかえ、ハイブリッドシステム始動の方法

手順 1 シフトレバーが P の状態でブレーキペダルを踏む



電子キーのレクサスエンブレム面で、“パワー” スイッチにふれる

この操作中にいずれかのドアが開閉されると、スマートエントリー&スタートシステムが“パワー” スイッチにふれた電子キーを正しく検知できず警告音が鳴ります。



手順 3 モードの切りかえ：

ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルから足を離して“パワー” スイッチを押します。スイッチを押すごとにモードを切りかえることができます。(→ P. 167)

ハイブリッドシステム始動：

ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、“パワー” スイッチを押します。

処置をしても作動しないときは、レクサス販売店にご連絡ください。



■ ハイブリッドシステムの停止方法

通常のハイブリッドシステムの停止方法と同様に、シフトレバーをPにして“パワー”スイッチを押します。

■ 電池交換について

ここで説明しているハイブリッドシステムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P. 321)

補機バッテリーがあがったときは

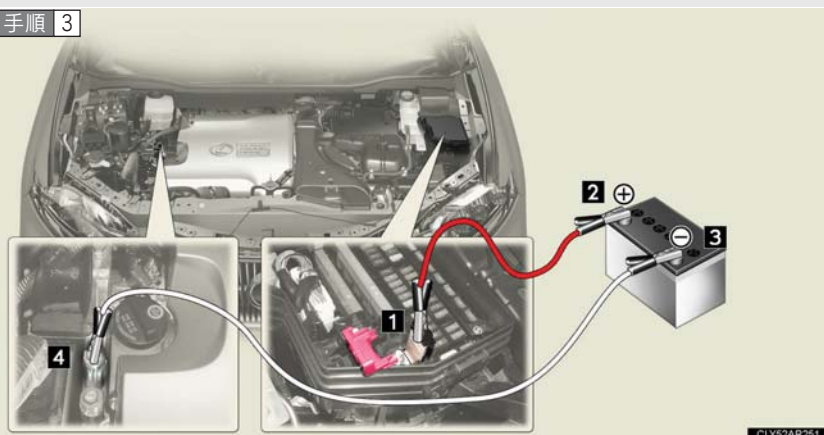
補機バッテリーがあがった場合、以下の手順でハイブリッドシステムを始動することができます。

ブースターケーブルと 12 V のバッテリー付き救援車があれば、以下の手順に従って、ハイブリッドシステムを始動させることができます。

手順 1 ボンネットを開けて、エンジンルームカバーをはずす
(→P. 297)

手順 2 ヒューズボックスカバーをはずし、救援用端子のカバーを開ける。

手順 3



ブースターケーブルを以下の順につなぐ

- 1** 赤色のブースターケーブルを自車の救援用端子につなぐ
- 2** 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの+端子につなぐ
- 3** 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子につなぐ
- 4** 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

手順 4 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する

手順 5 “パワー” スイッチが OFF の状態で、いずれかのドアを開閉する

手順 6 救援車のエンジン回転を維持したまま、“パワー” スイッチをいったん ON モードにしてから、ハイブリッドシステムを始動する

手順 7 READY インジケーターが点灯することを確認する。

点灯しない場合はレクサス販売店にご連絡ください。

手順 8 ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

ハイブリッドシステムが始動しても、早めにレクサス販売店で点検を受けてください。



知識

■ 補機バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

- ハイブリッドシステムが停止しているときは、ライトやオーディオの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■ 補機バッテリーがあがってしまった場合は

“パワー” スイッチを OFF にしてすぐにバッテリーターミナルを取りはずすと、ディスプレイ（ナビゲーション等）に関連する一部のデータがハードディスクに正常に保存されないことがあります。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

■ハイブリッドシステムの始動について

補機バッテリーあがり発生後や、脱着後は次の操作を行ってください。それでも始動しない場合はレクサス販売店にご連絡ください。

- 補機バッテリーあがり発生後は、補機バッテリーが復帰してもハイブリッドシステムが始動しないことがあります。その場合は、シフトレバーを P、“パワー”スイッチを OFF にしていずれかのドアを開閉し、再度始動操作を行ってください。
- 補機バッテリー脱着後は、運転席ドアを開閉して 10 秒以上待ってから始動操作を行ってください。その際、1 度目の操作では始動しませんが異常ではありません。再度始動操作を行ってください。

■補機バッテリーについて

→P. 292

■補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、補機バッテリーがあがってハイブリッドシステムを始動できなくなるおそれがあります。（補機バッテリーはハイブリッドシステムの作動中に自動で充電されます）

⚠ 警告

■補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子以外に接続しない
- +端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは+側と-側の端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない



警告

■ 補機バッテリーの取り扱いについて

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、以下のことを必ずお守りください。

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体につかないようにする
- 補機バッテリーに寄りかかったりしない
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付いたり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診断を受ける
また、医師の診断を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 補機バッテリーの支柱、ターミナル、その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近づけない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ 補機バッテリーあがりの処置をしたあとは

早めにレクサス販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

補機バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けると補機バッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

■ 補機バッテリーの交換について

→P. 293

 注意

■ ショートを防ぐために

ブースターケーブル接続時は、以下のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子以外に接続しない
- 救援用端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは+側と-側の端子を絶対に接触させない

■ ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

■ 救援用端子について

この車の救援用端子は、他車から応急的に補機バッテリーを充電するためのものです。この救援用端子を使用して他車のバッテリーあがりを救援することはできません。

オーバーヒートしたときは

以下のようなとき、オーバーヒートの可能性があります。

- 「エンジンオーバーヒート」がマルチインフォメーションディスプレイに表示：エンジンがオーバーヒートしている可能性があります。
- 「ハイブリッドシステム過熱」がマルチインフォメーションディスプレイに表示：パワーコントロールユニットや電気モーターなどが過熱している可能性があります。

手順にしたがってご対処ください。

対処方法

■「エンジンオーバーヒート」がマルチインフォメーションディスプレイに表示されたとき

手順 1 車を安全な場所に止め、エアコンを止める

手順 2 エンジンルームから蒸気が出ているか確認する

蒸気が出ている場合：

ハイブリッドシステムを停止する。蒸気が出なくなったら、注意してボンネットを開け、ハイブリッドシステムを再始動する

蒸気が出ていない場合：

READY インジケーターが点灯した状態のまま、注意してボンネットを開ける

手順 3 ラジエーター冷却用のファンが作動しているか確認する

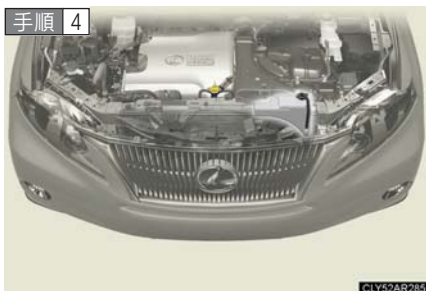
ファンが作動している場合：

「エンジンオーバーヒート」が消えてからハイブリッドシステムを停止する

ファンが作動していない場合：

すぐにハイブリッドシステムを停止して、レクサス販売店に連絡する

手順 4



ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、冷却水の量や冷却水もれを点検する

エンジンルームカバーを取りはずすには (→P. 297)

手順 5



冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



早めに最寄りのレクサス販売店で点検を受けてください。

■「ハイブリッドシステム過熱」がマルチインフォメーションディスプレイに表示されたとき



車を安全な場所に止め、エアコンを止める

オイルクーラーの開口部が異物でふさがれている場合は取り除く。異物がなかった場合や取り除いたあと、しばらくしても表示が消えない場合は **手順 2** を以降を実施する。

手順 2 READY インジケーターが点灯した状態のまま、注意してボンネットを開ける

手順 3 ラジエーター冷却用のファンが作動しているか確認する

ファンが作動している場合：

「ハイブリッドシステム過熱」が消えてからハイブリッドシステムを停止する

しばらく待っても消えない場合は、ハイブリッドシステムを停止して、レクサス販売店に連絡する

ファンが作動していない場合：

すぐにハイブリッドシステムを停止して、レクサス販売店に連絡する



ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、冷却水の量や冷却水もれを点検する

エンジンルームカバーを取りはずすには (→P. 297)



冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水が無い場合は、応急措置として水を補給してください。

早めに最寄りのレクサス販売店で点検を受けてください。

知識

■ オーバーヒートとは

以下の状態がオーバーヒートです。

- メーター内の水温計の針がレッドゾーンに入ったり、ハイブリッドシステム出力が低下する
- エンジンルームから蒸気が出る

警告

■ エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- “パワー”スイッチ上のインジケーターとREADYインジケーターが消灯していることを確認してください。
- ハイブリッド車は、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、ガソリンエンジンが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ベルトやファンなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や衣服・工具などが巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハイブリッドシステムおよびラジエーター・補助タンクが熱いうちはラジエーターキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



注意

■ 冷却水を入れるときの注意

ハイブリッドシステムが十分に冷えてから入れてください。

冷却水はゆっくり入れてください。

ハイブリッドシステムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。

■ 冷却システムの故障を防ぐために次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは以下の方法で脱出してください。

手順 1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてハイブリッドシステムを停止する

手順 2 タイヤ前後の土や雪を取り除く

手順 3 タイヤの下に木や石などをあてがう

手順 4 ハイブリッドシステムを再始動する

手順 5 シフトレバーを D または R に確実に入れ、注意しながらアクセルを踏む

TRC・VSC の作動で脱出にくいときは、TRC または VSC を停止してください。(→P. 232)

**警告****■ 脱出するときは**

前進と後退を繰り返してスタックから脱出する場合、他の車、ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。

スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。

車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

**注意****■ ハイブリッドトランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、以下の手順で車両を停止させてください。

手順 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける。

ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

手順 2 シフトレバーを N に入れる。

▶ シフトレバーが N に入った場合

手順 3 減速後、車を安全な道路脇に停める。

手順 4 ハイブリッドシステムを停止する。

▶ シフトレバーが N に入らない場合

手順 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる。

手順 4



“パワー” スイッチを 3 秒以上押し続けてハイブリッドシステムを停止する。

手順 5 車を安全な道路脇に停める。

⚠ 警告

■ 走行中にやむを得ずハイブリッドシステムを切るときは

ブレーキの効きが悪くなると共にハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。ハイブリッドシステムを切る前に、十分に減速するようにしてください。

車両仕様

6

6-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ
(指定燃料、
オイル量など) 386

6-2 カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ
機能一覧 392

6-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料、オイル量など）

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）	65

エンジンオイル

銘柄※ ¹	容量 [L]（参考値※ ² ）	
	オイルのみ 交換	オイルと オイル フィルター 交換
弊社純正モーターオイル SN 0W-20 ※ ³ (API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 0W-20) 弊社純正モーターオイル SN 5W-20 (API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-20) 弊社純正モーターオイル SN 5W-30 (API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-30) 弊社純正モーターオイル SN 10W-30 (API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 10W-30) 弊社純正モーターオイル SM 0W-20 ※ ³ (API SM, EC SAE 0W-20) 弊社純正モーターオイル SM 5W-30 (API SM, EC SAE 5W-30) 弊社純正モーターオイル SM 10W-30 (API SM, EC SAE 10W-30)	5.7	6.1

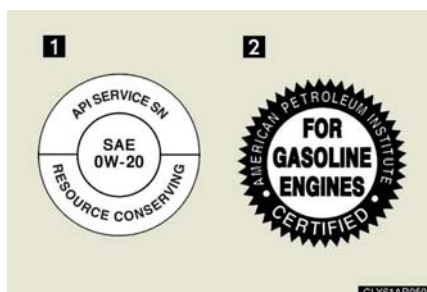
※¹ 使用するオイルの品質により、車の寿命は著しく左右されます。車には、最も適した弊社純正オイルのご使用をおすすめします。弊社純正オイル以外を使用される場合は、弊社純正オイルに相当する品質のものをご使用ください。

※² エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

※³ 0W-20 は新車時に充填されている、省燃費性に優れるオイルです。

■指定エンジンオイル

API 規格 SN/RC、SM/EC、SL/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION (イルサックサーティフィケーション) マークが付いています。

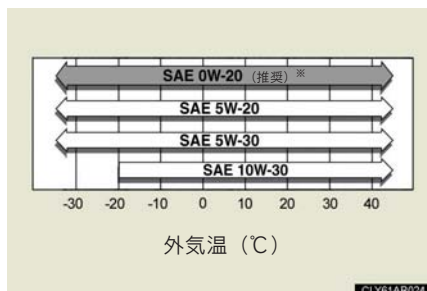


1 API マーク

2 ILSAC CERTIFICATION マーク

■エンジンオイル推奨粘度

下記表に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



※0W-20 は新車時に充填されている、省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について：

- オイル粘度表示の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-20 の 20 は、オイル粘度の硬さを示しています。粘度の高いオイルは高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

銘柄※	容量 [L] (参考値)	
	ガソリン エンジン	インバーター
弊社純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30% -12 ℃ 濃度 50% -35 ℃	11.4	1.9

※ 使用するクーラントの品質により、車の寿命は著しく左右されます。車には、最も適した弊社純正クーラントのご使用をおすすめします。弊社純正クーラント以外を使用される場合は、弊社純正クーラントに相当する品質のものをご使用ください。

トランスミッション

銘柄※	駆動方式	容量 [L] (参考値)
弊社純正オートフルード WS	FF (前輪駆動)	4.6
	AWD (4 輪駆動)	▶ フロント 4.6 ▶ リヤ 1.8

※ 使用するオートフルードの品質により、車の寿命は著しく左右されます。車には、最も適した弊社純正オートフルードのご使用をおすすめします。弊社純正オートフルード以外を使用される場合は、弊社純正オートフルードに相当する品質のものをご使用ください。

ブレーキ

■ ブレーキフルード

銘柄※

弊社純正ブレーキフルード 2500H

※ 使用するブレーキフルードの品質により、車の寿命は著しく左右されます。車には、最も適した弊社純正ブレーキフルードのご使用をおすすめします。弊社純正ブレーキフルード以外を使用される場合は、弊社純正ブレーキフルードに相当する品質のものをご使用ください。

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 2
踏み込んだときの床板とのすき間※	103

※ 500 N (51 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値 (回数)
踏みしろ 操作力 300 N (31 kgf) のときのノッチ※数	5 ～ 8

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチツ” という音）のことです。

ウォッシャー

容量 [L] (参考値)

4.8

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ		ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの 空気圧 kPa (kg/cm ²)
標準 タイヤ	235/60R18 103H	18 × 7 1/2J	230 (2.3)
	235/55R19 101V	19 × 7 1/2J	
応急用 スペア タイヤ	T165/90D18 107M	18 × 4T	420 (4.2)

電球（バルブ）

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドライト ハイビーム（バルブタイプ：HB3） ロービーム	60 LED※
	車幅灯	5
	フロントフォグライト（バルブタイプ：H11）	55
	フロント方向指示兼非常点滅灯	21
	サイド方向指示兼非常点滅灯	LED※
	リヤ方向指示兼非常点滅灯	21

電球		W (ワット) 数
車外	制動灯	LED ※
	尾灯	5
	後退灯	16
	リヤフォグライト*	21
	ハイマウントストップライト	LED ※
	番号灯	LED ※
	ドアミラー照明	5
車内	バニティライト	8
	フロントインテリアライト	5
	リヤインテリアライト	8
	フロントパーソナルライト	LED ※
	リヤパーソナルライト	LED ※
	シフト照明	LED ※
	スカッフプレート照明*	LED ※
	ドアカーテシー照明	5
	足元照明	3.8
	グローブボックスライト	LED ※
	コンソールボックスライト	LED ※

※ LED は、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

車両仕様

名称	型式	エンジン	電動機型式	駆動方式
RX450h	GYL15W	2GR-FXE (3.5L ガソリン)	フロント： 4JM リヤ： 2FM	AWD（4 輪駆動）
	GYL16W	2GR-FXE (3.5L ガソリン)		
	GYL10W	2GR-FXE (3.5L ガソリン)	4JM	FF（前輪駆動）

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

ユーザーカスタマイズ機能一覧

車には、設定を変更することが可能な数多くの装備がついています。レクサス販売店で作動などをご希望の設定に変更することができます。

また、マルチインフォメーションスイッチや、ナビゲーションシステムの画面操作により設定を変更することができる機能もあります。

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはレクサス販売店へお問い合わせください。

車両カスタマイズ設定をする

マルチインフォメーションスイッチを操作して、車の装備の設定を変更することができます。※

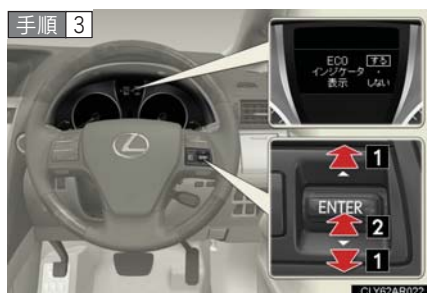
車両のカスタマイズを行うために、安全に操作することができる場所に停車し、シフトレバーをPの状態にしたうえで、パーキングブレーキをかけます。



マルチインフォメーションスイッチのメニュースイッチを長押しすると、カスタマイズモードが表示されます。



- 1 ENTER スイッチを上下させてカスタマイズしたい項目を選択
- 2 ENTER スイッチを押す



1 ENTER スイッチを上下させてカスタマイズする項目の設定値を選択

2 ENTER スイッチを押す

カスタマイズ設定を終了する場合はメニュースイッチを押し、カスタマイズ設定画面を終了します。

※ナビゲーション画面でのカスタマイズ設定の操作は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

車両カスタマイズ設定一覧

- 1** ナビゲーションシステムの画面操作で設定変更可能
- 2** マルチインフォメーションスイッチの操作で設定変更可能
- 3** **1** の操作が不可能な場合にマルチインフォメーションスイッチの操作で設定変更可能
- 4** レクサス販売店で設定変更可能

項目	機能の内容	初期設定	変更後	1	2	3	4
ドアロック (→P. 63, 370)	メカニカルキーによる解錠	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	○	—	—	○
	車速感应式ドアロック	あり	なし	○	—	○	○
	シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠	なし	あり	○	—	○	○
	シフトレバーを P にしたときの全ドア解錠	あり	なし	○	—	○	○

項目	機能の内容	初期設定	変更後	1	2	3	4
ドアロック (→P. 63, 370)	運転席を開けたときの全ドア解錠	なし	あり	○	—	○	○
スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスドアロック (→P. 51, 61)	作動の合図（ブザー）	レベル 7	OFF ～ レベル 6	○	—	○	○
	作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし	○	—	○	○
	解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	○	—	○	○
			120 秒				
スマートエントリー&スタートシステム (→P. 51)	解錠ドアの選択	全席	運転席	○	—	○	○
	スマートエントリー&スタートシステム	あり	なし	○	—	○	○
ワイヤレスドアロック (→P. 61)	解錠時の操作	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドアのみ解錠、連続 2 回で全ドア解錠	○	—	○	○
パワーバックドア (→P. 67)	バックドアオープンスイッチでの作動	なし	あり	—	—	—	○
ライト自動点灯・消灯システム (→P. 200)	ライトセンサーの感度調整	標準	-2 ～ 2	○	—	○	○
イルミネーション (→P. 252)	消灯までの時間	15 秒	OFF	○	—	○	○
			7.5 秒				
			30 秒				
	ドアミラー照明の点灯時間	15 秒	OFF	○	—	○	○
			7.5 秒				
			30 秒				

項目	機能の内容	初期設定	変更後	1	2	3	4
イルミネーション (→P. 252)	メーター等の明るさを、周囲にあわせ自動減光するセンサーの感度	標準	-2 ~ 2	○	—	—	○
	自動減光したメーター等の明るさを元にもどすセンサーの感度	標準	-2 ~ 2	○	—	—	○
	足元照明の点灯	あり	なし	—	—	—	○
	接近時のドアミラー照明の点灯	あり	なし	—	—	—	○
エアコン (ナビゲーションシステム取扱書参照)	AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない	○	—	—	○
	AUTO スイッチを ON にしたとき、A/C (エアコン) スイッチが連動して ON になる	する	しない	○	—	—	○
	排ガスセンサーの感度	標準	-3 ~ 3	○	—	—	○
	エコドライブモード時のエアコン制御	する	しない	—	—	—	○
パワーイージーアクセスシステム (→P. 84)	降車時の運転席シート移動量調節	標準	OFF	○	—	○	○
			-1				
エコドライブインジケータランプ (→P. 157)	エコドライブインジケータランプ	ON	OFF	—	○	—	○

項目	機能の内容	初期設定	変更後	1	2	3	4
マルチインフォメーションディスプレイ (→P. 189)	降車時窓閉め提案	する	しない	—	○	—	○
クリアランスソナー (ナビゲーションシステム取扱書参照)	リヤセンターセンサー報知距離	遠い	近い	○	—	—	○
	ブザーの音量	3	1～5	○	—	—	○
	表示の切りかえ (ノーマルクリソナ時)	すべて表示	ソナー表示なし	○	—	—	○
パワーウィンドウ (→P. 105)	ドアキー連動開閉機能	あり	なし	—	—	—	○
	ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	—	—	—	○
ムーンルーフ (→P. 109)	ドアキー連動開閉機能	あり	なし	—	—	—	○
	ワイヤレスリモコン連動開閉機能*	なし	あり	—	—	—	○

* : ワイヤレスリモコンでのパワーウィンドウ開閉が可能でなければ設定できません。



知識

■以下の状態になるとカスタマイズモードが自動的に終了します。

- カスタマイズモード画面表示後に警告メッセージが表示された。
- “パワー” スイッチがOFF になった。
- カスタマイズモード画面表示中に走行し始めた。

警告

■カスタマイズを行うときの警告

ハイブリッドシステムを始動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素 (CO) により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**注意****■ カスタマイズを行うときは**

補機バッテリー上がりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

さくいん

略語一覧..... 400

五十音順さくいん 401

症状別さくいん 413

ハイブリッドさくいん 416

次の装備は、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

- ・ GPS ボイスナビゲーション
- ・ エアコン・デフォッガー
- ・ バックガイドモニター
- ・ クリアランスソナー
- ・ ETC システム
- ・ オーディオ&ビジュアル
- ・ リヤウィンドウデフォッガー&ミラーヒーター

アルファベット略語一覧

アルファベット略語	カタカナ表記
ABS	アンチロックブレーキシステム
AFS	アダプティブフロントライティングシステム
AI-SHIFT	アーティフィカルインテリジェンスシフト
AWD	オールホイールドライブ
DISP	ディスプレイ
ECO	エコノミー／エコロジー
ECU	エレクトリックコントロールユニット
EDR	イベントデータレコーダー
EPS	エレクトリックパワーステアリング
ETC	エレクトロニックツールコレクション
FF	フロントエンジンフロントドライブ
HUD	ヘッドアップディスプレイ
LED	ライトエミッティングダイオード
PCS	プリクラッシュセーフティシステム
SRS	サプリメンタルレストレイントシステム
TRC	トラクションコントロール
VDIM	ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント
VSC	ビークルスタビリティコントロール

あ	アームレスト.....	271
	アクセサリコンセント.....	266
	アクセサリソケット.....	266
	アクティブスタビライザー サスペンション.....	230
	足元照明.....	252
	アダプティブフロントライティング システム.....	201
	アンチロックブレーキシステム.....	230
い	EVドライブモード.....	174
	イグニッションスイッチ.....	166
	イベントデータレコーダー.....	22
	イモビライザーシステム.....	120
	イルミネーテッドエントリー システム.....	252
	インストルメントパネル 照度調整スイッチ.....	183
	インテリアライト スイッチ.....	253
	インナーミラー.....	98

う	ウインカー W数.....	390
	スイッチ.....	179
	電球の交換.....	298
	ウインドウ ウォッシュャー.....	205
	パワーウインドウ.....	105
	ウインドウロックスイッチ.....	105
	ウインドシールドデアイサー※	
	ウォーニングライト.....	334
	ウォッシュャー 液の補給.....	323
	スイッチ.....	205
	タンク容量.....	389
	冬の前の準備・点検.....	247
	運転 寒冷時の運転.....	247
	正しい姿勢.....	127
	手順.....	156
	運転席シートベルト 非着用警告灯.....	336

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

え

AUX※

エアコン※

エアコン・デフォッガー※

エアバッグ

SRS エアバッグ 129

一般的な警告 134

お子さまのための注意 134

カーテンシールドエアバッグに

関する警告 134

カーテンシールドエアバッグの

作動条件 131

改造・分解 137

警告灯 335

サイドエアバッグに

関する警告 134

サイドエアバッグの作動条件 ... 131

作動条件 130

正しい姿勢 127

配置 129

エコドライブモード 172

エネルギーモニター 192

エレクトリック

パワーステアリング 230

エンジン

エンジンがかからない 366

エンジン警告灯 335

エンジンルームカバー 297

オーバーヒート 378

ハイブリッドシステムの

始動方法 166

パワー（イグニッション）

スイッチ 166

ボンネット 292

エンジンオイル

冬の前の準備・点検 247

容量 386

お	応急用タイヤ	
	空気圧	390
	スペアタイヤ	355
	オーディオ※	
	オートアラーム	121
	オートマチックトランスミッション	
	S モード	175
	シフトレバーが	
	シフトできない	368
	トランスミッション	171
	オートレベリングシステム	202
	オーバーヒート（エンジン）	378
	オープナー	
	給油口	116
	バックドア	67
	ボンネット	292

お子さまの安全のために	
ウインドウロックスイッチ	105
エアバッグに関する警告	134
お子さまのシートベルト着用	93
シートベルトコンフォート	
ガイド	91
シートベルトに関する警告	94
チャイルドシート	146
チャイルドシートの固定	146
チャイルドプロテクター	64
電子キーの電池に関する	
警告	322
電動サンシェードに関する	
警告	115
バックドアに関する警告	72
バッテリーに関する警告	376
パワーウィンドウに	
関する警告	108
ムーンルーフに関する警告	112
オドメーター	182

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

か	カーテンシールドエアバッグ	129
	カードキー	46
	外気温表示	192
	回生ブレーキ	28
	カスタマイズ機能	392
	カップホルダー	258
	環境にやさしく経済的な 運転のしかた	44
き	キー	
	キー	46
	キーナンバー	46
	キーレスエントリー	61
	キーを無くした	369
	電子キー	46
	電子キーが正常に働かない	370
	“パワー” スイッチ	166
	メカニカルキー	46
	ワイヤレスドアロック	61
	給油口	116

緊急時の対処	
エンジンがかからない	366
オーバーヒートした	378
キーを無くした	369
警告灯がついた	334
警告メッセージが表示された ...	338
けん引	330
故障したときは	326
シフトレバーが	
シフトできない	368
車両を緊急停止する	384
スタックした	383
電子キーが正常に働かない	370
ハイブリッドシステムが	
始動できない	366
発炎筒	328
パンクした	355
補機/バッテリーがあがった	373
緊急ブレーキシグナル	231, 238

<	空気圧 (タイヤ)	390
	区間距離計	182
	曇り取りスイッチ※	
	クルーズコントロール	
	クルーズコントロール	211
	レーダークルーズ	
	コントロール	215
	グローブボックス	256

け	計器	
	メーター	182
	メーター照度調整スイッチ	183
	警告灯	
	SRS エアバッグ	335
	アンチロックブレーキ	
	システム	335
	エンジン	335
	シートベルト非着用	336
	充電	334
	燃料残量	336
	パワーステアリング	335
	半ドア	336
	プリクラッシュセーフティ	
	システム	335
	プリテンショナー	335
	ブレーキ	335
	ブレーキアシスト	335
	マスターウォーニング	336
	警告表示	338
	警告ブザー	
	シートベルト非着用	336
	半ドア	336
	ブレーキ	334
	化粧用ミラー	265
	けん引	330

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

こ

交換

タイヤ	355
電球	298
電子キーの電池	321
ヒューズ	308
工具	355
コーションラベル	33
後退灯	
W 数	390
電球の交換	298
高電圧ケーブル	33
高電圧部位	33
コートフック	272
コンソールボックス	261
コンライト	
(自動点灯・消灯装置)	200

さ

サービスプラグ	36
サイドエアバッグ	129
サイドモニターシステム	100
サンシェード	
ルーフ	110, 114
サンバイザー	264

し

シート

シートポジションメモリー	84
正しい姿勢	127
チャイルドシートの固定	146
調整	77, 80
調整に関する警告	79, 83
手入れ	286
ヘッドレスト	88
シートベルト	
お子さまの着用	93
緊急時シートベルト固定機構	92
シートベルト警告灯	336
シートベルト	
ブリテンショナー	92
清掃・手入れ	286
正しい着用	90
チャイルドシートの固定	146
調整	90
妊娠中のかたの着用	93

室内灯	
スイッチ	253
事故が発生したときは	37
シフト照明	252
シフトレバー	
シフトレバーが	
シフトできない	368
トランスミッション	171
シフトロックシステム	368
車高調整	
電子制御エアサスペンション ...	224
ジャッキ	
ガレージジャッキ	295
車載ジャッキ	355
ジャッキハンドル	355
車幅灯	
W 数	390
電球の交換	298
ライトスイッチ	200
車両型式	391
車両仕様	386
収納装備	255
助手席シートベルト	
非着用警告灯	336

す	水温計	182
	スイッチ	
	イグニッションスイッチ	166
	ウインドウロックスイッチ	105
	パワー（イグニッション）	
	スイッチ	166
	ドアロックスイッチ	63
	ハザードライトスイッチ	327
	パワーウインドウスイッチ	105
	非常点滅灯スイッチ	327
	フォグライトスイッチ	203
	マルチインフォメーション	
	スイッチ	189
	ライトスイッチ	200
	ワイパー&ウォッシャー	
	スイッチ	205
	スイッチモード	
	AFS	189
	EV ドライブモード	189
	エコドライブモード	189
	クリアランスソナー※	
	スノーモード	189
	スタック	
	スタックした	383
	ステアリングホイール	
	調整	96
	ハンドルポジションメモリー	84
	スピードメーター	182
	スペアタイヤ	
	空気圧	390
	収納場所	355
	スペック	386
	スマートエントリー&スタートシステム	
	ドアの施錠・解錠	51

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

	ハイブリッドシステムの始動 ... 166		
	バックドアの施錠・解錠 51		
せ	清掃	ち	チェーン (タイヤチェーン) 247
	外装 282		チェンジレバー
	シートベルト 286		シフトレバーが
	内装 286		シフトできない 368
	積算距離計 182		トランスミッション 171
	洗車 282		チャイルドシート
	前照灯		ISOFIX バーでの固定 147
	W 数 390		シートベルトでの固定 147
	スイッチ 200		チャイルドプロテクター 64
	電球の交換 298		駐車ブレーキ 180
そ	速度計 182	つ	ツール 355
た	タイヤ	て	DC/DC コンバーター 33
	空気圧 390		ディスプレイ
	交換 355		エネルギーモニター 39
	スペアタイヤ 355		警告メッセージ 338
	チェーン 247		トリップインフォメーション ... 192
	点検 289		レーダークルーズ
	パンクした 355		コントロール 215
	冬用タイヤ 247		手入れ
	ローテーション 289		外装 282
			シートベルト 286
			内装 286
			テールランプ
			スイッチ 200
			電球
			W 数 390
			交換 298
			電子キー
			電池が切れた 370
			電子制御エアサスペンション 224
			電動サンシェード 114
			電話スイッチ※

と	ドア	
	ドアガラス	105
	ドアミラー	100
	ドアロック	51, 61, 63
	ドアカーテシーライト	252
	ドアガラス	105
	ドアポケット	257
	ドアミラー	
	調整	100
	ミラーポジションメモリー	84
	ドアミラー照明	
	W 数	390
	ドアミラー照明	252
	盗難警報アラーム	121
	盗難防止システム	
	イモビライザーシステム	120
	オートアラーム	121
	トークスイッチ※	
	ドライビングポジションメモリー	84
	トラクションコントロール	230
	トランスミッション	171
	トリップメーター	182

な	ナビゲーションシステム※	
	ナビブレーキアシスト	230
に	荷物	
	積むときの注意	245
ね	燃料	
	給油	116
	種類	386
	燃料計	182
	容量	386
は	パーキングブレーキ	180
	パーソナルライト	
	スイッチ	253
	“パワー” スイッチ	166
	ハイブリッドシステム	
	ご使用になるにあたって	
	(高電圧・高温について)	33
	始動方法	166
	始動できないときは	366
	ハイブリッドシステムの特徴	28
	ハイブリッド車運転の	
	アドバイス	44
	ハザードライトスイッチ	327

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

発炎筒	328
バックアップライト	
W 数	390
電球の交換	298
バックドア	67
バッテリー	
バッテリーがあがった	373
冬の前の準備点検	247
バニティミラー	265
バニティライト	
W 数	390
バニティライト	265
バルブ	
W 数	390
交換	298
パワーイーजीアクセスシステム	85
パワーウィンドウ	105
パワーコントロールユニット	33
パワーバックドア	67
パンク	
パンクした	355
ハンドル	
調整	96
ハンドルポジション	
メモリー	84

ひ

ピークルスタビリティ	
コントロール	230
ピークルダイナミクス	
インテグレイテッド	
マネージメント	230
非常点滅灯スイッチ	327
尾灯	
スイッチ	200
ヒューズ	308
表示灯	186
ヒルスタートアシスト	
コントロール	230

ふ	フォグライト	
	W 数	390
	スイッチ	203
	電球の交換	298
	フック	
	けん引フック	330
	コートフック	272
	冬用タイヤ.....	247
	プリクラッシュセーフティ	
	システム	238
	ブレーキ	
	緊急ブレーキシグナル....	231, 238
	パーキングブレーキ.....	180
	ブレーキ付近からキーキー音が	
	聞こえる	160
	ブレーキアシスト	230
	フロアマット.....	273
	フロントシート	
	シートポジションメモリー	84
	調整	77
	フロントターンシグナルライト	
	W 数	390
	フロントフォグライト	
	W 数	390
	スイッチ	203

へ	ヘッドアップディスプレイ	196
	ヘッドライト	
	W 数	390
	スイッチ	200
	電球の交換	298
	ヘッドレスト	
	調整	88
ほ	ホイール.....	289
	方向指示灯	
	W 数	390
	スイッチ	179
	電球の交換	298
	ホーン.....	181
	ボンネット.....	292
ま	窓閉め提案モード	193
	マルチインフォメーション	
	ディスプレイ.....	189
み	ミラー	
	インナーミラー.....	98
	ドアミラー	100
	バニティミラー.....	265

む ムーンルーフ 109

め メーター

インストルメントパネル

照度調整スイッチ 183

メーター 182

メモリーコール機能 85

メンテナンス

メンテナンスデータ 386

ゆ USB ※

ら ライト

W 数 390

室内灯 252

電球の交換 298

ドアカーテシーライト 252

パーソナルライト 253

ハザードライト 327

バニティライト 265

非常点滅灯 327

フォグライト 203

ヘッドライト 200

方向指示灯 179

り リモートタッチ※

リヤウインドウデフォッガー&

ミラーヒーター※

リヤシート

調整 80

リヤターンシグナルライト

W 数 390

電球の交換 298

リヤフォグライト

W 数 390

スイッチ 203

電球の交換 298

れ 冷却水

冬の前の準備・点検 247

容量 388

冷却装置

エンジンオーバーヒート 378

レーダークルーズコントロール 215

わ ワイパー

スイッチ 205, 208

ワイヤレスドアロック

電池交換 321

リモコン 61

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

症状別さくいん

症状別さくいん



タイヤがパンクした

P. 355 パンクしたときは



ハイブリッドシステムが始動しない

P. 366 ハイブリッドシステムが始動できないときは

P. 120 イモビライザーシステム

P. 373 補機バッテリーがあがったときは



シフトレバーが動かない

P. 368 シフトレバーがシフトできないときは



水温計の針が赤いゾーンに入った

P. 378 オーバーヒートしたときは



エンジンルームから蒸気が立ちのぼった



キーを無くした

P. 369 キーを無くしたときは



補機バッテリーがあがった

P. 373 補機バッテリーがあがったときは



ドアが施錠できない

P. 51
P. 61
P. 63 ドア



ホーンが鳴り出した

P. 121 オートアラーム



ぬかるみや砂地などで動けなくなった

P. 383 スタックしたときは



警告灯が点灯、点滅した

P. 334 警告灯がついたときは



■警告灯一覧



ABS& ブレーキアシスト
警告灯 P. 335



充電警告灯 P. 334



ブレーキ警告灯 P. 334



運転席シートベルト非着用
警告灯 P. 336



ブレーキ警告灯 P. 335



助手席シートベルト非着用
警告灯 P. 336



燃料残量警告灯 P. 336



マスターウォーニング P. 336



SRSエアバッグ/プリテン
ショナー警告灯 P. 335



パワーステアリング警
告灯 P. 335



半ドア警告灯 P. 336



PCS 警告灯 (点滅) P. 335



エンジン警告灯 P. 335



スリップ表示灯 P. 335



AFS 警告灯 (点滅) P. 335



警告音が鳴った

■警告灯の点灯、点滅、またはマルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージを確認ください。

- 警告灯が点灯、点滅している (→P. 334)
- 警告メッセージが表示されている (→P. 338)

■警告灯の点灯、点滅や、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージの表示がないとき、または車外で警告音が鳴ったときは、以下のことを確認ください。

お車の状況	鳴ったときの状況	参照ページ
停車／駐車中	ドアを開けたとき	P. 55
	車外に出たとき	
	スマートエントリー&スタートシステムでロックスイッチを押したとき	
走行中	シフトレバーを R にしたとき	P. 176
	シフトダウンしたとき	P. 176
	レーダークルーズコントロールを使っているとき	P. 215

ハイブリッドシステムについての解説

- ハイブリッドシステムの特徴 -----P. 28

ハイブリッドシステムについての注意事項

- ご使用になるにあたって
(高電圧・高温について) -----P. 33
(駆動用電池冷却用吸入口について) -----P. 34

運転のしかた

- 運転にあたって ----- P. 156
- ハイブリッドシステムの始動方法 ----- P. 166
- トランスミッション ----- P. 171

環境に配慮した経済的な運転

- ハイブリッド車運転のアドバイス -----P. 44

事故が起きたときは

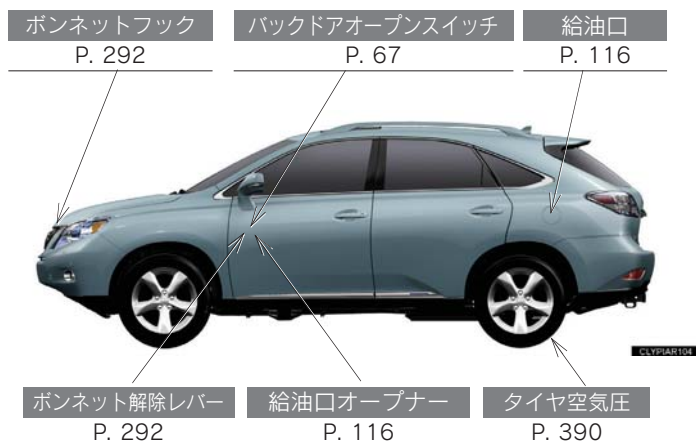
- 事故が発生したときの警告 -----P. 37

ハイブリッド特有の説明がある項目

■ 計器類 -----	P. 182
■ 表示灯／警告灯 -----	P. 186
■ マルチインフォメーションディスプレイ -----	P. 189
■ ボンネット -----	P. 292
■ エンジンルームカバー -----	P. 297
■ けん引について -----	P. 330
■ ハイブリッドシステムが始動できないときは -----	P. 366
■ 補機バッテリーがあがったときは -----	P. 373
■ オーバーヒートしたときは -----	P. 378

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。



燃料の容量 (参考値)	65 L	
燃料の種類	無鉛プレミアムガソリン (無鉛ハイオク)	P. 386
タイヤが冷えているときの空気圧	標準タイヤ : 230 (2.3) kPa (kg/cm ²) 応急用タイヤ : 420 (4.2) kPa (kg/cm ²)	
エンジンオイル容量 (参考値)	オイルのみ交換時 : 5.7 L オイルとフィルター交換時 : 6.1 L	
エンジンオイルの種類	弊社純正モーターオイル	P. 386

「個人情報保護方針」については、<http://lexus.jp> にて掲載しております。

